第拾壹條　事故アリテ他室（病院ヲ除ク）ヘ移轉セシメントスルトキハ其旨屆出認可ヲ受クヘシ

第拾二條　入院若クハ鎖錮中死亡シタルトキハ醫師ノ死亡屆ヲ副ヘ速ニ屆出ヘシ

第拾三條　解鎖セントスルトキハ醫師ノ診斷書ヲ副ヘ出願允許ヲ受クヘシ

第拾四條　警察官吏ハ鎖錮ノ瘋癲人全治シタル歟又ハ瘋癲人ニアラスト認定スルトキハ相當醫師ニ鑑定セシメタル上解鎖ヲ命スルヿアルヘシ

第拾五條　本則（第二條第六條第七條第九條第十三條第十四條第十六條ヲ除ク）ニ違背スル者ハ違警罪ノ刑ニ處セラルヘシ

第拾六條　本則ノ願屆ハ管轄警察署ヘ差出スヘシ

但警察署宛ト爲シ便宜管轄分署ヘ差出スヿヲ得

第二欵　瘋癲人取締規則取扱手續

○本甲第二十四號　明治十九年二月十七日　警察署

瘋癲人取締規則取扱手續別紙之通相定メ候條此段相達候也

但十六年本甲第百五十二號通達及此手續ニ抵觸スル從前ノ指令等ハ之ヲ廢止ス

瘋癲人取締規則取扱手續

第一條　瘋癲人ヲ鎖錮センヿヲ願出タルトキハ願意ヲ審按シ若シ疑ハシキ廉アルトキハ事實ヲ探偵シ且其鎖錮スヘキ場所ヲ檢査シ許否ス可シ其他室ヘ移轉セシメンヿヲ願出タルトキ亦本條ニ準ス

第二條　前條ニ依リ許可シタル鎖錮室落成ノ上ハ之ヲ檢査シ若シ不堅牢ノケ所アル乎又ハ衞生上害アリト認ムルトキハ其部分ヲ改造若クハ修築セシム可シ

第三條　醫療ニ依ラスシテ救治ノ法ヲ施サンヿヲ願出タルトキハ其場所及方法等ヲ審按シ許可ス可シ

但神佛ノ加護ニ托シ加持祈禱若クハ符呪等ヲ爲シ又ハ其方法危險或ハ不正ニ涉ルモノハ許可スヘカラス

第四條　前條ニ依リ許可シタルトキハ願人幷ニ患者ノ住所氏名且場所及救治ノ方法等ヲ摘記シ現場所轄警察署又ハ分署ヘ通知ス可シ

第五條　第一條第三條ニ依リ許可シタル瘋癲人及私立病院ヘ入院シタル瘋癲人ハ適宜名簿ヲ製シ之ヲ登記シ且加除ヲ嚴ニシ視察ノ用ニ供ス可シ

第六條　自宅鎖錮ニ係ル瘋癲人ハ毎月三回以上其私立病院ニアルモノハ毎月一回警部同補又ハ專務巡査ヲシテ視察セシムヘシ

但專務巡査ノ設ケナキ署ニアリテハ通常巡査ヲシテ視察セシムルヲ得

第七條　前條ノ視察員ハ室内及取扱上萬般ニ注意シ若シ不都合ノ廉アルヲ發見セシトキハ懇篤説諭ヲ加ヘ之ヲ止メシム可シ其再度規則ニ違背スル者アルトキハ署長ヘ申告スヘシ

但私立病院ニ於テ本條ノ不都合アルモ説諭スルノ限リニアラス其事實ヲ詳記シ署長ヘ申告スヘシ

第八條　署長ニ於テ前條ノ申告ヲ受ケタルトキハ其事實ヲ審按シ時宜ニ依リ本人ヲ召喚シ説諭ヲ加ヘ又ハ相當處分ス可シ

第九條　醫療ヲ止メンコトヲ屆出タルトキハ醫師ノ鑑定書ヲ審按シ若シ疑ハシキ廉アルトキハ他ノ醫師ヲシテ尚ホ鑑定セシメ可否ス可シ

第十條　鎖鋼ノ瘋癲人死亡シタル旨屆出タルトキ警察署ハ內勤警部同補分署ハ分署長若クハ代理者遠ニ出張シ檢視ヲ爲ス可シ然シテ通常病死ハ調書ヲ作ルニ及ハスト雖モ其疑ハシキモノハ之ヲ作ルヘシ

第十一條　鎖鋼ノ瘋癲人ヲ解鎖セントスルトキハ醫師ノ診斷書ヲ審按シ其全治シタルモノニ限リ許可ス可シ

第三款　路上ニ於テ瘋癲人取押ヘタルトキ引渡方

警察署

○本甲第百號　明治十七年八月廿六日

路上其他ニ於テ瘋癲人アルヲ取押ヘタルトキハ在籍分明ナル者ハ該家人ヘ其分明ナラサル者ハ監獄署ヘ引渡ス可シ此段及通達候也

○本甲百十六號　明治十七年十月廿三日　警察署

本年本甲第百號通知ニ依リ瘋癲人ヲ監獄署ヘ引渡候トキハ其時々當府衛生課ヘ通知候樣可取計此段及通知候也

○本甲第八十三號　明治十八年八月廿六日　警察署

近頃各署ヨリ監獄署ニ交付候瘋癲人ノ中眞實發狂人ニアラスシテ一時糊口ノ困難ヨリ其風体ヲ爲シ或ハ性魯鈍ニシテ事理ヲ辨知セサル者等間々有之趣ニ有之候條爾後此邊篤ト取調失當無之樣取計フヘシ此段及通達候也

第四款　死傷人檢視心得

○本甲第五十四號　明治十八年五月廿二日　警察署

死傷人檢視心得別紙之通相定候條此段及通達候也

但此心得ニ關スル從前ノ通達及指令ハ本日限リ廢止ス

死傷人檢視心得

第一條　此規則ハ縊死溺死漂着等單純ナル檢視ヲ爲ス場合ニ適用スルモノトス故ニ本條ノ場合ナリト思料スルトキハ以下各條ニ依リ處分スヘシ

第二條　死傷者アルトキハ警部直ニ巡査ヲ引卒現場ニ出張シ所轄戶長醫員並證人ヲ立會ハセ檢視スヘシ

第三條　巡査ヲ必要トセサル場合ハ之ヲ引卒セサルモ妨ナシ又腐爛ノ死屍ニ係ルトキハ醫員ノ立會ヲ要セサルヘシ

第四條　屆出人アルトキハ死體及其現場ノ摸樣等變更セサル樣其本人ヘ口達スルモノトス又時宜ニ依リ直ニ巡査ヲ派遣シ取締ヲ爲サシム可シ

第五條　檢視ハ其死傷者ヲ先ツ見認メタル人ニ就テ其景況ヲ尋聽シ而シテ之ヲ檢視スルヲ要ス

第六條　檢視ハ頭髮ノ間ヨリ手足ノ末ニ至ル迄全体漏スヿナク之ヲ檢査シ逐一調書ニ記入スヘキモノトス若シ疑ハシキ廉アラハ醫員ニ質問スヘシ

第七條　檢視ハ總テ檢視官ノ見込ニ任スヘシト雖モ就中左ノ諸項ニ注意スヘシ

一　死傷ノ場所及器具
二　身體疵所ノ摸樣及變色
三　毛髮ノ結束紛亂ノ摸樣
四　眼口鼻耳ノ摸樣及開閉
五　開閉又ハ合掌ノ摸樣
六　齒舌咽喉ノ摸樣及哺物ノ有無
七　胸腹部ノ摸樣
八　陰部及肛門ノ摸樣
九　靜姿及指ノ屈伸
十　疵傷ノ縱横深淺ノ寸尺

第八條　遺書等アルトキハ之ヲ領收シ其信僞ヲ審判スルハ勿論ナリト雖モ若シ親族等ヨリ下附ヲ請フトキハ其者ヲシテ直ニ謄寫セシメ而シテ本書ヲ下附スヘシ

但本人文字ヲ知ラサル歟又ハ其他ノ事故ニ依リ謄寫スルヿ能ハサルトキハ他ノ者ヲシテ謄寫セシメ本人ト共ニ署名捺印セシムルモノトス

第九條　身體中疵傷アルトキハ體圖ニ照シ記入スヘシ

第十條　死傷者ハ醫員ヲシテ鑑定セシメ其鑑定書ヲ徵スヘシ

第十一條　証人ハ一人毎ニ逐一審問シ調書ヲ作ル歟又ハ答書ヲ徵スヘシ

但答書ハ檢視官ノ官氏名ヲ宛記載セシムルモノトス

第十二條　死者ハ人相書ヲ作リ着用衣類携帶物品ハ其紙尾ニ記入スヘシ

第十三條　檢視ニ關スル書類ハ其綴目並ニ字句ノ改竄塗抹及記入ノケ所ニハ必ス本人ヲシテ捺印セシムヘシ

第十四條　檢視終リタル後死傷者ハ其家人親族等ヘ引渡スヘシ其住所遠隔又ハ不分明若クハ引取人ナキトキハ其地戸長ノ處分ニ任スヘシ

但死傷者ヲ引渡シタルトキハ總テ受書ヲ徴スヘシ

第十五條　戸長ヨリ住所不分明ナル死屍撿視調書ノ謄本ヲ請求スルトキハ之ヲ交付スヘシ

第十六條　總テ徴收シタル書類ハ撿視調書ニ添付スヘシ

撿視調書

明治何年何月何日午前後何時何分何郡區何町村何番地士族平民何某ヨリ何郡區何町村何所ニ溺死(縊死或ハ行倒)人有之旨屆出候ニ付(又ハ巡査何某ヨリ何郡區何町村何所ニ縊死溺死或ハ行倒人有之旨報告ヲ受ケ)迅速巡査何某ヲ引卒現塲ヘ出張シ同町村戸長醫員並ニ証人ヲ立會セ撿視スル左ノ如シ

一　何々、、、、、、、、、、、、、、、、

一　何々、、、、、、、、

一　何々、、、、、、

一　何々、、、、、、

一　何々、、、、、

一　何々、、、、、

一　何々、、、、

右撿視ヲ終リ此調書ヲ作リ立會人ト共ニ署名押印スルモノ也

何郡區何町村(何某宅)ニ於テ

年号月日

何署詰　官　氏名　印

立會人　巡査　何某　印

何町村戸長　何某　印

第五款　行旅病人

○本甲第百十七號　明治十六年六月廿八日　各署

警察官吏ニ於テ行旅病人アルコトヲ知リ若クハ戸長ヨリ申告シタル塲合ハ其容体ヲ視察シ一時ノ救護ニ止マラサル者ハ現塲地戸長ヘ引渡シ救護セシムル義ト心得ヘシ此段及通達候也

但明治十五年十二月本甲第三百九十六號通達ハ廢止ス

㊙乙第九十四號　明治十六年七月三日　郡區役所戸長役塲

行旅病人重症又ハ饑餓ニ瀕スル者所轄警察署又ハ分署ヘ報告シタルトキ或ハ警察署又ハ分署ニ於テ直ニ見留メタルトキ該官撿察一時ノ救護ニ止マラサル者ハ戸長ヘ可引渡筈ニ候條戸長ニ於テ相當救護取計其費用ハ本人又ハ原籍戸長ヘ照會シ家元ヨリ辨償セシムヘク若シ無籍ニ皈スル者ノ如キハ事由ヲ詳記シ其都度申出ヘシ此旨相達候事

第六欵　棄兒及迷兒

○本甲第十八號　明治十九年二月五日　警察署（水上署ヲ除ク）

棄兒拾揚ケ之レニ命名シ預リ人或ハ貰請人ノ定リタルトキ又ハ其預リ人ヲ換ヘ或ハ住所ヲ移轉シタルトキハ戸長ヨリ其都度棄兒ノ氏名及預リ人又ハ貰請人ノ住所氏名ヲ詳記シ所轄警察署ヘ報告スルヿニ決議相成候ニ付豫テ名簿ヲ調製シ其報告アル都度之ヲ加除シ然シテ常ニ注意査察スヘシ此段相達候也

警察課

●明治八年十二月

迷子届方ノ儀ニ付別紙ノ通區戸長ヘ相達候ニ付テハ以來右ノ趣届出候節ハ各警察署ニ委細聞取ノ上失主ヘ渡方等ノ取計可致此段相達候事

●地第百四十七號　明治八年十二月十二日　區戸長ヘ

子弟ヲ見失ヒ迷子トナストキハ其失主ヨリ直ニ最寄警察署ヘ區名住所姓名其外衣類等巨細口上ヲ以テ届出可申亦迷子ヲ見當ル時ハ其子ヲ携ヘ最寄會議所ヘ可曳渡會議所ニ於テハ其子ノ人相衣類等見認最寄警察署ヘ可申出此旨各區内ヘ無漏可相達候事

○本乙第三十七號　明治十六年四月廿六日　市中各署

迷子ニシテ自家ノ町名番地等ハ詳知スルモ歸家道筋ヲ失念シ市街ニ彷徨スル者有之節ハ自今巡回巡査ニ於テ其道筋ヲ聞取リ派出所傳遞ヲ以テ該家ヘ送リ届ケ候樣可致此段及通達候也

第七款　幼年輩游泳

●諭第五號　明治十七年七月十四日

夏季炎熱ノ候ニ方リ毎年無智幼年ノ徒前後ノ思慮ナク游泳ニ耽リ爲ニ溺死スル者不尠ヲ以テ是迄數々告諭警戒セシ次第モ有之候處本年モ仍ホ炎熱ノ候ニ際シ幼稚者ノ已ニ溺死セシモノ往々有之赴相聞候右ハ畢竟父兄ノ怠リニ出ルモノニ付自今必ス注意シ幼年ノ子弟ヲシテ漫リニ游泳セサル樣篤ク戒諭スヘシ

警察署

○本甲第八十九號　明治十七年七月十八日

幼年之輩游泳ニ耽リ溺死候者不少趣キ相聞ヘ候ヨリ今般諭第五號ヲ以テ取締方其父兄ヘ告諭相成候處右溺死スルカ如キハ職トシテ父兄ノ不注意ヨリ生スル儀ニハ候得共亦行政警察ノ周到ナラサルニ原因スル儀ニモ可有之候條尙巡回巡査ニ於テモ精密注意シ其保護者ナクシテ游泳スルモノヲ見認候節ハ説諭速カニ上陸候樣取計ハシム可シ此段及通達候也

警察署

第六章　遺失物規則取扱手續

○本甲第百十九號　明治十八年十二月十二日　第二四部　警察署

遺失物規則取扱手續別紙之通相定メ候條此段及通達候也

但本年本甲第五十五號及本乙第四十二號通達ハ消滅之義ト心得ヘシ

別紙

遺失物規則取扱手續

第一條　區部警察署（天王寺會根隨警察署モ之レニ包含ス以下倣之）ニ於テ遺失物ヲ受理シタルトキハ本署第二部ニ送付シ該部ニ於テハ物品領置並ニ處分等ノ取扱ヲ爲スモノトス又那部警察署ニ在テハ受領及處分等一切ノ取扱ヲ爲スヘシ

第二條　遺失物ヲ拾得ヲ訴出ルトキハ先其物質摸樣數量等ヲ取調若シ貨幣ナルトキハ其眞贋等精密ニ調査シ之ヲ領收シ後日處分ノ節紛擾ナキヲ要ス

第三條　前條ニ依リ領收シタル物品ハ別紙受領証受渡証納付証欄内ヘ雛形ノ通其物質摸樣數量種類等ヲ詳細列記シ契印ヲ捺シ之ヲ切斷シテ受領証ヲ拾得人ヘ下附シ屆書ヲ徵スルニ及ハス

第四條　其物質粗惡（破レ提灯古籠古桶古甕古木屑ノ類）ニシテ用ニ耐ヘサル歟又ハ粗品ニシテ價直ヲ有セサルモノト見認ル歟若クハ些少ノ金錢ナルトキハ一ケ年ヲ經過シ物主知レサルトキ該物品請求スルノ念慮アルヤ否ヲ尋問シ若シ請求ノ念慮ナシト答フルトキハ受領証ヲ下附セス該証及納付証ヘ請求ノ念慮ナシト朱書シ取扱

者訴人ト連書捺印スヘシ

第五條　所轄外遠隔ノ者ニシテ遺失物ヲ拾得訴出ルトキハ一ケ年内ニ歸鄉スルヿアレハ處分ノ際差支ナキ樣代理人ヲ立テ屆出ヘキ旨示達スヘシ

第六條　拾得物品中長大ニシテ領置ニ不便ナル歟又ハ破損シ易ク若クハ耐久シ難キモノハ便宜公賣シテ其代價ヲ領置スヘシ

第七條　領置シタル物品拾得金品明細簿ヘ雛形ノ如ク記載シ且ツ物品ハ成ヘク一纏ニ取束ヲ拾得ノ年月日番號幷ニ得者ノ氏名ヲ本牌ニ記シ之ヲ附シ散亂セサル樣注意スヘシ

第八條　領置シタル金錢壹圓以上若クハ物品中其價額壹圓以上ノモノト見認ルトキハ第一號書式ニ依リ之ヲ其署ノ掲示所ヘ三十日間廣告スルモノトス又分署ニ在リテハ一面本屬警察署ヘ申報シ其申報ヲ受クル警察署ハ本條ノ例ニ依リ取扱フヘシ

但掲示ヲ必要ト見認ルトキハ價額壹圓以下ト雖モ本條ニ從フモノトス

第九條　區部警察署ニ於テ物品ヲ本署第二部ヘ送附スルトキハ受渡證及納附證ヲ副ヘ然シテ受渡證其雛形ノ欄ヘ受取人ノ證印ヲ受ケ置クモノトス其郡部各分署ニ在テハ三十日間領置シ第八條ニ從ヒ廣告シ仍ホ遺失者不分明ナル場合ハ區部警察署ノ例ニ倣ヒ本屬警察署ヘ送付ス可シ

但分署ニ於テ運搬不便ナルモノハ書類ノミヲ送付シ該物品ハ其署ヽ領置スルヲ得

第十條　區部警察署又ハ郡部警察分署ニ於テハ前條ニ依リ納付濟ノ受渡證ヲ順次ニ番號ヲ逐ヒ拾得物根帳ヘ貼付シ置クヘシ

但分署ニ於テ送付セサル物品又ハ送付シタル物品ニ係ルトキト雖モ本屬警察署ハ便宜處分案ヲ付シ分署ニ於テ物品ヲ下付セシムルヿヲ得

第十一條　郡部警察署ニ於テ領收シタル遺失物品ノ内拾圓以上ノ金錢又ハ拾圓以上ノ價額アルモノニシテ三十日間廣告シ物主不分明ナルトキハ拾得月日時及種類摸樣個數等ヲ詳記シ速ニ本署第二部ヘ報告スヘシ

第十二條　本署第二部ニ於テ前條ノ報告ヲ受ル歟又ハ區部警察署ヨリ領收シタル遺失物品ノ内拾圓以上ノ價額アルモノ又ハ拾圓以上ノ金錢ハ第二號書式ニ依リ府下著用ノ新聞紙二種ヘ三日宛廣告スヘシ

第十三條　前條廣告ニ依リ該物品遺失ノ旨物主ヨリ申出タルトキハ其遺失セシ月日時場所及種類摸樣個數等ヲ詳記シ本署第二部ヘ報告スルモノトス該部ニ於テ本條ノ報告ヲ受レハ速ニ相當ノ取扱ヲ爲スヘシ

第十四條　本署第二部ニ於テハ區部警察署ヨリ郡部警察署ニ於テハ直ニ領收シタルモノ及所屬分署ヨリ送付セシ納付證ヲ一署毎ニ拾得物根帳ヲ區分シ順次番號ヲ逐ヒ之ヲ貼附シ置クヘシ

但根帳ヘ貼附スルハ一葉二件ヲ限ルモノトス

第十五條　本署第二部ニ於テハ區部警察署ヨリ送付シタル物品ノ内其價額五圓以上ノモノ又ハ五圓以上ノ金錢及人力車其他持主ニ於テ必要ト思料スヘキ物品ハ之ヲ掲示報告簿ニ記載シ區部各警察署ヘ受附タル署ヲ除ク報告シ其報告ヲ受ケタル警察署ニ於テハ第八條ノ例ニ依リ之ヲ廣告スヘシ

但分署アル警察署ハ其所屬各分署ヘ通報シ本條ニ從ヒ廣告セシムルモノトス

第十六條　郡部警察署ニ於テ直ニ領收シタルモノ又ハ所屬分署ノ申報ニ係ルモノニシテ前條ノ物品アルトキハ所屬各分署受附タル署ヲ除ク及必要ト思料スル場合ハ接近警察署及ヒ分署ヘ通報シ其通報ヲ受ケタル警察署分署ハ第八條ニ依リ廣告スヘシ

第十七條　領置シタル物品中書類其他著シキ摸樣記號等アリテ物主發見手懸リアルトキハ區部警察署ニ領收シタルモノハ本署第二部ニ於テ郡部警察署又ハ分署ニ領收シタルモノハ其警察署ニ於テ遺失屆書ト照合シ又ハ諸官衙ニ照會シテ物主ヲ取調フヘシ

但公債証書ナルトキハ所有者ノ判然スルト否トニ拘ハラス其拾得ノ顛末及

十九年本甲第三十六號ヲ以追加

該証書ノ種類番號金高記名ノ分ハ其所有者等ヲ詳記シ他ノ管轄ニ係ルモノハ現証書ヲ副ヘ速ニ本署第二部ヘ報告スルモノトス

第十八條　各警察署ニ於テ領收シタル埋藏物品中古代ノ沿革ヲ徵スルモノ又ハ御陵墓或ハ古墳等ノ疑ヒアルモノハ其地景及土地ノ摸樣並ニ口碑流傳等詳細取調且ツ圖面ヲ副ヘ長官ヘ上申スヘシ

第十九條　前條ノ上申アリタルトキ本署第二部ニ於テハ十年內務省甲第二十號布達十三年宮內省乙第三號達ニ依リ其筋ヘ進達ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十條　領置シタル物品一ケ年內物主知レタルトキハ事實取調ノ上遺失屆或ハ物主ノ証明書ヲ徵シ遺失物規則ニ照シ處分案ヲ作リ警部長又ハ署長ノ決議ヲ經テ第三號書式ノ處分書ヲ付シ納付證裏面ヘ物主並ニ拾得者ノ受印ヲ徵シ受領證ヲ返納セシメ物品ヲ下附スヘシ

第廿一條　領置シタル物品ノ內若シ其幾部分物主知レタルトキハ前條ノ手續ニ從ヒ處分書ヲ付シ双方連署ノ請書ヲ徵シ其物品ノミヲ下付シ受領證並納付證ヘ其旨記入シ取扱者ノ檢印ヲ捺シ受領證ハ猶ホ拾得人ヘ下付シ納付證ハ根帳ヘ貼付シ置クヘシ

第廿二條　區部警察署又ハ郡部各分署ニ於テ領收シタル物品未タ納付セサル前物主知レタルトキハ前二條ノ手續ニ從ヒ其署長ノ決議ヲ經テ之ヲ處分シ納付證並遺失屆或物主ノ證明書其他ノ書類ヲ添ヘ本署第二部又ハ本屬警察署ヘ送付スヘシ

第廿三條　領收シタル物品一ケ年內ニ物主知レサルトキハ遺失物規則ニ照シ處分案ヲ作リ警部長又ハ署長ノ決議ヲ經テ物品ヲ下付シ納付證裏面ヘ拾得者ノ受印ヲ徵シ受領證ヲ返納セシムヘシ

第廿四條　請求ノ念慮ナキ物品金錢ハ一ケ年經過ノ後官沒又ハ棄損スヘシ

第廿五條　警察官吏ノ拾得物其他物主知レスシテ官沒スヘキモノハ本署第二部ハ每月郡部警察署ハ三ケ月每ニ之ヲ取調ヘ警部長又ハ署長ノ決議ヲ經テ公賣スヘシ

但落札人ヨリ物品ノ代價ヲ詳記シタル落札請書及落札金上納證書ヲ徵シ郡部警察署ハ之ヲ第二部ヘ送付スルモノトス

第廿六條　郡部警察署ニ於テハ公賣及官沒金ニ第四号書式ノ仕譯書ヲ副ヘ速ニ本署第二部ヘ送付スルモノトス又該部ニ在テハ每年四月十五日十月十五日ノ両度ニ前六ケ月間全部及郡部警察署ニ於テ公賣幷ニ官沒シタル金ヲ合集シ仕譯書ヲ作リ公賣代價納證書落札証書及官沒金ハ取扱主任ノ納金證書ヲ副ヘ第四部ヘ送付シ全部ニ在リテハ本府會計課ヘ交附ノ手續ヲ爲スヘシ

第廿七條　第二十條第二十一條ニ依リ處分シタル納附證遺失屆或ハ證明書請

書等ハ甲號遺失物處分濟編冊ニ第廿三條ニ依リ處分シタル納付證及決議書等ハ乙号遺失物處分編冊ニ第廿四條第廿五條ニ依リ處分シタル納付證及決議書等ハ丙号遺失物處分編冊ニ綴ルヘシ

第廿八條　遺失物取扱ニ關スル簿冊ハ左ノ如シ

拾得物受渡帳
拾得物根帳
遺失屆編冊
甲號遺失物處分濟編冊
乙號仝
丙號仝
掲示報告簿
公賣金官沒金仕譯書編冊
拾得金品明細簿

第壹號書式

一金何圓何拾錢　但紙幣又ハ貨幣
一何品何箇
一仝仝仝

右何郡區何町村ニ於テ拾得屆出シ者有之心當リノ者ハ速ニ申出ヘシ

何警察署
何々分署

年　月　日

第二號書式

一金何圓何拾錢　但紙幣又ハ貨幣
一何品何箇
一仝仝仝

右何郡區何町村ニ於テ拾得屆出シ者有之心當リノ者ハ最寄警察署ヘ申出ヘシ

大阪府警察本署

年　月　日

第三號書式　用紙ハ通常小訳紙

遺失主　何ノ誰

一金何圓何拾錢
一何品何箇
一同同同同
外ニ何点

右何ノ誰拾得屆出有之處其方ノ遺失品ニ付遺失物取扱規則何條ニ依リ還付候條拾得主ヘ費用(並報勞金)可差遣候事

警察本署又
何警察署

年　月　日

第四號書式　用紙ハ通常小罫紙

官沒遺失物公賣金(或ハ官沒金)仕譯書

一金何錢何厘

是ハ何年何月何日警部全補又ハ巡査何某巡回中拾得スル金又ハ何品外何點賣拂代金

一金何錢何厘

是ハ前同斷何某ノ拾得スル金又ハ何品何點賣拂代金勘計金何圓何拾錢

右ハ遺失物一ヶ年間領置候處事主不分明ナルヲ以テ官沒セシ金及公賣ノ上代金及御送付候也

年　月　日

何警察署長

警部　何　某　印

本署第二部御中

表

第何號　拾得品受領證

一金何拾圓何拾錢　一何品　何個

但何札　何拾錢　但何色或ハ何々、、

何　何　枚　、、、、、、、

何鋼貨　何拾枚　一何　何　々

何　何　枚　、、、、、、、

、、、、、、、

何拾何點

一何縞(何形付)綿入袷單男女物一枚

但裏何々襟何々袖口何々

又ハ何所ニ何々ノ印付其

他何々、、、、、、、

一何衣　一　枚

但何々、、、、、、、

、、、、、、、、

前記ノ物品正ニ領證候條後日處分ノ節此證持參可致事

明治十何年何月何日

何警察署　署印

表書之物品及送付候也

何警察署

(何々分署)　印

(何)警察(本)署

御中

表書之物品御下付相成正ニ受取候也

明治十年何何月何日

宿所　宿所認方表面ニ全シ

拾得者　何　某　印

宿所　仝

上

遺失者　何　某　印

遺失物拾得者心得

第一條　表書之物品一ケ年内ニ其主ナキトキハ得者ニ給スル因テ得者ハ其拾得セシ當日ヨリ一ケ年ヲ經過シタル後ナ一ケ月間内ニ市中警察署ヘ届置シ分ハ警察本署ヘ郡中警察署ヘ届置シ分ハ其署ヘ此証持參物品ヲ受取ルヘシ

第二條　一ケ年内主アレハ全還スヘスト雖モ得者ハ報勞ノ爲其物償百分ノ五ヨリ少カラス二十ヨリ多カラサル金員ヲ品主ヨリ受ルヿヲ得ヘシ

第三條　拾得タル物品中長大ニシテ領置不便ナル者又ハ破損シ易キ者若クハ耐久シ難キ者其主不分明ノ者ハ公賣シテ其代償ヲ以テ現員ト看做シ領置シテ處分スルヿアルヘシ

第四條　逸走スル家畜類ヲ得タルトキハ八日内ニ其主ナケレハ官之ヲ公賣シ其費用ヲ償ヒ仍剩除ノ金員ハ官ニ領置シテ處分ス

第五條　拾得ノ物品盜難ニ係ルモノハ本例ノ限ニアラズ

六條　拾得者他管ニ轉籍セントスルカ若クハ一時出坂中ノ者ニテ歸國セントスル等ノ節ハ後日處分ノ爲代理人ヲ立テ爰ニ届置タル警察署ヘ届置クヘシ

第七條　滿期處分ノ際ニ於テ失踪又ハ死亡スル時ハ其遺族又ハ相續人ニ給與スヘシ若シ遺族及相續人ナキトキハ之ヲ官没ス

第八條　此証書ヲ火災盜難若クハ遺失等セシ時ハ速ニ其警察署ニ届出書換ヲ乞フヘシ

第何號　拾得品　受渡扣

此所記入方

何々品始外何ト記載ス

明治十何年何月何日

主任　㊞

受領

明治十何年何月何日

受取人　㊞

納付

明治十何年何月何日

受取人　㊞

明治十何年何月何日午前何時何十分何郡區何町村何所往來又ハ何々ノ所ニ於テ拾得

宿所　何郡區何町村何番地寄留ナレハ原籍ヲ併記ス或ハ父母男女兄弟姉妹

拾得者　何某

署印

第何號　拾得品納付證　受取人　㊞

此所記入方

受項證ニ記載スルト仝一ニス

拾得日時　明治十年月日午時○於テ

受領　明治十年月日

宿所○　此所記入方ハ受渡扣ト仝一ニス

拾得者

（用紙美濃界紙）拾得金品明細簿

月日	番號	金品	要領	身分	氏名
何月何日	壹	何圓何拾錢	何外何點	巡	何某
何月何日	貳	何拾何錢	何外何點	民	何某
何月何日	三	何拾何錢何厘	何外何點	仝	何某

○事丙第六六五號　明治十九年十月十五日　内務課長ヨリ各署長ヘ照會

從來官没遺失物並ニ賊置捨品公賣ノ節ハ其署ニ於テ現金徴收致來候處閣令第三號ニ依リ各廳ヘ現金收入不相成義ニ付テハ自今落札人ノ受書ノミヲ徴シ御差廻シ相成候ハヽ會計課ヨリ納入ニ對シ納額告知書ヲ發シ納入所在ノ金庫ヘ納付可致義ニ有之候條右樣御取扱有之度此段及御照會候也

追テ物品ノ儀ハ落札人納金之證持參ノ上ニテ引渡スヘキ儀ニ候條此段爲念申添候也

第七章　民事裁判公力執行

○丁第二十一號　明治十五年二月九日　警察本署

各裁判所ヨリ民事ノ呼出ニ應セサル者引致ノ儀照會アルトキハ巡査ヲシテ引致セシム可シ（命狀ヲ以テ拘引スルヲ得ス）難解上不參ノ者ハ引致スルヿヲ得ス此旨相達候事

但本文ニ抵觸スル從前ノ達指令ハ取消候事

○本甲第四十三號　明治十五年二月十八日　各署

司法卿ヨリ左ノ通御達相成候條此段及通達候也

司法省第一〇〇七號　明治十五年二月十三日

民事ノ訴訟ニシテ裁判所ノ召喚ニ應セサル者ヲ引致スルノ慣例ハ固ヨリ刑事上ノ拘引トハ異ナルヲ以テ治罪法施行後ト雖モ依然存在スル者ニ付民事裁判所ヨリ其府警察署ニ對シ照會アルニ於テハ從前ノ通直ニ引致方可取計此旨相達候事

○本甲第百六號　明治十五年四月十五日　各署

大阪始審裁判所ヨリ左ノ通照會有之候條處分方可取計此段及通達候也

民第百五十二號　明治十五年四月十一日

民事裁判ヲ受ケタル義務者執行ヲ爲サヽル節是迄時々御照會及來候處向後當廳命令書ヲ權利者ヘ下付候條右命令書ヲ以テ保護願出候節ハ速ニ相當ノ御處分相成候樣致度此段豫テ各警察署ヘ御通知置有之度候也

○本甲第三百十七號　明治十五年十月七日　各署

民事裁判所ノ言渡ヲ受ケ其裁判確定シタル被告人之財産取調之儀ニ付（吉野宇智郡）長玉置高良ヨリ別紙之通伺出候處朱書ノ通指令相成候條爲心得此段及通達候也

民事上裁判確定言渡ヲ受ケ郡吏又ハ戸長ニ於テ財産取調之際被告人無故其執行ヲ拒テ諾セサルトキ當衙ヨリ所轄警察署ヘ照會ヲ遂ケ巡査ノ派出ヲ求メテ取調ヲ爲スモ不苦候哉

右ハ差掛候件有之相伺候條何分御指揮仰候也

（朱書）　書面伺之通

○本甲第八十九號　明治十八年九月十五日　警察署

民事上裁判執行之義ニ付別紙之通警保戸籍両局長ヨリ通牒有之候條爲心得此段及通達候也

警調乙發第八號　明治十八年九月九日

民事上裁判執行之儀ニ付本年七月廿八日當省甲第二十六號ヲ以テ達相成候處右ハ權利者ヨリ命令書ヲ提供出願スルモノハ如何ナル場合ヲ問ハス都テ警察官ヲシテ執行セシムルノ趣旨ニ無之物品ノ引渡若クハ建造物取毀等ノ如キ公力ニ依リ之ヲ執行セシム可キ事件ヲ指シタルモノニ有之候間右趣旨ニ據リ御取扱相成度此段及御通牒候也

○本甲第五十六號　明治十九年五月一日　警察署

明治十八年九月本甲第八十九號ヲ以相達候民事上裁判執行之義ニ付尚又別紙ノ通警保局長ヨリ通知有之候條爲心得此段相達候也

民事上裁判執行之義ニ付昨十八年九月十日及御通知候次第モ有之候處該文中ノ物品トハ裁判ニ於テ引渡スヘキモノト確定シタル封金公債証書地券預証書等總テ含蓄スル旨趣ニ有之候條此段爲念及御通知候也

（參照）內務省達甲第二十六號明治十八年七月廿八日（警視廳府縣ハ東京府ヲ除ク）

民事上裁判執行ヲ遂ケル者アルトキ權利者ヨリ執行命令書ノ下付ヲ請求スル場合ニ於テハ裁判所ハ嚮ニ權利者ニ下付シタル裁判言渡書寫ノ末尾ニ左式ノ如キ命令書ヲ添付シ契印ヲ捺シ下付スヘキ筈ニ付權利者ニ於テ之ヲ提供シ義務者所轄ノ警察署ニ願出ルトキハ警察官ニ於テ別ニ裁判所ノ照會ヲ須タス直ニ義務者ヲシテ該裁判ノ通執行セシメ候樣可致此旨相達候事

執行命令書

當裁判所ハ誰某ヨリ誰某對スル何々事件ニ付大審院（某控訴裁判所）（某始審裁判所）（當裁判所）ノ與ヘタル此裁判ノ執行ヲ命令スル者也

明治　年　月　日　　某始審（治安）裁判所印

第八章　贋造及描改紙幣取扱

○本甲第五十八號　明治十五年三月九日

贋造貨幣及描改紙幣取扱之儀新法實施以後區々相成居候處右ハ重大之事件ニテ行政上ニモ關係候間處分方其筋ヘ伺中ニ有之候條何分ノ御指令有之迄從前之手續ニテ處分可致此段爲心得相達候也

○本甲第九十號　明治十五年四月六日　各署

贋造貨幣取扱ノ儀ニ付明治九年大藏省甲第十二號布達ニ依リ各警察署ニ於テハ右紙幣ノ原因其他取糺ノ上本署ヘ送附致來候處右ハ急速ヲ要スル儀ニ付一面發見書及ヒ其貨幣ヲ直チニ本署ヘ送致シ一面搜査手續ヲ爲シ後其始末書ヲ

差出スヘシ此段相達候也

百十六

第三編　風俗

第一章　賭博及富

第一欵　賭博犯處分細則

●甲第十八號　明治十七年三月廿一日

賭博犯處分細則左ノ通制定ス

賭博犯處分細則

第一條　賭博犯處分規則ニ依リ懲罰ニ處スル者ハ監獄署ニ於テ服役セシム

第二條　過料ハ三十日以内ニ納完セシム若シ限内納完セサル者ハ金壹圓ヲ一日ニ折算シ懲罰ニ換フ其一圓ニ滿タサル者ト雖モ仍ホ一日ニ折算ス若シ懲罰限内過料ヲ納メタル片ハ其經過シタル日數ヲ扣除シテ懲罰ヲ免ス親屬其他ノ者代テ之ヲ納メタル片亦同シ

第三條　懲罰期限ハ言渡ノ日ヨリ起算シ放免ノ日ハ期限ニ算入セス但他ノ犯罪ト併發シタル場合ニ於テハ懲罰執行ノ初日ヨリ起算ス

第四條　懲罰限内悛改ノ狀アル片ハ其犯由及ヒ悛改ノ情狀等ヲ詳具シ内務卿ノ允可ヲ得テ減免スルヿアルヘシ

第五條　前條減免スルニ至ラサルモノト雖モ仍ホ假リニ懲罰ヲ免シ罰期滿限

十七年甲四十六號ヲ以テ第五條ニ

ヲ追加シ舊第五條以下操下ク

迄取締ニ附スルヿアルヘシ

第六條　懲罰處ニシタル者ハ所犯情狀ニ因リ滿期ノ後一月以上一年以下ノ取締ニ付ス

第七條　取締ニ付セラレタル者ハ左ノ條件ヲ遵守スヘシ

十七年甲四十六號ヲ以第七條中若干字ヲ刪除ス

一　一月二回（十五日前後一回ツヽ）管轄警察署ニ到リ謹慎ヲ表シ取締票ニ認印ヲ受クヘシ但正當ノ事故アリテ警察署ニ到ルヿ能ハサル時ハ其事由ヲ屆出ヘシ

二　酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ到ルヲ許サス

三　住所ヲ移轉シ又ハ旅行一泊以上ニ及フトキハ其管轄警察署ノ許可ヲ受クヘシ

十七年甲四十六號ヲ以但書ヲ追加ス

但懲罰假免ノ者ハ罰期滿限迄他府縣ニ移轉スルヲ許サス

四　旅行券ヲ受ケタルトキハ其券面ニ記載シタル項目ニ從フ可シ

五　他人ヲ同居又ハ寓居セシメントスルトキハ其時々管轄警察署ノ許可ヲ受ヘシ

第八條　假リニ懲罰ヲ免シタル者前條各項ヲ遵守セサルトキハ直チニ殘期ノ懲罰ニ附スヘシ其假免中ノ日數ハ罰期ニ算入スルヿヲ得ス

十七年甲四十六號ヲ以第八條及第九條ヲ追加ス

第九條　懲罰滿期ノ後取締ニ附セラレタル者第七條ノ各項ニ違背シタルトキハ一日以上十日以下ノ拘留又ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第十條　警察官吏ハ時宜ニ因リ取締ニ付セラレタルモノヽ家宅ニ臨檢スルヿアルヘシ

第十一條　第六條取締ニ付シタル者悛改ノ情狀アルトキハ之ヲ免スルヿアルヘシ

十七年甲四十六號ヲ以第十一條ヲ改正ス

●乙第三十一號　明治十七年三月八日　郡區役所

本年第一號布告ニ依リ處分シタル賭博犯懲罰人ノ儀左ノ通心得ヘシ旨其筋ヨリ達有之候條條爲心得此旨相達候事

一懲罰ニ處シタル者徵兵年齡ニ相當スル時ハ右懲罰ノ處分滿期ニ至リ召募ニ應セシムル事

一懲罰ニ處シタル者ハ公權ヲ停止スル限リニアラスト雖ヒ懲罰限內勳章ヲ佩用シ及ヒ後見人管財人若クハ共有財產ノ管理人ト爲ル等ノコトヲ得セシメサル事

一府縣會ノ議員タル者賭博ノ所爲アリ懲罰ニ處シタル時ハ其議員タル資格ヲ失ハスト雖モ議場ニ參列スルヲ許サヽルハ勿論選擧被撰擧權ヲ有スル者モ懲罰限內ハ之ヲ行ハシメサル事

第二款　賭博犯處分手續

●丁第二十七號　明治十七年四月十日　警察本署

賭博犯處分手續左之通相定メ候條此旨相達候事

但賭博犯ニ關スル從前ノ達ハ廢止ス

賭博犯處分手續

第一章　搆成

第一條　賭博犯ハ當分警察本署ニ於テ之ヲ處分ス

第二條　警部長ハ賭博犯處分ヲ幹理ス

第三條　賭博犯ニ關スル事務ハ第三部ノ主管トシ掛員ヲ置ク左ノ如シ

警部

一處分掛

處分ノ請求ヲ受ケ事件ヲ審按シ規則ニ從ヒ罰ヲ擬シ裁決ヲ經テ處斷ス

警部

二檢察掛

犯人ヲ訊問シ處分ヲ請求シ及ヒ其言渡ヲ執行ス

雇吏

三書記

調書及ヒ其他文按ヲ錄シ一切ノ書類ヲ保存ス

第二章　搜査

第四條　第三部長及ヒ各警察署長（分署長モ包含ス）ハ賭博犯ヲ逮捕セシムル爲メ證票ヲ發シ警部巡査ハ常ニ之ヲ携帶スヘシ

第五條　第三部長及ヒ各警察署長ニ於テ賭博犯ト思料スル者アル片非現行犯ニ係ル場合ハ特ニ令狀ヲ發シ逮捕セシム可シ但分署長ハ現行犯逮捕ノ際逃走シタルモノ他日潛匿スルヲ探知シタル片ニ限リ之ヲ發シ其他ハ本屬警察署長ノ指揮ニ從フ可シ

第六條　警部巡査賭博犯ノ逮捕ニ付類別スル左ノ如シ

一博徒ト指稱スル者現ニ處分規則第一條ノ所爲アル者ハ直ニ逮捕ス可シ

二博徒ニアラスト雖ヒ現ニ賭博ヲ爲シテ錢物ヲ利取スル者ハ直ニ逮捕ス可シ

三現ニ賭博ノ所爲アリト雖ヒ眞民一時ノ遊戲ニ出テ日ヲ消シ閑ヲ慰スルニ過キサルモノヽ如キハ當分不問ニ付スヘシ

第七條　賭博犯ヲ逮捕シタル片ハ現場ノ賭具財物ハ戶長若クハ其隣祐二名ヲ立會セ目錄書ヲ作リ押收ス可シ但犯人所持ノ物件ハ本人ヲシテ封印セシメ取揚置クモノトス

第八條　令狀ニ依リ逮捕スヘキ場合ト雖ヒ（指名セサルモノ）勅奏官及ヒ華族帶勳（勳六等以上）勳位（從六位以上）ノ者ニ係ル片ハ住所氏名ヲ取糺シ部署長ニ報告シ部署長ハ其旨具申ス可シ

第九條　賭博犯ヲ逮捕スルハ何人ノ家宅ヲ問ハス何時タリヒ之ニ立入ルヿヲ得ルト雖ヒ外國人及ヒ其居住ノ家宅ニ係ル場合ハ總テ外國人取扱規則ニ依

ル可シ

第十條　本署詰警部巡査ニ於テ逮捕シタル犯人ハ第三部其他ハ所轄警察署又ハ分署ニ引致シ事實ヲ詳記シタル證明書ヲ差出ス可シ

第十一條　各警察署又ハ分署ニ於テ犯人ノ引致ヲ受ケタル片ハ即時訊問シ調書ニ證據物件ヲ添ヘ第三部ヘ送致ス可シ但他ノ犯罪ト俱發シタル片ハ調書ヲ各別ニ作ル可シ

第十二條　前條他ノ犯罪ト俱發シタル片共犯人ノ內賭博ヲ犯サヽルモノアリトモ共ニ第三部ニ送致ス可シ

但賭博ヲ犯サヽルモノ責付シ得ヘキ犯人ニ係ル片ハ此限ニアラス

第十三條　共犯人ヲ甲乙兩署ニ於テ逮捕シ及ヒ軍人軍屬ト常人ノ共犯ニ係ル片ハ調書ニ其旨ヲ附記ス可シ

但軍人軍屬ハ所轄鎮臺若クハ管處ヘ通報スルモノトス

第十四條　證人ノ陳述ヲ必要トスル場合ニ於テハ便宜喚問スルヿヲ得

第三章　處分

第十五條　第三部ニ於テ犯人ノ送致ヲ受ケタル片ハ部長之ヲ檢察掛警部ニ配付ス可シ

第十六條　檢察掛警部前條ノ事件ヲ受ケタル片ハ速ニ犯人ヲ訊問シ懲罰ニ處スヘキモノハ一切ノ書類ニ請求書ヲ添ヘ處分掛警部ニ交付スヘシ

懲罰ニ處ス可カラサルモノト認メタル片ハ警部長ノ指揮ヲ受ケ釋放ス可シ

軍人軍屬ノ賭博犯ハ總テ送致書ヲ添ヘ憲兵屯所ニ交付ス可シ

第十七條　處分掛警部事件ヲ受ケタル片ハ一應訊問シ口供幷斷案ヲ具シ警部長ノ決判ヲ經テ後言渡ヲ爲ス可シ其疑議ニ渉リ及懲罰一年以上ノ者又ハ官吏華族帶勳有位ノ者ニ係ル片ハ長官ノ裁決ヲ受ク可シ

第十八條　刑法及ヒ他ノ法律規則ノ罪ト賭博犯ノ俱發シタル片ハ先ツ懲罰ヲ言渡シタル後ヲ檢察掛警部ニ於テ裁判所ヘ交付ス可シ

第十九條　懲罰ノ言渡ヲ爲シタル片ハ其謄本ヲ添ヘ本人ヲ監獄署ニ交付スヘシ但監視中ノ者懲罰ニ處シタル片ハ滿期ノ後監視ヲ執行スルモノトス

第二十條　過料ヲ懲罰ニ換ヘタル片ハ別ニ言渡ヲ爲サス檢察掛警部之ヲ命ス可シ

第二十一條　懲收シタル過料金若クハ沒入シタル物件ハ速ニ第四部ニ送付ス可シ

第二十二條　既決未決事件表ハ前月分ヲ毎翌月五日限リ統計表ハ毎翌年一月廿日限リ調製シ長官ニ差出ス可シ

第四章　取締

第二十三條　取締ニ付シタルモノハ懲罰ノ終リタル日ヨリ之ヲ起算ス

第二十四條　取締ニ付シタルモノ典獄ヨリ最近警察署ヘ送致ヲ受ケ本人ノ住所々轄外ニ在ル片ハ其居住地ニ到着スル里程ヲ計リ日數ヲ限定シ旅券ヲ付與ス可シ但本條ノ場合ハ言渡書ノ謄本ヲ所轄警察署ヘ郵送スルモノトス

第二十五條　前條及ヒ第廿七條第廿八條ノ旅券ヲ付與シタル片ハ旅券ニ記載スル項目ヲ遵守スヘキ旨ヲ諭示ス可シ

第二十六條　本人居住地ノ警察署ニ於テハ取締期限間遵守スヘキ條項ヲ讀聞セ取締表ヲ下付スヘシ

第二十七條　居住地ヲ移轉スルヿヲ許可シタル片ハ旅券ヲ付與シ及ヒ言渡書ノ謄本ヲ添ヘ轉住地警察署ヘ其事由ヲ通知ス可シ

但懲罰假免ノ者ハ罰期滿限迄他府縣ニ移轉スルヿヲ許サス

第二十八條　一日程ヲ過クル地ニ一泊以上旅行スルヿヲ許可スル片ハ其里程及ヒ先方滯留スル時日ヲ算シ日數ヲ限定シテ旅券ヲ付與ス可シ

第二十九條　取締ニ付シタルモノ住居及ヒ引取人ナク若クハ住所遠地ニアリテ皈着ノ資力ナク監獄署ノ別房ニ留置シタルモノ限内引取人ヲ得ルカ又ハ居住地ニ皈着スルノ資力ヲ得テ出房セシメタル片ハ殘期ノ取締ヲ執行スベシ

十七年丁五十七號ヲ以テ但書ヲ追加ス

第三十條　被監視中取締ニ付シタル者ハ同時ニ之ヲ執行ス可シ

第三十一條　取締中其規則ニ違犯スルカ又ハ他ノ罪ヲ犯シタル片未決已決中ノ日數ハ總テ期限ニ算入セス

第三十二條　此取締ニ於テ里程ヲ算スルハ十里ヲ以テ一日程トス

第三十三條　取締ニ付シタル者規則ヲ謹守シ悛改ノ狀アリト見認ル片ハ警察署長ハ其情狀ヲ詳具シ知事ノ認可ヲ得テ之ヲ免スルヿヲ得

長四寸八分

用紙　仙花

大阪府何々署詰

證票印

警部又巡査氏名

令狀書式（用紙半紙罰紙）

令狀

右ハ賭博犯逃捕ノ爲メ派遣スル者也

官氏名

長五寸二分

年　月　日　署印

大阪府警察本署第三部長
某警察署長又ハ分署長　官　氏　名　印

賭博犯送致書式

送致書

明治何年何月何日巡査氏名ハ何所ニ於テ賭博犯何某々々ヲ現場（命令書ニ因リ）逮捕引致シ證據物件ヲ添ヘ證明書ヲ出セリ因テ訊問スルニ別紙調書ノ通ニ付何某々々ノ所爲ハ賭博犯處分規則第一條第一項（第二項）ニ該ル可キモノト認定スルカ以テ書類幷證據物件ヲ添ヘ更御送致候也

年月日

警察本署第三部長
警部　氏　名　殿

各警察署　官　氏　名　印

一證明書　一通
一調　書　一通
一何　々　何通

證據物件

一何　々　何箇
一何　々　何々

證明書式　證明書

明治何年何月何日時太職巡査氏名何地巡行中何番地何某方ニ多人數相集リ頗ル怪ム可キ模樣アルニ付窃ニ窺フニ果シテ財物ヲ賭シ博奕致居ルヲ以テ仝家ニ進入シ犯人何某々々ヲ取押ヘ現場ニアル金何圓賭具何々ヲ押收シタリ依テ該犯ハ賭博ノ現行犯ナルヿヲ証明ス

年　月　日

何警察署詰
巡査　氏　名　印

犯人訊問書式

訊問調書

明治何年何月何日巡査何某ノ引致セシ賭博犯人ニ對シ訊問スル左ノ如シ

問　汝住所族籍職業氏名年齡ハ如何

答　自分ハ何府何國何郡何町何村何番地平民

何職何某何年何月ニ有之候

問　何々

答　何々

右訊問畢ルヲ以テ此調書ヲ作リ之レヲ犯人何某ニ讀聞セタルニ相違ナキ旨ヲ述ヘ（本職ト共ニ左ニ署名捺印スル者也）（又手署スル能ハサルニ因リ本職其氏名ヲ代書シ共ニ捺印スル者也）

年　月　日

何警察署ニ於テ

警部　氏名　印

犯人　氏名　印

証人調書式

證人陳述書

明治何年何月何日賭博犯何某事件ニ付証人トシテ住所身分氏名ヲ召喚シ左ノ問答ヲ爲シタリ

問　何年何月何日何某何處ニ於テ賭博爲シタルヲ認メタルヤ

答　何々シタルヲ自分認メタルハ確實ナリ

右陳述ヲ錄取シ讀聞セタルニ相違ナキ旨ヲ述ヘ本職ト共ニ左ニ署名捺印スル者也

年　月　日

何警察署ニ於テ

警部　氏名　印

証人　氏名　印

鎮臺又ハ營所ヘ照會書式

何々隊何々

兵卒　氏名

右ハ賭博犯ノ所爲有之年月日何所ニ於テ取押當署ヘ引致候條此段不取敢及御通知候也

年　月　日

大阪府某警察署

大阪鎮臺又ハ何々營所御中

旅券

賭博犯　住所　族籍　氏名　年齢

一此者取締ニ付セラレ何地ニ於テ之ヲ執行スヘキニ付該地ヘ到ル者也

一何年何月何日本地ヲ發途ス

一何年何月何日先方ノ地ニ到ルモノトス

先方ノ地ニ到レハ直ニ其地ノ警察署ニ此旅券ヲ差出スヘキ事

旅行中天災又ハ疾病等ニヨリ已ムヿヲ得ス シテ淹滯シタルトキハ其事由ヲ其地ノ警察署ニ具申シ官吏ノ證書ヲ請ヒ到着ノ日此旅券ニ副ヘ速ニ之ヲ其警察署ニ差出スヘキ事

右賭博犯處分細則第六條ニ依リ下付スル者也

明治　年　月　日　警部　氏名印

大阪府

取締票

何府都町村何郡何區何番地住　又ハ寄留何某子弟妻女同居　士族　平民　何

何年何月生　明治何年何月何年何月

年月日

何年何月何日宜告

何年何月何日満期

何年何月何日起

何年何月何日満

假免懲罰

懲罰刑期

取締何年何月

取締ノ期限間左ノ條件ヲ遵守スヘシ

一一ヶ月二回（十五日前後一回ツヽ）管轄警察署ニ到リ謹慎ヲ表シ取締票ニ認印ヲ受クヘシ但正當ノ事故アルトキハ其事由ヲ屆出ツヘシ

二酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ到ルヲ許サス

三管轄警察署外ニ移轉又ハ旅行一泊以上ニ及フトキハ其警察署ノ許可ヲ受クヘシ

四他人ヲ同居又ハ寓居セシメントスルトキハ其時々管轄警察署ノ許可ヲ受クヘシ

右賭博犯處分細則第六條ニ依リ下付スル者也

明治何年何月何日　警部　何　某印

大阪府警察本署

旅券

賭博犯　　住所

假免懲罰　年月日

懲罰（何年何月日宣告 何年何月日滿期）　族籍

取締（何年何月日起 何年何月日滿）　氏名

一此者何地何某方ヘ旅行スルヿヲ許可ス

一何年何月何日本地發途ス

一先方ノ地（若シ途中滯在スルトキハ其旨ヲ記ス）滯在スル日數何日間トス

一何月何日歸宅スルモノトス

先方ノ地（若シ途中滯在スルトキハ其旨ヲ記ス）ニ到レハ此旅券ヲ直ニ其地ノ警察署ニ出シテ官吏ノ認印ヲ受クヘキ事

旅行中天災又ハ疾病等ニヨリ已ムヿヲ得スシテ淹滯シタルトキハ其事由ヲ其地ノ警察署ニ具申シ官吏ノ証書ヲ請ヒ飯着シタルトキ若シクハ先方ノ地ニ到レハ此旅券ニ副ヘ速ニ之ヲ其警察署ニ示スヘキ事

飯着シタルトキハ此旅券ヲ直ニ還納スヘキ事

右賭博犯處分細則第　條ニ依リ下付スル者也

大阪府

明治　年　月　日　警部　氏名

認印表

一ヶ年	十五日以前	十五日以后
一月	何日出頭印	病氣ニ付不參
二月	旅行中	
三月		
四月		
五月		
六月		
七月		
八月		
九月		
十月		
十一月		
十二月		

認印			
某警察署	何年何月何日	何年何月何日	何ニ村町何番地何某方ニ滞在ス
	何年何月何日	何年何月何日	何ニ村町何番地何某方ニ滞在ス
	何年何月何日	何年何月何日	何ニ村町何番地何某方ニ滞在ス

十七年丁第五十八號ヲ以第二項ヲ追加ス

第三款　賭博犯懲罰限内悛改者取扱方

丁第二十八號　明治十七年四月九日　警察本署

賭博犯懲罰限内悛改ノ狀アル者其他執行取扱方及ヒ他ノ囚徒ト區別之義左之通心得ヘシ此旨相達候事

第一　懲罰限内悛改ノ狀アリト認ムルモノアル片ハ典獄ハ其犯由及ヒ悛改ノ情狀等ヲ知事ニ詳具シ内務卿ノ允可ヲ得テ減免スルヿヲ得

第二　前條悛改ノ狀アリト雖ヒ單ニ減免スヘカラスト認ムル片ハ知事ニ詳具シ假リニ懲罰ヲ免スルヿヲ得

第三　刑法ノ處刑滿期ノ後懲罰ヲ執行スヘキモノニシテ刑期中假出獄ヲ許スヘキ情狀アル者ハ假出獄中ハ懲罰執行ヲ猶豫シ其間監視規則ヲ嚴守シ愈悛改ノ狀アルニ於テハ典獄ハ其情狀ヲ知事ニ詳具シ内務卿ノ允可ヲ得テ懲罰ヲ寛宥スルヿヲ得

第四　懲罰限内逃走シ再ヒ捕ニ就キタル者ハ其逃走中ノ日數ヲ除キ前後ヲ通算スヘシ

第五　逃走シテ再ヒ懲罰ノ言渡ヲ受ケタル者ハ前項ニ照シ執行ノ後更ニ後犯ノ懲罰ヲ執行ス

第六　懲罰ニ處シタル者同時ニ他ノ犯罪發覺シタル片ハ其處刑ノ終リタル後

懲罰ヲ執行ス

第七　懲罰限内他ノ犯罪アリタルトキハ其處刑ヲ終リタル後懲罰ノ殘期ヲ執行ス

第八　刑期限内賭博ノ處爲發覺シ其處分ヲ爲スタメ呼出シタル日數ハ刑期ニ算入ス

第九　取締ニ付シタルモノハ豫メ其住所ヲ定メシメ懲罰ノ終リタルトキ言渡書ノ謄本ヲ添ヘ最近警察署ニ送致ス可シ

第十　取締ニ付シタルモノ住所及ヒ引取人ナク若クハ住所遠地ニアリテ飯着ス可キ資力ナキ時ハ監獄署ノ別房ニ留置シ工業ヲ爲サシメ限内引取人ヲ得ルカ又ハ住所ニ飯着スルノ資力ヲ得タルトキハ前項ニ從ヒ警察署ニ送致ス可シ

第十一　懲罰人ニ貸與スル獄衣ハ標ノミヲ淺葱色トナシ他囚徒ト區別スヘシ

第四欵　賭博犯過料納完方及逮捕シタルトキ取調期限

○本甲第二十九号　明治十九年二月廿五日　警察署

賭博犯處分規則ニ依リ過料ノ言渡ヲ受ケタル者納完之義ニ付別紙之通内務大臣ヨリ訓示相成候條爲心得此段相達候也

兵甲第三四五号　明治十九年一月

明治十七年第一号公布賭博犯處分規則施行以來ノ情況ニ依レハ過料ノ言渡ヲ受ケ之ヲ納完スルノ資力アル者ト雖ヒ往々其金額ヲ納完セス故サラニ換懲罰ヲ受クルモノ不尠然ルニ犯人ノ隨意ニ任セ換罰ヲ受ケシムルトキハ過料ヲ科スルノ趣旨不相立ニ付自今過料ノ言渡ヲ受ケ限内納完セサルモノアルトキハ篤ト其身元取糺全ク無資力者ノ外警察官ヲシテ通常民事ノ規則ニ從ヒ身代限徴収ノ處分ヲ請求セシメ而シテ仍ホ納完スル能ハサル場合ニ於テ始テ換罰ノ處分致スヘシ此旨訓旨候也

○本甲第三十号　明治十九年二月廿五日　警察署

賭博犯ヲ逮捕シタルトキハ本人ノ資力有無ヲ本籍又ハ住居地戸長ニ照會シ其回答書ヲ添ヘ本署ニ送致スヘシ此段相達候也

○本達乙第廿五號　明治十九年九月廿四日　警察署

賭博犯ヲ逮捕シタルトキハ四十八時間内ニ本部第二課ニ送致スヘシ若取調結了セサルモノハ其事由ヲ報告シ引續取調フルヿヲ得ト雖ヒ日數十日ヲ過クルヿヲ得ス

但密賣淫犯モ第二課ニ送致スル各署ハ本文ニ從フモノトス

第五欵　富類似ノ講

●明治二巳年六月

仕法講ノ儀ハ舊來制禁ノ處近頃盛ノ由尤モ甚シキニ至テハ玉講ト唱候仕法ハ博奕ニ等シキ仕法モ有之趣相聞不埒ノ事ニ候此后堅ク可爲停止若シ相犯シ候ニ於テハ加入ノモノマテ屹度咎可申付候事

右ノ通四組町〻無洩相達スル者也

●明治三年三月十七日

去四月中玉講停止之旨及布令置候處此節頼母子講ト名儀唱替專ラ取組致候趣相聞不埒之事ニ候得共此度ハ寛大之所置ヲ以不及玲珠候間早々解講致シ掛金加入人〻割戻シ等致シ故障無之樣可致候以來屹度咎方可申付候且社寺修覆幷身貧之者ハ懇切ヲ以テ聊之講取組遣候儀ハ不苦者也

右之趣四組町中無漏可相布令者也

●明治四年正月

富興行之儀ハ嚴禁ニ候處近來於市中紛ハ敷處業候者有之哉ニ相聞以之外之事ニ候向後右樣之者有之亦ハ富札買取候者ハ屹度當罰可申付候事

右之趣四組町々無漏可相達尤年寄共承知ノ段刻付印形可致者也

●第九十六號　明治七年三月二十八日

神佛教會講社ヲ名トシ舊來頼母子講同樣ノ金錢募立候輩モ有之哉ノ趣相聞以ノ外ノ事ニ候右等ノ所業決シテ不相成候條心得違無之樣堅ク可相守事

右ノ趣管內無漏相達スル者也

●第二百九十二號　明治七年九月廿四日

頼母子ノ名儀ヲ唱玉講富講等博奕ニ等シキ所業ハ舊來ノ通決シテ不相成候得共實義ヲ以テ融通ノ爲メ頼母子取結候義ハ差支無之候條不正ノ一講不取結樣同可相心得事

右ノ趣管內無漏相達スル者也

●甲第五十五號　明治十五年五月廿九日

諸興行場又ハ商賣開店及物品發賣ノ節名ヲ景物ニ藉リ客人〻闔札ヲ與〻富ニ類以ノ所業一切不相成候條此旨布達候事

賣淫

第二章

第一欵　賣淫罰則

●甲第百九號　明治十五年九月廿八日

賣淫罰則左ノ通改正シ來ル十月十五日ヨリ施行候條此旨布達候事

賣淫罰則

第一條　凡ソ密カニ賣淫ヲ爲シ若クハ窩主及ヒ媒合容止スル者初犯ハ三ケ月以內ノ苦使ニ處シ又ハ拾五圓以內ノ過料ニ處ス

其再犯以上ハ六ケ月以內ノ苦使ニ處シ又ハ三拾圓以內ノ過料ニ處ス

十五年甲百二十六号ヲ以罰金ヲ過料ト改正ス

第二條　前條ノ所爲父母若クハ雇主等ノ指令ニ出タル片ハ罰ヲ其指令者ニ科ス

第三條　違犯ノ者責付中逃走シタル片ハ初犯ト雖ヒ再犯以上ノ例ニ照シテ處分ス

保管人故ラニ違犯者ヲ逃走セシメタル者ハ拾五圓以内ノ過料ニ處ス

第四條　過料ハ十五日以内ニ徴收ス若シ無力ニシテ限内完納シ能ハサル者ハ金五拾錢ヲ一日ニ折算シ苦使ニ換フ其五拾錢ニ滿タサル者ト雖ヒ仍ホ一日ニ計算ス

前項苦使ニ換ヘタル本犯又ハ親族其他ノ者代テ過料ヲ納メタル時ハ經過シタル日數ヲ扣除シテ苦使ヲ免ス

第五條　違犯ノ者年七十以上及癈篤疾ニシテ苦使ニ堪ヘサル片ハ留置ニ換フ

第六條　十五年甲百二十六号ヲ以テ删除ス

第二欵　密賣淫取扱手續

○本甲第二百九十六號　明治十五年九月二十八日　各　署

密賣淫取扱手續左之通相定候條此段及通達候也

密賣淫取扱手續

第一條　賣淫罰則ニ觸ル、者ハ大阪市街及ヒ接續町村ハ警察本署其他ハ各警

察署ニ於テ處分ス

第二條　警察官吏密賣淫等ノ行狀アルヿヲ知リ罰則ニ觸ル、者ト思料シタル片ハ其事由ヲ詳記シ其署警部又ハ警部補ニ告發ス可シ

第三條　旅舍割烹店幷ニ寄セ席揚弓場其他男女群集ノ場所等ハ別テ取締ニ注意ス可シ

第四條　賣淫ニ類スル猥褻ノ現跡アル者ハ引致又ハ追喚シ警察署長後來ヲ嚴戒シ其面前ニ於テ第五條ノ名簿ニ記載シ放還ス可シ

第五條　賣淫犯名簿ヲ製シ甲乙部ヲ分チ甲部ヘハ處罰セシ者乙部ヘハ嚴戒ヲ加ヘシ者ノ住所氏名年齡人相等ヲ記載ス可シ

第六條　前條ニ登記シタル者ハ斷ヘス巡査ヲシテ行狀ヲ注意セシメ其處罰セシ者ハ時宜ニ依リ罰則第六條ニ從ヒ其家宅ニ臨檢セシム可シ

第七條　第五條ノ帳簿ニ登記シタル者他ニ移住スル片ハ其地所轄管内警察署ニ通知シ其通知ヲ受ケタル警察署ハ前條ニ從フ可シ

第八條　第二條ノ告發ヲ受ケタル片ハ警部又ハ警部補先ツ調書ヲ錄シ証憑ヲ添ヘ大阪市街ハ警察本署長其他ハ本屬署長ニ其處罰ヲ求ム可シ但犯人ハ責付スルヿヲ得

第九條　郡各分署ニ於テハ前數條ヲ適用ス可シト雖ヒ犯人ノ處罰ハ之ヲ本屬

十五年甲第二百六号ヲ以テ賣淫罰則第六條删除ニ依リ消滅ス

警察署長ニ求メ其筋戒ヲ加ヘタル者アル片ハ速ニ之ヲ報告スヘシ

第十條　郡各警察署長事件ヲ受ケタル片ハ之ヲ審按シ罰則ニ從ヒ處罰ノ言渡ヲ爲スヘシ但犯人言渡ノ謄本ヲ求メタル片ハ之ヲ下附スヘシ

十九年本甲第八十二号ヲ以第十二條刪除

第十一條　告使ニ處シタル者ハ監獄本分署ヘ送致スヘシ

密賣淫告發書式

密賣淫犯告發書

本職儀本日則明治年月日午前時後旅舍檢トシテ何郡何區何町何村何番地宿屋業甲某方ヘ進行シ止宿人名簿ヲ調査シ尋テ各室檢査候處何住所平民某二女町藝妓乙某ヲ記名セス止宿爲致剩ヘ乙某ハ何住所丙某ト同衾致シ居ルヲ以テ直ニ甲某ヲ尋問スルニ何々ト答ヘ乙某ハ何々丙某何々ト答ヘタリ全ク甲某ハ媒合者乙某ハ賣淫ノ所爲ナルヲ以テ兩人引致シ此段告發候也

年月日

警部氏名殿

某警察署詰

巡査　氏　名

名簿雛形

一

年月日起

賣淫犯名簿

某警察署

甲

乙

住所番地身分

職業　氏　年　名

第何號

年月日

罰金何圓ニ處ス

（八相何々）

第何號

年月日

再犯苦使何月ニ處ス

住所番地身分

職業　氏　年　名

第何號

何々ノ所業賣淫ニ類スルヲ以テ年月日嚴戒ス

（八相何々）

賣淫犯移住セシ時所轄署ニ通知書式

通知書

「此通知ヲ受ケタル時ハ賣淫犯名簿ニ登記ス」

住所身分職業

年月日賣淫再犯ノ科ニ依リ苦使何月ニ處ス　何　某

「又ハ年月日何々ノ所爲ニ依リ嚴戒ヲ加フ」　年

右ハ今般其所轉何郡區何町村何番地ニ移住セシニ付密賣淫取締心得第七條ニ從ヒ

及御通知候也

年　月　日

某警察署長　氏　名　㊞

非現行犯拘引令狀書式

住所身分職業

氏　名

年

書式略ス（通常令狀書式ニ從フ可シ）

處罰請求書式

請求書

年月日住所

何某ヘ責付

右ハ密賣淫（又ハ媒合容止ノ）所爲アルモノニ付別紙調書幷ニ証據書類相添ヘ相

當御處分ヲ求メ候也

年　月　日

某警察署詰　警部　氏　名　㊞

署長官氏名殿

處罰言渡書式

言渡書

住所身分職業

氏　名

其方儀年月日何所ニ於テ止宿スルモ賣淫ハ爲サヽル旨申立ルト雖ヒ何某ノ陳

述及ヒ何々ノ証據書類ニ依ル件ハ賣淫ノ所爲アリタルモノト認定ス則チ之ヲ

罰則第一條第一項ニ照スニ何々トアルヲ以テ罰金何圓ニ處スル者也（苦使ニ處スルモノ年七十以上疾篤ノ者ナル件ハ本文處スルノ以下ヲ苦使何ケ月ニ處ス可キ處年七十以上ナルヲ以テ罰則第五條ニ何々トアルニ照シ留置何ケ月ニ處スル者也ト記ス）

某警察署㊞

年　月　日

罰金完納スルヿ能ハサル者苦使ニ換フル命令書式

命令書

住所身分職業

氏　名

年月日ノ賣淫科ニ依リ罰金何圓ニ處シタル所内何圓ノ外納完スル能ハサルヲ以テ罰則第四條何々ニ照シ苦使何日ヲ命スル者也

某警察署長
警部　氏　名　㊞

年　月　日

苦使ノ者監獄本分署ニ送致書式

送　致　書

住所身分職業
氏　名

賣因犯

右ハ別紙寫之通苦使何ケ月ニ處罰候條執行有之度候也

某警察署　㊞

（別紙ハ言渡書寫）

年　月　日

監獄本分署　御中

其二

送　致　書

住所身分職業
氏　名

賣淫犯

右ハ罰金完納スル能ハサルヲ以テ別紙寫之通苦使ヲ命シ候條執行有之度候也

某警察署　㊞

（別紙ハ命令書寫）

年　月　日

監獄本分署　御中

其三

通　知　書

住所身分職業
氏　名

賣淫犯

右ハ罰金完納スル能ハサルヲ以テ苦使ヲ命シ則チ服役中ノ處今般親屬何某ナル者罰則第四條第二項ニ依リ苦使日數ヲ扣除シ罰金完納致シ候條本人ハ來ル何日放免有之度此段及御通知候也

年　月　日

某警察署　㊞

監獄本分署　御中

○本甲第三百七十三号　明治十五年十月廿四日　各　署

違警罪ノ者ニシテ拘留ノ刑ニ處シ其地警察署留置場ヘ拘留スル費用ハ一時各

署經費金ヲ以テ操替置キ毎一ケ月分取纏メ前月分翌月三日限各署差立監獄本署ヘ請求スヘシ

但分署ヨリ警察署ヘ送致スル費用モ亦本文ニ同シ

娼妓幷賣淫犯則者ニシテ一時各署ヘ留置スル費用モ前項ニ依リ娼妓ト賣淫者トヲ區分毎一ケ月分取纏メ前同様本署第四部ヘ請求スヘシ

右及通達候也

○本甲第四百二號　明治十五年十二月廿一日　各　署

賣淫犯處分又ハ嚴戒ヲ加ヘシモノ本上警察署ヨリ通知アリタル片ハ其署ニ於テ取扱手續第五條ヨリ第七條迄ノ手續可取扱此段更ニ及通達候也

第三章　貸座敷

第一欵　貸座敷娼妓取締規則

乙第百八十三號　明治十六年十二月二十六日　郡區役所

貸坐敷娼妓取締規則左ノ通相定メ來ル明治十七年二月一日ヨリ施行シ從前廓貸及ヒ娼妓取締規則ハ同日限リ廢止候條右業体ノ者ヘ可相達此旨相達候事

貸坐敷娼妓取締規則

第一章　・　總則

第一條　貸坐敷ヲ業トスル者ハ別段ノ達ヲ以テ定メタル免許地内娼妓稼ハ貸

十九年達第三百四十六号以テ第二條中十二字ヲ削除ス

十九年達第三百四十六号ヲ以テ第七九條若干字挿入

座敷内ニ限ル可シ

第二條　貸座敷及ヒ娼妓ニ關スル諸願伺届ハ所轄警察署ヘ差出スヘシ但各條ニ於テ特ニ記載シタルモノハ此限ニアラス

第三條　貸座敷業ヲ爲サントスル者ハ其地取締加印戸長ノ奥書ヲ以テ願出鑑札ヲ受ク可シ

第四條　娼妓稼ヲ爲サントスル者ハ事實ヲ詳記シ父母及ヒ最近ノ親戚若シ在ラサル者ハ身元慥ナル証人貳名ト其寄留スヘキ貸座敷主連署シ前條ノ手續ニ從フ可シ但自前ト稱シ自宅ヨリ出稼スルモノハ貸座敷主ノ連署ヲ要セス

第五條　廢業セントスル者ハ其届書ニ取締加印戸長ノ奥印ヲ受ケ仍ホ娼妓ハ前條ノ父母親戚若クハ証人及ヒ貸座敷主連署シ鑑札ヲ返納ス可シ

第六條　改氏名ヲ爲シ又ハ一區域内ニ於テ住所ヲ移轉シ若クハ娼妓ノ貸座敷主ヲ換ヘントスル者ハ前條ノ手續ニ從ヒ鑑札ノ書換ヲ願出ツ可シ若シ他ノ免許地ニ移轉セントスル片ハ現住地廢業ノ上轉地ニ於テ更ニ願出ツ可シ但鑑札遺失毀損ハ本條ニ從ヒ願出ツ可シト雖ヒ戸長ノ奥印又ハ父母親戚等ノ連署ヲ要セス

第七條　貸座敷業ハ一區域毎ニ正副取締ヲ撰定シ其旨所轄警察署ヲ經テ警察本部ヘ届出認可ヲ受ク可シ但認可ノ後ト雖ヒ不適當ノ者ト認ムル片ハ之ヲ

取消スヿアル可シ

第八條　賦金ハ別段ノ達ヲ以テ定メタル徴收規則ニ從フ可シ

第九條　同業者ニ關スル規約ヲ設クルトキハ其區域内一般承諾ノ上所轄警察署ヲ經テ警察本部ヘ認可ヲ受ク可シ

十九年達三百四十六号ヲ以第九條中若干字挿入ス

第十條　此規則ニ違背シ若クハ他人ノ違背ニ因リ犯情牽連シタル者ハ三拾圓以内ノ過料又ハ六ケ月以内ノ苦使ニ處シ仍ホ情狀ニ依リ貸座敷業ハ稼業ヲ停止若クハ禁止シ又ハ單ニ停止禁止ノミヲ言渡シ娼妓ハ鑑札ヲ取上ケ又ハ免許ヲ取消スヿアル可シ

十八年乙百五号ヲ以第十條中追加

第十一條　本則ノ外輕罪以上ニ處セラレタル者ハ犯情ニヨリ稼業ヲ停止若クハ禁止スルヿアル可シ

第十二條　家族又ハ雇人ノ所爲ト雖ヒ渡世上ニ爲シタルヿハ稼業主其責ヲ免ルヽヲ得ス

第十三條　過料ハ十五日以内ニ完納ス可シ若シ無力ニシテ限内完納シ能ハサル者ハ金五拾錢ヲ一日ニ折算シ苦使ニ換フ其五拾錢ニ滿タサルモノト雖ヒ仍ニ一日ニ計算ス但本犯又ハ其他ノ者代テ過料ヲ納メタルトキハ經過シタル日數ヲ扣除シテ苦使ヲ免ス

第二章　貸坐敷（里俗茶屋又ハ屋形若クハ小方ト唱フル者皆包含ス）

第十四條　娼妓トナラントスル者アルトキハ貸座敷主ハ之レト契約ヲ結ヒ其寫ヲ添ヘ出願セシム可シ

第十五條　無謂人ノ子女ヲ貰ヒ受ケ養女若クハ同居ト稱シ娼妓ヲ爲サシム可カラス

第十六條　免許鑑札ヲ持タサル婦女ヲシテ娼妓ニ等シキ所業ヲ爲サシム可カラス

第十七條　娼妓ノ遵守ス可キ規則ハ常ニ敎示シ若シ規則ニ背キ或ハ契約ニ違フモノアルトキハ所轄警察署又ハ分署ヘ申告シ必ス苛酷ノ處置ヲ爲ス可カラス

第十八條　娼妓ニハ聊タリトモ贅賣ヲ出サシメス力メテ正業ニ復セシムル樣厚ク注意ヲ加フ可シ

第十九條　娼妓若シ疾病アラハ速ニ治療ヲ加ヘ癩毒其他傳染病ニ罹ルトキハ相當ノ手續ヲナシ遊客ノ招キニ應セシム可カラス

第二十條　娼妓ニ店ヲ張ラセ又ハ家族雇人等ヲシテ通行人ニ遊興ヲ勸メ若クハ其他ノ者ト謀リ客ヲ誘引スル等ノ所業ヲ爲ス可カラス

第二十一條　婦女ハ遊客ノ同伴タリトモ遊興セシム可カラス但遊客ニ面會ヲ要スル者アルトキハ之ヲ拒ムヿヲ得ス

第二十二條　客ノ需メニアラサル酒食ヲ出シ又ハ藝妓幇間等ヲ招クヲ可カラス

第二十三條　遊興費ノ抵償トシテ客ノ衣類物品ヲ差押ニ可カラス若シ已ムヲ得サル場合ハ本人ヲ所轄警察署又ハ分署ヘ同行シ認可ヲ受ク可シ但其受取タル物品ト雖ドモ後日不正品ナルヿ發顯スルトキハ相當ノ處分ニ從フ可キモノトス

第二十四條　遊客ノ住所氏名年齢等ヲ詳記シ置キ臨時警察官吏ノ檢閲ニ供ス可シ

第二十五條　遊客中不相應ノ金錢物品ヲ所持シ其他不審ノ擧動アルトキハ速ニ警察官吏ヘ密告ス可シ

第二十六條　娼妓死亡又ハ失踪シタルトキハ第五條ノ手續ニ從ヒ其旨屆出ツ可シ但失踪復歸シタルトキモ亦速ニ屆出ツ可シト雖ドモ父母親戚等ノ連署ヲ要セス

第二十七條　娼妓廢業又ハ移轉及ヒ己ムヲ得サル事故アリテ他出セントスル者ハ速ニ其願書ニ連署ス可シ正當ノ事由ナクシテ之ヲ拒ムヿヲ得ス

第三章　娼妓

第二十八條　娼妓ハ滿十五年以上ノ者ニ限リ之ヲ許ス

但事實審査ノ上許可セサルヿアル可シ

十八年乙百五号ヲ以第三十二條中追加

第二十九條　娼妓トナラントスル者ハ戸籍簿寫幷ニ寄寓スル貸座敷主トノ契約書寫及ヒ身體ノ檢査証ヲ添ヘ出願ス可シ

第三十條　娼妓ハ免許ノ期限ヲ滿三ケ年以内トス其期限ノ滿チタル者ハ第五條ノ手續ニ從ヒ鑑札ヲ返納ス可シ但從前許可シタル者ハ本條ノ限ニアラス

第三十一條　前條滿期ノ者ト雖ドモ再ヒ願出ルトキハ許可スルヿアル可シ

第三十二條　既ニ許可シタル娼妓ト雖トモ身體虚弱等ニ係ルモノハ醫ヲシテ審査セシメ廢業セシムルヿアル可シ若シ病氣ニリ罹（梅毒ヲ除ク）又ハ父母兄弟姉妹等ノ病氣看護ノ爲メ一時止業セントスル者ハ貸座敷主連署シテ事故ヲ証明シ取締加印戸長ノ奥印ヲ受ケ出願許可ヲ受クヘシ但出願ノ節ハ鑑札ヲ仮納シ復業ノトキハ下付ヲ請フモノトス

第三十三條　自宅ヨリ出稼スル者ト雖ドモ免許地外ニ住居スルヿヲ許サス

第三十四條　寄寓スル貸座敷主ヲ換ヘントスルトキハ第二十九條ニ從ヒ契約書ノ寫ヲ添ヘ及ヒ他ノ免許地ニ移轉シ更ニ稼業セントスル場合ハ最初受クル許可書ヲ添ヘ願出ツ可シ但其免許ノ期限ハ前後通算シテ定限ヲ超ユルヿヲ得ス

第三十五條　別ニ定ムル規則ニ從ヒ一週日一回身體ノ檢査ヲ受ク可シ

但黴毒傳染ノ兆候アルトキハ期日ニ拘ハラス速ニ治療ヲ受ク可シ

第三十六條　一週日以上休業シ又ハ事故アリテ前條ノ期日ニ檢査ヲ受ケサル者ハ更ニ檢査ヲ受クルニアラサレハ客ノ招キニ應ス可カラス

第三十七條　輒毒其他ノ疾病ニ罹リタルヲ隱匿シテ客ノ招キニ應ス可カラス

第三十八條　客席ニ出ツルトキハ免許鑑札ヲ所持スヘシ但鑑札ノ貸借ヲ禁ス

第三十九條　遊客ヨリ金錢物品等ヲ預リ又ハ貰ヒ受ケ及ヒ第二十五條ノ場合ハ速ニ席主ニ告知ス可シ

第四十條　濫リニ區域外ニ出テ又ハ客ノ誘引タリトテ貸座敷外ニ宿泊ス可カラス若シ已ムヲ得ス他行セントスルトキハ寄寓スル貸座敷主連署取締加印ノ上所轄警察署又ハ分署ヘ願出許可ヲ受ク可シ但宿泊セサルトキニ限リ取締ノ他出券ヲ受ケ他行スルヿヲ得

第四十一條　寄寓スル貸座敷主ニ於テ不當ノ出費ヲ强ヒ又ハ正當ノ事由ナクシテ移轉及ヒ廢業セントスルヲ故障シ或ハ苛酷ノ取扱アルトキハ直チニ警察官吏ヘ申告スルヿヲ得

第四十二條　本則其他娼妓ニ關スル規則違ハ堅ク遵守シ若シ解シ難キ條件ハ席主又ハ取締ニ就キ篤ト教示ヲ受ク可シ

第四章　取締

第四十三條　貸座敷及ヒ娼妓ノ取締ハ以下各條及ヒ警察官ノ命令ニ從ヒ其一區域內同業者ニ關スル諸般ノ事務ヲ取扱フモノトス

第四十四條　取締ノ事故アルトキハ副取締代理スルヿヲ得

第四十五條　取締ハ書役ヲ置キ事務ヲ分擔セシメ又ハ副取締事故アルトキハ代理セシムルヿヲ得但書役ヲ撰定シタルトキハ所轄警察署ヲ經テ警察本部ヘ其旨屆出認可ヲ受ク可シ但認可ノ後ト雖ヒ不適當ト認ムルトキハ之ヲ取消スコトアルベシ

第四十六條　貸座敷及ヒ娼妓ノ開廢業其他諸願伺屆ニ加印ス可シ但娼妓ノ開業若クハ寄寓スル貸座敷主ヲ換ヘトスルトキハ力メテ事實ヲ詳記セシメ詐欺ノ所爲ヲ以テ開業セサル樣注意ス可シ

第四十七條　開業又ハ移轉ヲ願出ツルトキハ取締ニ於テ其者ノ名刺ヲ製シ願書ニ添ヘ差出ス可シ

第四十八條　貸座敷及ヒ娼妓ノ名簿ヲ備置キ增減變換アル毎ニ整理シ犯則シタルトキハ其旨記入シ人員氏名ノ相違ナキヲ要ス

第四十九條　貸座敷娼妓ニ關スル諸規則違ハ速ニ同業者ニ告知ス可シ

第五十條　娼妓ノ揚代金額ハ一區域內同業者協議ノ上之ヲ定メ第九條ニ從ヒ認可ヲ受クヘシ

第五十一條　娼妓外出ヲ乞ヒ宿泊ヲ要セサルモノハ事實ヲ推問シ他出券ヲ附

與スルヿヲ得但其人名ハ一ケ月分ヲ取纏メ翌月五日迄ニ差出ス可シ

第五十二條　娼妓身體檢査ノ日時ニハ檢査所ニ出頭シ各人名ヲ調査シ若シ不參ノ者アル片ハ相當ノ手續ヲ爲ス可シ

第五十三條　此規則ニ違背シタル者アルヿヲ見聞シタル片ハ速ニ警察官吏ヘ申告ス可シ

第五十四條　娼妓開業ニ際シ口入若クハ判人ト唱ヘ不當ノ金錢ヲ貪ル者アル片ハ速ニ其旨申告ス可シ

第五十五條　取締ニ關スル左ノ諸費ハ收支方法ヲ設ケ第九條ニ從ヒ認可ヲ受ク可シ

一　正副取締書役小使ノ給料及ヒ旅費

二　用紙筆墨料

三　規則諸達謄寫料

四　茶薪炭油蠟燭料

五　備付品購求及ヒ其修繕費

六　事務取扱所家賃

第五十六條　諸費支拂ハ毎翌月五日限リ明細帳ヲ製シ稼業者ニ報告ノ後届出ツ可シ

第五十七條　取締並ニ書役等ハ貸座敷及ヒ娼妓ニ關スル事務上ニ付物品ノ餽送ヲ受ケ又ハ第五十五條ノ外出費ヲ促ス可カラス若シ臨時出費ヲ要スル場合ハ第五十五條ノ手續ニ從フ可シ

書式

一願伺届ハ毎葉契印シ及ヒ文字ノ挿入削除アル片ハ認印スヘシ

一規則第三條書式（此願書正副ハ三通ヲ差出スヘシ）

貸座敷開業願

何國何郡區何町村何番地住平民　何　誰

私儀今般貸座敷營業致度候ニ付鑑札御下附被成下度此段願上候也

右

何　誰　印

取締

何　誰　印

年　月　日

右何町村戸長　何　誰　印

前書之通ニ付奥印候也

大阪府何警署署御中

一同上第四條書式（同斷三通テ差出スヘシ）

娼妓嫁業願（養女ニテ娼妓ヲ爲サントルスキハ養實父母共ニ在ラサルモノハ双方親屬連署スヘシ）

何府縣何國何區郡何町村何番地平民

何職業何誰何女（寄留ノモノハ原籍及ヒ寄留地ヲ記ス）

何誰

何年何ヶ月

年月日生

私儀何々（事實ヲ詳記シ及前キニ娼妓稼ヲナシタルモノハ其旨ヲモ記ス）他ニ營業ノ目途無之ニ付親屬協議ノ上府下何國何郡區何町村何番地貸座敷業何某方ニテ娼妓稼致度候ニ付鑑札御下附被成下度戸籍簿寫幷ニ何某トノ契約書寫及ヒ身体檢査證相添此段願上候也

右

何誰印

右同人實父

何誰印

右同人實母

何誰印

（親屬同居ニアラサルモノ又ハ証人ナルトキハ屬籍ヲ記ス）

（同上）

右同人何々（親戚又ハ証人）

何誰印

何國何郡區何町村何番地

貸座敷業

何誰印

取締

何誰印

右町村戸長

何誰印

前書之通ニ付奥印候也

大阪府何警察署御中

契約條件寫

一何々

一何々

一同上第五條書式

何々ノ（契約ノ條件ハ遺漏ナク記載シ毎葉契印スヘシ）

（同斷二通ナ差出スヘシ）

十八年乙六十二号ヲ以娼妓云々ノ制註ヲ削除ス

貸座敷（娼妓）廢業屆

何國何郡區何町村何番地貸座敷業
（何誰方娼妓）
（唱妓ハ原籍ヲ肩書スヘシ）
何　誰

私義年月日第何號免許鑑札願受就業罷在候處今般廢業（廢業ノ上他ニ移シ就業スル者ハ其旨ヲ記ス）致候ニ付鑑札相副此段御屆申上候也

年　月　日

右

何　誰　印
（娼妓廢業ノ時ハ親屬若クハ証人及ヒ席主等連証スヘシ）

取締

何　誰　印

前書之通ニ付奥印候也

右何町村戸長

何　誰　印

大阪府何警察署御中

一同上第六條書式（同斷二通ヲ差出スヘシ）

貸座敷轉住願

何國何郡區何町村何番地
貸座敷業
（又ハ改氏名ニ付鑑札書換願）

何　誰

私義年月日第何號免許鑑札願受就業罷在候處都合有之今般同區域内何町村何番地ヘ轉住（今般何誰ト改名）致度候ニ付鑑札御書換被成下度此段願上候也

右

取締

何　誰　印

何　誰　印

右何町村戸長

何　誰　印

前書之通ニ付奥印候也

大阪府何警察署御中

其二

娼妓移轉願
（同斷三通ヲ差出スヘシ）

（何々原籍）

年月日生

私義年月日第何號免許鑑札願受ケ就業罷在候處今般都合ニ依リ同區域内何町村番地貸座敷業何誰方ヘ移轉之義楷主双方協議相整候ニ付鑑札御書換被成下度何誰トノ契約書寫及ヒ年月日御下付ノ鑑札相添ヘ此段願上候也

右　何誰印

右同人實父屬籍　何誰印

右同人實母屬籍　何誰印

右同人何々（親戚又ハ人）　何誰印

右（從來ノ）貸座敷業　何誰印

（親屬同居ニアラサルモノ又ハ証人ナル片ハ屬籍ヲ記ス）

（同上）

（同上）

當時何國何郡區何町村何番地
貸座敷業何誰方娼妓　何誰
何年何ヶ月

前書之通ニ與付印候也

右（將來ノ）貸座敷業　何誰印
取締　何誰印
右何町村戸長　何誰印

大阪府何警察署御中

其三
娼妓開業願

（同斷三通ヲ差出スヘシ）

何國何郡區何町村番地平民
何職業何ノ誰何女（寄留ノモノハ原籍及ヒ寄留地ヲ記ス）　何誰

私義年月日ヨリ同何年月日迄何國郡區何町村何番地貸座敷業何誰方ニテ娼妓稼罷在候處今般都合ニ依リ廢業ノ上何國何郡區何番地貸座敷業何某方ヘ移轉更ニ開業致度候ニ付鑑札御下附被下度何某トノ契約書寫及身体檢査証並ニ

何年何ヶ月

年月日開業ノ節警察本署又ハ警察署ノ御許可書相添此段願上候也

右　何誰印

年月日

（以下連署其他契約書條件寫ヲ記スル等新規願書式ニ同シ）〔同斷二通ヲ差出スヘシ〕

其四

貸座敷娼妓鑑札書換付與願

何國何郡何區何町何村何番地貸座敷業

〔何誰方何女〕　何誰

私義年月日第何號免許鑑札願受辭業罷在候處年月日（事由ヲ記ス）右鑑札（遺失毀損）致候ニ付御書換（又ハ御下附）被成下度此段願上候也

年月日

右　何誰印

（娼妓ハ席主連署スヘシ）

取締　何誰印

大阪府何警察署御中

一同上第二十四條書式（用紙半紙罫紙）

表紙

年月日起

來客人名簿

貸座敷業　氏名

年月日起

午前後何時	何圓何錢	何府縣何郡何區何町何村何番地	同上寄留又ハ止宿	士族平民何商	氏名年齢	業名
						娼妓某
同上何日午前後何時迄	仝	仝	仝仝	何何	氏名年齢	娼妓某
						娼妓某

何月何日

何々	仝	仝	仝仝	何何	氏名年齢	娼妓某

○第一欄ニハ時間○第二欄ニハ費用金高○第三欄ニハ原籍○第四欄ニハ寄留又ハ止宿所○第五欄ニハ身分職業○第六欄ニハ氏名年齢ヲ記ス娼妓ハ雛形ノ如シ

一仝上第四十條書式

娼妓外出願（同斷ニ逼ナ差出スヘシ）

何國郡區何町村何番地貸座敷業
何誰方娼妓　何誰

私義何々（事故ナ記ス）義ニ付何國何郡區何町村職業何誰方ヘ本月何日出發何月何日歸着可仕候間外出御許可被成下度此段願上候也

年月日　右

何誰印
右貸座敷業
何誰印
取締
何誰印

大阪府何警察署又ハ（何分署）御中

一同上第四十七條名刺雛形

長五寸　巾五分

用紙

仙花

年月日開業出願　何ノ誰

（娼妓ハ業名何々ト記ス）

一仝上第五十一條他出券雛形

長五寸五分　巾四寸

娼妓他出券

用紙

宿泊ヲ許サス

何郡區何町村番地何某方娼妓
業名何々　何誰
年齢

右ハ本日何郡區何町村何某方迄立越度旨申出ルニ付此他出券ヲ附與スルモノ也

但歸着ノ上速ニ返納スヘシ

右町村取締

仙花

年月日時　氏名印

其二　娼妓他出人名届書式

娼妓他出人名

月日	行先	發足歸着時	氏名
何月何日	何郡區何町村何某方	午前第何時發 午後第何時歸	何ノ誰方娼妓 業名何々

※乙第百八十四號　明治十六年十二月廿七日　郡區役所

今般乙第百八十三號ヲ以テ貸座敷娼妓取締規則相達候處當分ノ内左ノヶ所ニ限リ稼業差許候條右業体ノ者〳〵可相達此旨相達候事

摂津國

西區ノ内

新町北通二丁目　新町通一丁目并二丁目　新町南通一丁目并二丁目

裏新町　北堀江上通二丁目并三丁目　北堀江下通二丁目並三丁目　松島中ノ町一丁目並二丁目　松島高砂町一丁目並二丁目　松島花園町

松島十返町

南區ノ内

道頓堀東西櫓町　九郎右衛門町　宗右衛門町　東西坂町　難波新地一番町並二番町三番町四番町

北區ノ内

曾根崎新地一丁目并二丁目三丁目　安治川通上一丁目並二丁目

和泉國

堺區ノ内

榮橋通一丁　龍神橋通一丁二丁　住吉橋通一丁　南半町　南半町東一丁　南旅籠町　南旅籠町東一丁

南郡貝塚ノ内

北ノ町　中ノ町　近木ノ町　南ノ町　海塚新町　西ノ町

河内國茨田郡牧方ノ内
三ッ矢村　泥町村　岡村　岡新町村
大和國
添上郡奈良ノ内
元林院町　木辻町
添下郡々山ノ内
東岡町　洞泉寺町

●乙第百八十九號　明治十六年十二月廿八日　郡區役所

娼妓ヲ寄留若クハ同居（從來置屋又ハ座形ト唱フル類セシムルモノハ貸座敷娼妓取締規則ニ從ヒ取扱候條各業体ノ者ヘ可相達此旨相達候事

●示第二百十八號　明治十六年九月五日

府下人民他府縣下ニ於テ貸座敷及娼妓營業ヲ爲サント欲スルモノハ自今所轄警察署ノ添翰ヲ受クヘシ

但明治十四年五月甲第八十八號布達第六項削除ス尤添翰願書ニハ戸長ノ奥印ヲ受クヘキ儀ト心得ヘシ

廿年一月告示第五号ヲ以テ警察署ノ下分註削除

第二欵　貸座敷娼妓取締規則

●乙第七拾二號　明治十八年六月四日　郡區役所

貸座敷娼妓取締附則別紙之通相定メ本年六月十日ヨリ施行候條右業体ノ者ヘ可相達此旨相達候事

貸座敷娼妓取締附則

第一條　娼妓稼ヲ爲サントスル者ヲ紹介スル者ハ貸座敷業ニ限ルヘシ

第二條　紹介ヲ爲サントスル者ハ大阪市街ハ警察本部其他ハ所轄警察署ヲ經テ警察本部ニ屆出認可ヲ受クヘシ

第三條　紹介人ノ諸願伺屆ハ貸座敷娼妓取締規則第二條ニ從フヘシ

第四條　娼妓稼ヲ爲サントスル者アル片ハ其本籍及該稼ヲ爲スノ事由ヲ聞糺シ不得止者ニ限リ紹介スヘシ

第五條　他府縣ニ於テ娼妓稼ヲ爲サントスル者ヲ紹介シタル片ハ本人添書願ニ連署スヘシ

第六條　紹介手數料ハ規約ヲ以テ之ヲ定メ不當ノ金錢ヲ貪ル可カラス

第七條　紹介人ハ娼妓稼業及移轉願又ハ廢業願ニ連署スヘシ

第八條　紹介者ハ規約ヲ設ケ認可ヲ受クヘシ

第九條　認可ヲ受ケスシテ紹介スル者アル片ハ貸座敷業ハ速ニ其筋ヘ申告スヘシ

第十條　警察本部ニ於テハ紹介者ノ人員ヲ限リ認可スヘシ

但不當ト認ムル片ハ認可ヲ取消スヿアルヘシ

第十一條　此附則（第三條第十條ヲ除ク）ニ違背シタル片ハ貸座敷娼妓取締規則第十條ニ照シ處分ス

十九年乙第本達六十号ヲ以テ第一條中改正

第三欵　貸座敷娼妓取締規則取扱手續

○本甲第七号　明治十七年一月十七日　第三部警察署

貸座敷娼妓取締規則取扱手續左ノ通相定メ候條此段及通達候也

第一條　貸座敷及ヒ娼妓ニ關スル事務ハ以下各條ニ從ヒ特ニ記載スルノ外総テ管轄警察署ニ於テ之ヲ當行ス可シ

第二條　貸座敷業ヲ願出タル片ハ事實ヲ推問シ左ノ項目ニ抵觸セサルモノハ許可ノ手續ヲ爲ス可シ

一華士族及勳位アル者

二稼業禁止ノ處分ヲ受ケ解禁ナキ者

三幼者ニシテ後見人ナキ者

四事實願意ト相違シ及ヒ取締規則ニ違背ノ廉アル者

第三條　娼妓稼ヲ願出タル中ハ事實ヲ推問シ及ヒ探偵ノ上左ノ項目ニ抵觸セサルモノハ許可ノ手續ヲ爲ス可シ

一華士族又ハ勳位アル者ノ家族

二二十五年未滿ノ者

三身體不適當ノ者

四稼業禁止ヲ受ケ解禁ナキ者

五期限ヲ經過シ再ヒ稼ヲナス者但止ムヲ得サル事實アル者ハ本部ニ稟議スルモノトス

六養女又ハ同居ト稱シ無謂人ニ貰ハレタル者

七生計ニ困難ナキ者

八父母親戚及ヒ戸主ノ許諾ナキ者

九養女ニシテ實父母及ヒ親戚ノ許諾ナキ者

十父母親戚ナキ者其証人ノ身元不慥ナル者

十一娼妓ノ口入又ハ判人ト唱フルモノヘ現ニ不當ノ金錢ヲ貪ラルヽノ患アル者

十二事實願意又ハ貸座敷主ノ約定ト相違シ及ヒ取締規則ニ違背ノ廉アル者

第四條　貸座敷業及ヒ娼妓稼ヲ許可スヘキ片ハ其關係書類ヲ纏メ指令案ヲ付シ署長ノ決ヲ經テ左ノ手續ヲ爲ス可シ

一願書副本ニ指令ヲ付シ鑑札ト共ニ本人ニ付與ス

二仝上 副本ニ指令ヲ謄寫シ郡區役所ニ通牒ス

三同上 正本ハ編冊ス

第五條 廢業ヲ屆出又ハ改氏名轉住若クハ娼妓ノ貸座敷主轉換及ヒ其他毀失等ノ鑑札書換ヲ願出タル片ハ左ノ項目ニ從フヘシ

一廢業ヲ屆出タル片ハ副本ヲ以テ郡區役所ニ通牒シ正本ハ編冊ス

但シ娼妓ノ廢業ニ付テハ其事實及ヒ父母親戚若クハ証人ノ諾否ヲ調査ス

其滿期廢業ノ者ト雖ヒ亦同シ

二娼妓死亡又ハ失踪若クハ復帰ヲ屆出タル片モ前項ト同ク通牒又ハ編冊ス

其死亡失踪ノ屆書ニハ父母親戚若クハ証人ノ捺印ヲ調査シ若シ父母親戚遠隔ニ在ル片ハ假ニ屆出ヲナサシメ追而捺印シタル書面ヲ徵スルモノトス

三改氏名及ヒ一區域内ノ轉住ニ付鑑札書換願出タル片ハ指令ヲ要セス鑑札ニ最初ノ番號及ヒ年月日ヲ記シ付與スヘシ其願書 副本ニ聞屆タル旨ヲ付記シ郡區役所ニ通牒シ其正本ハ編冊ス

四娼妓一區域内ノ貸座敷主移轉ヲ願出タル片ハ第三條第七項以下ヲ調査シ

第四條ノ手續ニ從フモノトス

五鑑札毀失等ニテ書換願出ル片ハ第三項ニ從フ可シト雖ヒ郡區役所ヘ通牒ヲ要セス

第六條 取締及書記ヲ撰定シ屆出タル片ハ左ノ項目ヲ探偵シ意見ヲ付シ本部第二課ニ送致スヘシ

一被撰者ノ人質及ヒ身元如何

二同業者ノ信用如何

第七條 同業者ニ關スル一般ノ規約ヲ設ケ及ヒ取締規則第五十條第五十五條ノ認可願出タル片ハ同業者ノ諾否ヲ調査シ意見ヲ付シ本部第二課ニ送致スヘシ

第八條 娼妓稼ノ紹介業ヲ願出タル片ハ其性質身元ヲ調査シ意見ヲ附シ本部第二課ニ送致スヘシ

第九條 分署ニ於テ左ノ項目ヲ取扱タル片ハ本屬警察署ヘ其時々通報スヘシ

但願書アルモノハ其願書扣ヲ添ヘ通報スルモノトス

一娼妓他出ヲ願出許可シタル片

二娼妓貸座敷主トノ契約ニ違背シ說諭ヲ加ヘタル片

三遊興ノ抵償トシテ衣類物品ヲ貸座敷主ニ受取ルヿヲ認許シタル片

四總テ取締規則ニ違背セサル事項ヲ申告シ說諭ヲ加ヘタル片

第十條 取締規則ニ違背者ノ處分ハ左ノ手續ニ從フヘシ

十九年本達乙第六十号ヲ以テ六條中改正

同上達ヲ以テ第七條ヲ刪除シ第八條ヲ第七條ニ改メ調査シノ下改正

同上達ヲ以テ追加

同上ヲ達以テ第九條ヲ刪除シ第十條ヲ第九條ニ改メ本條中改正

同上達ヲ以テ二項以下改正

一巡査違犯者アルヿヲ知リタルトキハ警部ニ告發スヘシ
二警部違犯者アルヿヲ知リ又ハ告發ヲ受ケタルトキハ調書ヲ錄シ大坂市街各警察署ハ本部第二課分署ハ本屬警察署ニ送致スルモノトス
三本部第二課警部及警察署（大坂市街ヲ除ク）內勸警部（警部補包含ス）事件ヲ受ケタルトキハ訊問審按シ規則ニ照シ處分ヲ擬シ課署長ノ決ヲ經テ其言渡ヲ爲スヘシ但過料金五圓以下苦使十日以內ノ處分ハ專行シ其以上ハ稟議スヘシ
四過料ヲ苦使ニ換フルトキハ其命令ヲ爲ス可シ
五苦使ニ處シタル者ハ監獄ニ送致ス可シ
六過料ヲ徵收シタルトキハ明細書ヲ錄シ本部第三課ヘ送付スヘシ

同上達ヲ以テ本條追加

第十一條　特ニ取締ニ達スヘキ事件ハ本部ノ管理ニ屬ス但其都度第二課ヨリ所轄警察署ヘ通報スルモノトス

同上達ヲ以テ本條中アルトキ以下改正

第十二條　稼業ヲ停止若クハ禁止ス可キ者アルトキ又ハ第六條乃至第八條ノ諸件既ニ認可ノ後其取消ヲ必要トスル場合ヲ發見シタルトキハ其事由ヲ詳記シ具申スヘシ其既ニ許可シタル娼妓ノ身體不適當ニシテ廢業セシムルトキハ本部ニ稟議スヘシ

十九年本甲第八十二号ヲ以テ第十三條削除ス

附則

一貸座敷ニ關スル簿冊左ノ如シ

貸座敷娼妓名簿
右名簿ハ取締ヨリ差出ス名刺ヲ挾入シ其名刺ニハ許可ノ月日及ヒ上端ニ鑑札ト仝番號ヲ付ス
貸座敷稼業願編冊
仝　上廢業屆編冊
娼妓稼業願編冊
同　上廢業屆編冊
同　上轉席願編冊
右各編冊ニハ每件ニ番號ヲ付シ編綴ス
貸坐敷娼妓開廢業願屆人名索引
右帳簿ニハ部ヲ分テ鄕貫氏名ヲ記シ上端ニ番號ヲ付ス
貸坐敷娼妓稼業願却下編冊
仝　上鑑札書換願編冊
他行願編冊
右編冊ニハ便宜索引ヲ付シ編綴ス
他行願名簿
右名簿ニハ出願ノ日數ヲ登記シ調査ニ便ス登記シ分署所在地ハ本屬警察

署ニ於テ分署ノ通知ヲ受ケテ登記ス

諸願伺屆編冊

右編冊ニハ前數項ニ關セサル書類ヲ編綴ス

犯則一件書類編冊

右編冊ニハ調書及ヒ處分接ヲ纏メ番號ヲ付シ編綴ス

犯則名簿

右名簿ニハ其人名犯則ノ要點處分ノ終結過料ノ完納及ヒ若使ニ換タルトキハ其旨ヲ記ス

仝　上未決既決逃亡名簿

右名簿ニハ部ヲ分テ其人名ヲ記ス

一鑑札及ヒ其他編冊スル書類ノ番號ハ毎年新ニ起ルモノトス

一貸座敷及ヒ娼妓ノ現員開廢業等毎月三十一日調ヲ以テ翌月十日迄ニ本署第二課ヘ送致スヘシ

一書式ハ左ニ一斑ヲ示ス

鑑札書式

「警察署ノ頭字」

「署印」

表　面

何警第何號

何郡區何町村番地

貸座敷　平民

免許　何　誰

裏　面

明治何年何月何日

「署名」

表　面

一何警第何號

何郡區何町村番地

娼妓　貸座敷何誰方寓居

免許　何　誰

「右ニ仝シ」

裏　面

明治何年何月何日

期限何年何ヶ月

十九年九月本達乙第三十一号ヲ以テ指令書式改正

指令書式

（貸座敷娼妓稼業願指令住所若クハ貸座敷主移轉ハ番号ヲ要セス）

書面之趣許可シ左ノ記号ヲ付與ス（許可セス）

何警第何號

年　月　日　　某警察署　印

（認可ス〳〵キモノ、指令）

書面之趣認可ス（認可セス）

（但再撰「再議」）ノ上更ニ屆出〳〵シ

年　月　日　　某警察署　印

（娼妓他行願ノ指令）

書面之趣他行何日間許可ス

但皈着ノ上ハ其當日屆出ッ〳〵シ

年　月　日　　某警察署　印

郡區役所〳〵通知書式

何郡區何町村何番地原籍及ヒ寄留地平民（又ハ何誰方娼妓）

何　某

右ハ別紙之通貸座敷開業「娼妓稼」（住所「貸座敷主」移轉）願出本日聞屆（廢業死亡「失踪」年月日失踪ノ處復皈）候旨屆出候條此段及御通知候也

年　月　日　　某警察署　印

郡區役所宛

○

犯則人送致書式

送致書

年月日住所何某ヘ貰付　　住所貸座敷娼妓何　誰

右ハ貸座敷娼妓取締規則第何條違犯ノ者ニ付別紙調書幷關係書類相添及御送致候也

年　月　日　署印　　某警察署官氏名印

本部第二課長又ハ警察署長宛

告發書式

告發書

一本職儀本日則明治何年何月何日時何々何々（犯則者ヲ認知シタルヿヲ詳記ス）此段告發候也

年　月　日

某警察署官氏名印

住所 貸座敷 娼妓

何　誰

警部氏名殿

處分言渡書式

言渡書

其方儀明治何年何月何日何々ノ所以アリタルハ貸座敷娼妓取締規則第何條ノ違犯ナリトス依テ仝則第十條何々トアルニ照シ過料金何圓（苦使何ケ月）ニ處スル者也

年　月　日

某警察署　印

苦使ニ換フル命令書式

命令書

住所 貸座敷 娼妓

何　誰

年月日貸座敷娼妓取締規則第十條ニ依リ過料何圓ノ言渡ヲ受ケ内何圓ノ外完納スル能ハサルヲ以テ仝則第十三條ニ照シ苦使何日ヲ命スル者也

年　月　日

某　警察署　印

苦使ノ監獄署ヘ送致書式

送致書

住所 貸座敷 娼妓

何　誰

右ハ別紙寫之通苦使何ケ月ヲ言渡（又ハ過料金完納スル能ハス苦使ヲ命シ）候條執行有之度候也

年　月　日

某　警察署　印

監獄 本分 署

御中

苦使ヲ免スル通知書式

通知書

住所 貸座敷 娼妓

何　誰

右ハ過料金完納スル能ハサルヲ以テ苦使ヲ命シ服役中ノ處今般何誰ナル者苦

使日數ヲ扣除シ完納致候條本人ハ來ル何日放免有之度此段及御通知候也

年　月　日　　某　警察署　印

監獄本分署

御中

○本乙第五十五號　明治十六年六月廿七日

長野縣ヨリ別紙ノ通貸座敷並藝娼妓出稼ノ者所轄郡役所ヘ添書出願スヘク旨及布達候ニ付右添書無之モノハ營業許可不相成候樣致度旨通知有之候條此段及通達候也

（別紙）

本縣下人民ニシテ貴府下ニ於テ貸座敷藝娼妓ノ營業ヲナサント欲スルモノハ都而所轄郡役所ヘ添書出願スヘク旨及布達候ニ付右等出稼ノ添書無之者ハ營業許可不相成候樣致度此段及御通知候也

○乙第九十三號　明治十六年九月十日

府下人民他管下ニ於テ娼妓及貸座敷營業ヲ爲サントスルモノハ添翰附與ノ義ニ付別紙ノ通被達候條自然出願候者有之節ハ精密調査ノ上附與方可取計此段及通達候也

（本署第三部水上署ヲ除ク郡部各署）

丁第八十二號　明治十六年九月八日　警察本署

廿年廉達第一号ヲ以分註削除

府下人民他管下ニ於テ娼妓及貸座敷營業ヲ爲サントスルニ方リ所轄警察署添翰願出候節ハ該地警察署ヘ添翰附與方可取計此旨相達候事

但右營業事務郡區長ヘ委任セル向ハ其郡區役所ヘ添翰付與スヘシ

堺警察署

○本乙第九號　明治十七年二月六日

其署所轄内貸座敷免許地ノ内龍神橋通住吉橋通榮町通ハ一區域内ト心得可シ此段及通達候也

○本乙第十一號　明治十七年二月十六日

堺岸和田　泉郡　牧方警察署

娼妓稼出願セシモノ推問ノ后却下シタルトキハ原籍氏名年齢且却下セシ理由等概記シ一週間毎ニ貸座敷アル各署ヘ報告可致此段及通達候也

○本乙第十九号　明治十七年三月十四日

堺岸和田　泉郡　牧方警察署

靜岡縣下ノ者他府縣下ニ於テ貸座敷及娼妓營業ヲナサントスルモノハ自今所屬郡役所ノ添翰付與候旨仝縣ヨリ照會有之候條爲心得此段及通達候也

○本乙第四十八号　明治十八年六月十二日

第三部

郡部警察署（貸座敷アラサルヲ除ク）

今般貸座敷娼妓取締附則被定候ニ付テハ紹介人ノ認可其他規約ノ認可等ハ貸座敷娼妓取締規則取扱手續第六條乃至第九條ニ準シ取扱フ可シ此段及通達候也

第四款　貸座敷幷娼妓賦金徴收規則

明治十七年一月十九日　　郡區役所

●乙第五号

貸座敷幷娼妓賦金徴收規則左ノ通相定メ來ル二月一日ヨリ施行候條右業体ノ者ヘ可相達此旨相達候事

貸座敷幷娼妓賦金徴收規則

第一條　貸座敷　娼妓　置屋（家形小方ト貸座敷トノ中間ニ在テ言ニ求ムル者ナ云フ置ニ娼妓ナ包置キ其家形小方同様ノ営業ナナス者モ含入ス）　家形小方（娼妓ナ包置キ其営業ノ媒介ナ為ス者ナ云フ）　営業免許ナ得タルモノハ第二條ニ掲クル賦金ナ納ムヘシ

第二條　貸座敷　娼妓　置屋　家形小方　賦金定額左ノ如シ

貸座敷及置屋

一等　疊數　百疊以上　一ヶ月賦金六　圓
二等　仝　五拾疊以上　仝　金四　圓
三等　仝　三拾疊以上　仝　金三　圓
四等　仝　二拾疊以上　仝　金二　圓
五等　仝　二拾疊未滿　仝　金一圓五拾錢

家形小方　娼妓一人ニ付　一ヶ月賦金五拾錢

娼妓　仝　金三圓五拾錢

十八年八月丙第二百七十三号ナ以テ娼妓賦金改正

右

南區ノ内（道頓堀東西横町　九郎右衛門町　宗右衛門町　東西坂町　難波新地一番町　二番町　三番町　四番町）
西區ノ内（新町北通二丁目、新町通一丁目、二丁目、新町南通一丁目・二丁目　裏新町、北堀江上通二丁目、三丁目、同下通二丁目・三丁目）　免許地
北區ノ内　曾根崎　新地一丁目　二丁目　三丁目

貸座敷及置屋

一等　疊數　百　疊以上　一ヶ月賦金五　圓
二等　仝　五拾疊以上　仝　金三　圓
三等　仝　三拾疊以上　仝　金二　圓
四等　仝　二拾疊以上　仝　金一圓五十錢
五等　仝　二拾疊未滿　仝　金一　圓

家形小方　娼妓一人ニ付　仝　金四十錢

娼妓

右

西區ノ内（松島仲ノ町一丁目　二丁目　同高砂町　一丁目　二丁目　同花園町　十返町）　金二　圓
北區ノ内　安治川上通一丁目　二丁目　金二　圓
堺區ノ内（榮橋通一丁目　神橋通一丁目　通一丁目　南半町東一丁目　南旅籠町東一丁目　住吉橋二丁目）　金二圓免許地
添上郡奈良ノ内　元林院町　木辻町　金一圓八十錢
添下郡郡山ノ内　東岡町　洞泉寺町　金一圓八十錢

貸座敷及置屋

一等　疊數　百　疊以上　一ヶ月賦金三　圓
二等　仝　五拾疊以上　仝　金二　圓
三等　仝　三拾疊以上　仝　金一圓五十錢
四等　仝　二拾疊以上　仝　金一　圓
五等　仝　二拾疊未滿　仝　金六十錢
家形小方　娼妓壹人ニ付　仝　金三十錢
娼妓　仝　金壹圓五十錢

右（茨田郡牧方ノ内三ッ矢村　泥町村　岡村　免許地
南郡貝塚ノ内北ノ町　南ノ町

第三條　貸座敷幷置屋ノ等級ハ該家ニ展敷シタル総疊數（板疊アルモノハ疊ニ準シ之ヲ算入ス其延板等ニテ一定ム但シ床押入廊下敷瑞等ノ類ヲ除ク）ヲ十分シ其三分（即チ百疊ニ付三十疊）ヲ除去シ其七分（即チ疊ノ區分ナキモノハ其坪數ニ因リ疊數ヲ定ム但シ床押入廊下敷瑞等ノ類ヲ除ク百疊ニ付七十疊）ヲ以テ之ヲ定ム

但壹疊（即チ半坪）ニ滿タサル端數ト雖モ一個トシテ算入シ而メ其総疊數ヲ十分シテ其七分ニ屬スル端數（例ヘハ納疊數二十八疊ノ内其三分ニ當ル八疊四分ヲ除キ其七分ニ當ル十九疊六分ヲ十九疊トシ以下一疊ニ滿タサル六分ヲ刎捨ツルノ類）ハ算入セサルモノトス

第四條　貸座敷幷置屋營業ノモノハ一家毎ニ総疊數ヲ記載シタル書面ヲ製シ該組合取締二名以上ノ証印ヲ受ケ所管ノ郡區役所ヘ届出ツヘシ

（十八年乙百十八号ヲ以第九條ヲ改正ス）

但疊數ヲ増減スル時ハ其時々本條ノ手續ヲナスヘシ

第五條　貸座敷並置屋營業ノモノ疊數ノ増減ニ因リ其等級ニ變換ヲ生シルタ時ハ翌月分ヨリ其等級ニ相當スル賦金ヲ納ムヘシ

第六條　家形小方賦金ハ貸座敷及ヒ置屋ノ營業ヲナサスシテ單ニ娼妓ヲ抱置キ營業ヲナスモノニ限リ之ヲ納ムヘシ

第七條　貸座敷　娼妓　置屋　家形小方　開業廢業ノモノハ日數ノ長短ニ拘ハラス一ヶ月分ノ賦金ヲ納ムヘシ

但家形小方ニ於テ娼妓ノ増減アル月ノ賦金モ本文ニ仝シ

第八條　仝上營業ノモノ一ヶ月内甲免許地ヲ廢業シ乙免許地ニ於テ開業セシ時乙地ノ分ハ翌月ヨリ賦金ヲ納ムヘシ

第九條　娼妓營業ノモノ取締規則第三十二條ノ許可ヲ得タル者ハ鑑札仮納中ノ日數及日驅黴院ヘ入ル時ハ日割ヲ以テ賦金ヲ免ス（入院日ヨリ退院ノ日マテ）

第十條　惡疫流行其他ノ事故ニ因リ若シ貸坐敷又ハ娼妓ノ營業ヲ停止シタル時ハ日割ヲ以テ停止中（停止ノ日ヨリ解停ノ日マテ）ノ賦金ヲ免ス

但貸坐敷並娼妓取締規則ニ違犯シ營業ヲ停止シタルモノハ此限ニアラス

第十一條　家形小方賦金ハ第九條第十條ノ場合ニ於テハ其月ノ十五日前後ヲ以テ區分シ各半月分ノ賦金ヲ納ムヘシ

第十二條　貸坐敷　娼妓　置屋　家形小方賦金ハ其月分毎月五日限リ戸長役場ニ納ムヘシ

但本條期日以前廢業移轉入院ノモノ又ハ期日以後開業出院ノモノハ其時々賦金ヲ納ムヘシ

第十三條　戸長役場ニ於テハ其徵集シタル賦金ニ明細書ヲ付シ收納期日後三日以内ニ所管ノ郡區役所ヘ納付スヘシ

第十四條　貸坐敷　娼妓　置屋　家形小方營業ノモノ第十二條ニ定ムル日限ヲ過キ若シ賦金ヲ納メサルトキハ取締規則第十條ニ據リ處分スルヿアルヘシ

十九年四月十五日本則中改正

第五欵　娼妓媒毒檢査規則

警察本署

●丁第二十三號　明治十八年四月九日

娼妓媒毒檢査規則別紙ノ通相定候條此旨爲心得相達候事

但大坂驅梅院規則中該規則ニ抵觸ノ廉ハ自今廢止ス

娼妓媒毒檢査規則

第一條　凡娼妓ハ一週間毎ニ大阪驅媒院（本文郡山ハ奈良分院ヘ以下之ニ倣フ）ヘ免許鑑札ヲ携帶出頭シテ媒毒有無ノ檢査ヲ受ク可シ

但檢査定日ニ限リ請願ニヨリ免許地ヘ醫員往檢セシムルヿアルヘシ

第二條　檢媒醫ニ於テ媒毒アリト認ムルモノハ免許鑑札領收ノ上入院券ヲ付與シ大坂驅媒院（本文郡山ノ所ハ本文分院）ヘ入院セシム

第三條　檢査定日及時間ハ大坂驅媒院又ハ奈良分院ノ告示ニ依ルヘシ

第四條　退院ノ節ハ入出院証ヲ付與スルニ付賦金徵收規則第九條ニ據リ免除出願ノ時ハ之ヲ其願書ニ添フヘシ

第五條　入院中衣服臥具其他自用ニ屬スル諸費ヲ除クノ外總テ院費ヲ以テ支給スヘシ

第六條　檢査定日及第七條乃至第十條ノ際ニ方リテ父母ノ看病又ハ自己ノ疾病ニ據リ出頭シ難キトキハ其屆書ニ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ當日午前十時迄ニ檢査場ヘ差出スヘシ此場合ニ於テハ醫師往檢スルモノトス

第七條　檢査定日外ト雖ドモ黴毒ニ感染シタルト自覺スルトキハ臨時檢査ヲ受ク可シ

第八條　娼妓稼業許可ヲ得タルモノハ直チニ大坂驅媒院又ハ奈良分院（以下之ニ倣フ）ヘ出頭檢査ヲ受クヘシ

第九條　他行セントスルトキ幷ニ歸廢（失踪歸寂等モ含ム）シタルトキハ當日參院檢査ヲ受クヘシ

但檢査定日ニ跨カラサルモノハ此限ニアラス

第十條　檢査定日官署ノ喚徵等ニヨリ出頭シ難キトキハ其事由ヲ詳記シ當日檢

査時間前檢査場ヘ屆置翌日出頭檢査ヲ受クヘシ

第十一條　貸座敷主ヲ換ヘ若クハ他行中期限ノ許可ヲ得タル歟又ハ失踪或ハ死亡シタルトキハ貸座敷主ヨリ其旨速ニ大坂驅梯院又ハ奈良分院ヘ屆出ヘシ

第十二條　娼妓ヨリ大坂驅梯院又ハ奈良分院ヘ提出ス書面ニハ貸座敷主連署ノ上取締ノ奥印ヲ受ケ貸座敷主ヨリ差出スモノハ取締奥印スヘシ

第十三條　貸座敷取締ハ檢査ノ當日檢梯場ヘ出頭シ掛員ノ指圖ヲ受ケ諸事不都合ナキ樣取扱フベシ

第十四條　入院患者余病ヲ廢シ危篤ノ慮アル場合ニ出院ヲ請願シ又ハ入院中祖父母子兄弟姉妹重病ニ罹リ若クハ死亡シタルトキ貸座敷主連署宿下ヲ願出ルニ於テハ假出院ヲ許スコトアルヘシ

但親屬ノ重病ニ係ルモノハ其療醫ノ診斷書死亡シタルトキハ証明書ヲ添付スルモノトス

第十五條　前條假出院ノ許可ヲ得タルモノハ總テ期限内ニ歸院スヘシ若シ余病ヲ發シタルモノ在苗癒スシテ歸院シ難キトキハ一週間毎ニ主治醫ノ診斷書ヲ添ヘ驅梯院又ハ分院ヘ屆出ヘシ其親屬ノ重病ニ依リ期限内歸院シ難キモノハ追願スルヿヲ得

第十六條　此規則（第五條及第十四條ヲ除ク）ニ違背シタル者ハ貸座敷娼妓取締規則第十條十八年丙二百七十号ヲ以十四條以下改正ニ照シ處分スベシ

第六欵　貸坐敷及娼妓ニ關スル雜件

○達第七号　明治十八年二月四日　貸座敷取締

娼妓稼ヲ止メ若クハ寄寓スル貸座敷主ヲ移轉セントスル者アルトキハ別紙書式ニ從ヒ証明書ヲ差出ス可シ

右相達候事

（別紙）

証明書

住所身分
貸座敷何誰方寄寓
娼妓
氏名

右ハ今般廢業屆出（又ハ貸座敷主移轉願出）候ニ付左ノ條々取調候處相違無之候（娼妓稼出願ノ期限ヲ過キ廢業スルトキハ第一二項ヲ除ク）

一賦金上納濟ノヿ

一貸座敷主ヘ借用金仕拂濟ノヿ

一廢業ノ上正業ヲ營ミ候旨申出候ヿ

（又ハ貸座敷業何誰方ヘ移轉候事又ハ廢業ノ上何所何誰方ニテ再ヒ稼業致候事

右証明仕候也

年　月　日

貸座敷取締
何　誰　印
貸座敷取締

○達第六号　明治十八年二月四日

自今娼妓稼出願スル者アルトキハ別紙書式ニ從ヒ取締ハ証明書其寄寓スヘキ貸座主ハ保証書ヲ差出ス可シ

但現今娼妓稼ノ者ノ保証書ハ本文ニ準シ本月廿八日限リ取纏メ差出ス可シ

右相達候事

証明書

住所身分
氏　名
年　齢

右ハ今般娼妓稼出願候ニ付取調候處事實顯面之通ニシテ原藉身分氏名等相違ノ廉無之候依テ証明仕候也

年　月　日

大阪府警察本署又ハ某警察署
御　中

貸座敷正副取締
氏　名　印

証明書

住所身分
氏　名

右ハ今般娼妓稼出願候處御免許ノ上ハ賦金上納滞致サセ不申萬一上納致難キトキハ自分ヨリ期限内ニ上納可仕尚ホ本人ニ於テ不調法有之過料ニ處セラレタル場合モ同様取扱可申此段保証仕候也

貸座敷業
氏　名　印

年　月　日

大坂府警察本署又ハ某警察署
御　中

貸座敷取締

○達第十二號　明治十八年四月六日

娼妓稼之者他ノ免許地ニ移轉スル場合廢業屆ヲ差出スト雖ヒ認可スルニ非サ

レハ鑑札返納ニ及ハス其認可ヲ受クル迄ハ貸座敷娼妓取締規則ヲ遵守スヘキ義ト可相心得候事

但許可以前移轉ノ手續ヲ爲スヿヲ得

右相達候事

○達第十三號　明治十八年四月六日　貸座敷取締

娼妓稼ノ者逃走シ又ハ黴毒ニ罹リ入院シタル日數及ヒ禁錮以下ノ處斷ヲ受ケ服役シタル日數ハ稼業年限間ヲ扣除スルヿヲ得可キ筈ニ候條爲心得此旨相達候事

但免許ヲ受ケタル年限ニ至レハ扣除スヘキ日數ト稼業セシ日數ヲ詳記シ鑑札ノ書換ヲ請フ可シ其年限ヲ經過シテ復歸シタルモノ亦同シ

○達第十六號　明治十八年五月九日　貸座敷取締

貸座敷娼妓取締規則第二十四條ニ從ヒ警察官吏ノ檢閲ニ供スル遊客名簿ハ別ニ壹通ヲ製シ毎朝取締ニ差出シ取締ハ調査ニ差支ナキ樣編綴シ備置ク義ト可相心得此旨相達候事

○達第十八號　明治十八年六月十日　貸座敷取締

娼妓稼之者他ノ免許地則甲地ヨリ乙地ニ移轉スル場合其手續中身体乙地ニ在ル者定日梅毒檢査ハ其地取締ヨリ檢梅所ヘ屆出娼妓ハ甲地免許鑑札ヲ以テ乙地ニ於テ檢査ヲ受ク可シ

右相達候事

○達第十九號　明治十八年六月三十日　貸座敷取締

今般貸座敷娼妓取締附則施行相成候ニ付左ノ通心得可シ

一　取締ハ紹介人ノ諸願屆ニ加印スルモノトス

一　娼妓ノ開廢業及移轉ニ付其願屆ニ紹介人ノ連署シタルモノト雖ヒ取締ニ於テ尙ホ事實ヲ調査シ不都合ノ廉アリト見認ムル時ハ其書面ニ加印セサルモノトス

一　取締ハ紹介人ノ取扱上異狀アル時ハ速ニ申告シ其筋ノ指揮ニ從フモノトス

右相達候事

○達第二十號　明治十八年七月一日　貸座敷取締

娼妓梅毒檢査ニ付驅梅院又ハ分院ヘノ諸屆ハ左ノ手續ニ從フ可シ

第一項　取締ハ檢査定日毎ニ左ノ屆書ヲ作リ檢梅所ニ差出スモノトス

檢査定日諸件御屆

一　前檢査定日娼妓總員　何人

一　同示屆本日迄開業　何人

一　同失踪立飯　何　人
一　同廃業　何　人
一　同失踪　何　人
一　同死亡　何　人
一　本日娼妓総員　何　人

内

本日在院　何　人
本日出院　何　人
他　行　何　人
不　参　何　人
本日検査済　何　人

内

往　検　何　人
入　院　何　人

第二項　取締ハ日々娼妓現在員ヲ記シ一周毎ニ驅梯院又ハ分院ニ差出スモノトス

第三項　娼妓開廃業シタルトキハ左ノ短冊ヲ製シ取締ノ認印ヲ受驅梯院又ハ分院ニ差出スモノトス

大阪府何郡區何町村何番地何誰方同居（寄留又ハ原籍ヲ記ス）何方店供娼妓

業名　何誰

年齢

明治何年何月何日開（廃）業
明治何年何月何日何方ニ引轉ス

（用紙半紙六ツ切）

右相達候事

○達第廿五号　明治十八年十月一日　貸座敷取締

娼妓稼之者ニ對シ自今左項ノ場合ハ証票下付可致候條第一項乃至第三項ハ取締ヲ經テ驅梯院ニ差出第四項以下ハ鑑札下付ノ當日本人ニ引驅梯院ヘ差出ス可シ

一　廃業
二　止業
三　停止鑑札取上ケ
四　失踪復歸

五　拘禁復歸
六　復　業
七　解停鑑札下附

右相達候事

証票（美濃紙八ツ切）
年　月　日
廃業（又ハ失踪復歸）署印

何區何町何番地
何某方同居娼妓
業名何々　何　某

○第二十四號　明治十八年十月一日　松島貸坐敷娼妓取締

貸坐敷及娼妓稼業新規出願候者ハ自今賦金ヲ豫約セシメ該金ハ取締手元ヘ預リ置免許ヲ得タル上戸長ニ交付スヘシ

右相達候事

○本第九號　明治十九年七月廿一日　貸坐敷取締

貸坐敷免許地ニ於テ藝妓取締ハヲ設クル非ハ貸坐敷取締ニ於テ兼攝スベシ
但從前別ニ取設タル向モ本文ニ從フモノトス

右相達候事　警察本署

第四章　神佛祭典及祈禱附御紋章

●甲第二百四十五號　壬申七月

無用之冗費ヲ省キ有用廣益ヲ圖リ開化ノ域ニ趣クの之今日ニ當リ當地舊來地藏祭ト稱シ金錢ヲ繫キ合セ町内集會シ飲食ヲ事トスルノ舊習有之右ハ畢竟無益之財ヲ費ス而已ナラス是カ爲亦有用之時間ヲ費シ無謂事ニ付自今停止候事

右之趣管内無洩相達スル者也

○甲市郡第三十五號　明治十四年二月十五日　本署各郡市郡各署

國旗掲標方之儀ニ付別紙之通石川縣警察本署ヨリ差回越候條爲御心得此段及回達候也

（別紙）明治十三年十二月廿一日

一氏神祭典又ハ諸會社或ハ商估開業ノ際大祭日同樣御國旗ヲ掲標候儀不苦哉
一大祀合節國祭日ノ夜中ニ至リ毎戸桐章又ハ日章ヲ畫キ候提灯ヲ掲燈致不苦哉
哉將又前條ノ場合ト雖モ差支無之哉

（指令）十四年一月二十日

書面各條共伺之通

○明治十四年七月十三日　奈良郡山三輪御所五條

各署所轄内神社佛閣祭禮等ノ節取締不都合モ可有之ニ付許可前郡區役所ヨリ通牒ノ筈打合置候ニ付不都合ナキ樣取計相成度此段爲心得及御通知候也

○本甲第百三十二號　明治十六年七月十八日　各　署

神輿渡御其他諸祭禮等ノ節道路並木及河岸地ニ生殖スル樹木類ヲ折損候者有之趣ヲ以テ其筋ヨリ照會有之候條各署ニ於テ一層取締可致此段及通達候也

○本乙第四十號　明治十九年五月八日　北警察署

毎年五月六七八三日間中之島招魂祭典ニ付外勤長ハ略服ニ正帽ヲ着ケ非番巡査総員ヲ引率シ各部署員総代トシテ自今初日ノ午前十一時ニ參拜可致此段相達候也

●堺縣甲第二十四號　明治十三年三月十九日

明治五壬申年八月神降稲荷下等ノ布達及ヒ明治六年二月舊奈良縣第二十八號布達左ノ通改正候條此旨布達候事

梓巫市子幷憑祈禱狐下ケ或ハ賣卜拆ト唱ヘ玉占口寄等ノ所業ヲナシ人心ヲ眩惑セシメ候儀一切禁止候條此旨可相心得事

●申第百三十六號　壬申四月

神子巫神ヲロシ又ハ稲荷ナロシ拆ト號シ妖怪之所行ヲ以諸人ヲ誑惑夫ヲ渡世トスルモノアリ其罪不輕事ニ付詮議上速ニ咎方ニ及フヘキ筈ノ所從來之惡弊故間々自ラ其非ナルヲ知ラスシテ執行ヒ來ルモノモ可有之ニ付格別寛大之旨ヲ以是迄ノ所行ハ何等之不及沙汰向後ハ堅ク禁止候條其旨篤ク可相心得万一猶モ不相改者於有之ハ屹度咎方ニ及フヘキ事

但向後本文所業之者見當リ候ハヽ可届出事

右之通管内無洩相達スルモノ也

●申第二百五十一號　壬申七月

人之禍福吉凶天命無常ト雖凡其身平生行ヒノ善惡ニ由ラサルハナシ然ルニ世ノ淺智昧識之者兎角既觀之心ヲ生シ動スレハ賣卜其他星運人相家相地相劔相鏡相墨色讖文等怪異之說ニ惑ヒ祈禱星祭方除等ヲ以吉凶ヲ變轉更換相成ル事ト思ヒ疑惑逡巡之際折角思ヒ立シ事業モ是ガ爲氣鋒ヲ鈍ラシ終ニ時機ヲ誤リ勉强ヲ欠キ職業ヲ妨ケラルヽモノアリ實ニ蒙昧之甚敷可歎事ナラスヤ抑百物ノ理ヲ辨ヘ自立ノ權ヲ守リ生活ノ業ヲ勉ム是ヲ人ノ職分トス天理ニ遵ヒ人ノ人タル道ヲ踐ミ自己ノ生活ヲ屬ムニ於テ何レヲカ毫モ疑惑スル事アラン試ニ思惟セヨ夫意想賣卜呪詛等ニテ吉凶禍福ヲ知リ或ハ是ヲ變轉スル事ヲ得ハ豈一人トシテ事物ヲ誤ルモノアランヤ豈一人トシテ災難ニ罹ルモノアランヤ右等ハ畢竟人心ヲ惑ハス奇異妖怪ノ所業ニ付向後總テ禁止セシムル條早ク愚昧ノ惑ヲ解キ文明ノ域ニ進ミ各心志ヲ正敷シ職業勉勵可致事

附三世相男女相性賣帝ノ四相弘法ノ四目錄星運之占等都テ婦女兒童ノ惑トナルヘキ事ヲ載タル書類賣買不致樣可心得事

右之趣管内無漏相達スルモノ也

●本甲第三百廿二號　明治十五年十月十二日　各　署

神降又ハ稲荷下ケノ類ハ豫テ不相成旨布達モ有之候處近來天輪王ノ命ト稱シ之ヲ信仰スル者諸人ヲ集メ神ノ告ケ杯ト恠異ノ說ヲ唱ヘ人ヲ眩惑セシムルモノ有之既ニ和泉國泉郡豐中村ニ於テ人ヲ死ニ致タル義モ有之候條各署ニ於テ一層注意シ右等衆ヲ集メ眩惑セシムルノ所爲アルモノハ布達（和河泉ハ舊堺縣明治十三年甲第二十四号）（摂津ハ明治五年甲第百三十六号）違犯ノ廉ヲ以テ處分可致此段及通達候也

●明治三年五月廿六日

一祭禮ノ節門々ニテ差出候提灯等菊桐ノ御紋相止可申事

右之通早々通達可有之事

●天第百五號　明治十二年五月廿八日

社寺ニ於テ菊御紋相用候儀不相成旨明治二年八月公布ノ次第モ有之候處右公布前神殿佛堂ニ粧飾シタル分ニ限リ其儘存シ置候共不苦旨今般其筋ヨリ達有之候條此旨管内社寺ヘ無洩相達候事

●天第百四十九號　明治十二年六月廿七日

本年天第百五號ヲ以菊御紋云々相達候處染幕ノ儀モ同樣ニ付社寺ニ於テ從來粧飾ノ箇所並所藏ノ分トモ其由緒書相副七月十五日限リ可屆出此旨管内社寺ヘ無洩相達候事

●天第五十二號　明治十三年四月十二日

菊御紋章ヲ賣物等ニ畫キ幷紛敷品相用候儀モ不相成旨明治元年三月廿八日及同四年六月十七日公布ノ趣モ有之候處近頃往々賣品ニ御紋章ヲ畫キ候向モ有之趣相聞候條違犯ノ者無之樣可致此旨管内無漏相達候事

第五章　托鉢及寒念佛

○本甲第三百八十八号　明治十五年十二月二日　各　署

融通念佛宗管長權少教正泰教恩ヨリ托鉢免許方法幷取締規約等内務省ヘ伺指令別紙ノ通屆出候條爲心得此段及通達候也（別紙略ス）

○本甲第百二十九号　明治十六年七月十日　各　署

僧侶托鉢免許證授與屆書是迄爲心得通達シ來候處自今右達ハ相廢シ候條不都合ノ所業有之者ハ免許証ヲ檢閲シ其事由詳細取調申出ヘシ此段及通達候也

○本甲第二号　明治十七年一月九日　警察署

教導職若クハ其徒弟等寒念佛ト稱シ夜間往々徘徊候者有之趣相聞ヘ右ハ一切不相成筈ニ付自然右樣ノ者徘徊候ハヽ制止取締方注意ス可シ此段及通達候也

第六章　乞丐及被救人引渡手續

●申第百三十一號　壬申四月

脫籍無産ノ徒ハ其原籍ニ復サシメ適宜ノ産業ニ基カセ候追々被仰出モ有之右

十七年太政官十九号ヲ以テ教導職ヲ廢ス

ハ全ク厚キ御仁恤ノ御主意ニ付從來非人乞食ト唱候モノモ數百里ノ路程多分ノ官費ヲ以復籍イタサセ夫々授産ノ法ヲ設ケ各生活ノ道相立候樣世話イタシ候ニ付テハ謹テ職業勉勵以來御厄介不相懸樣可心得筈ノ處却テ其苦ヲ厭ヒ再三本籍ヲ脫シテ流民トナリ人ノ貨財ヲ盜ミ或ハ人之門口ニ立テ食ヲ乞事ヲ快シトス豈ニ可惡ノ至リニアラスヤ其罪素ヨリ其モノ其ノ責ニアリトイヘドモ其弊害食物等與ル者アルニヨル凡人情乞食ニ物ヲ施スヲ仁心ト心得タルモノ有之是其一ヲ知リテ二ヲ知ラサルナリ今身不幸薄命ニシテ言ヒトナリアシナヘトナリ不得止シテ乞食ヲナス癈疾ノ者ハ十ガ一ニ不過多クハ無賴放蕩ニシテ我職分ヲ勉ムル事ヲ不好或ハ父兄ノ教育ニ背キ終ニ籍ヲ脫シテ乞食トナリ其上數多ノ小兒ヲ生シ其兒ハ生ナガラ食ヲ乞フヲ以テ常トス實ニ人間ノ恥ヲ知ラサル甚敷モノニテ淺間敷事ナラスヤ試ニ見ヨ於當府盜賊召捕吟味之上ニテハ十ニ八九ハ悉ク强健ノ乞食ニアリサスレハ乞食ヲ救フハ盜人ヲ養ヒ置クモ同理ニテ其弊害衆庶ノ難儀ト相成候ニ付他籍之モノハ送リ當管下ノモノ不幸癈疾ニシテ其家ノ養ヲ受ヘキ便リナキ者ハ其町其村ニテ相養ヒ一切乞食ニ食物等ヲ與ルヲ禁ス依リテ向後嚴重取締ノタメ掛之者巡回取調夫々生所ヘ引渡候ニ付テハ左之條々可相心得事

右之趣管內無漏相達スルモノ也

一 自今町村ニ於テ嚴重申合置乞食徘徊イタシ候ヲ見受候ハヽ速ニ可追拂若緩カセニシテ其町村徘徊罷在候歟又ハ食物等與フルモノ於有之ハ見當次第町村ヘ可引渡候間戶籍ヘ編入住宅其外養育方世話イタシ候歟又ハ其町村ノ費用ヲ以生所ヘ差送リ可申候然ル上ハ先方所役人ノ請取証書ヲトリ其段可屆出事

但引渡之上等閑ニシテ若脫走イタサセ候ニ於テハ其町村ヘ尋方可申付候事

一 隣管轄境之宿村ニ於テ若乞食人入込候時ハ早速元ノ道ヘ追返シ決シテ管轄內ヘ不立入樣取締可致事

一 無籍之者ヲ納屋下濱先幷ニ村內野末端々等ニ差置間敷若等閑ニイタシ置モノ於有之ハ其町村ヘ可引渡候間第一條之通可取計事

但其町村內便利ノ爲メ戶籍ニ差加ヘ有之分ハ住宅等世話イタシ遣シ乞食ニ不紛樣可致事

一 橋上橋下ニ起臥イタシ候乞食有之候ハヽ橋掛町々ニ於テ心ヲ附速ニ可追拂事

一 先般非人之唱被廢候上ハ辻藝門芝居等賤敷遊業ヲ以渡世イタスヘカラサル筈ニ付以來町村ニ於テ嚴重停止可致事

一　社寺之境内ニ乞食起臥イタシ候ハヽ嚴重取締悉ク追拂フヘシ若シ等閑ニイタシ置ニ於テハ其社寺ヘ可引渡候條第一條之通可取計事

右條々堅ク相心得奉公人雇人等末々ニ至ル迄其戸主ヨリ嚴重可申聞置候事

○乙第六號　明治十五年一月十八日　市中各署

近來乞食体ノ者路頭橋上等ニ顯出投錢ヲ求メ候事有之甚外見上ニモ差支候條右等之者無之樣兼テ御注意可有之此段及通達候也

○本乙第二十五号　明治十八年四月一日　區部會根崎天王寺堺警察署

今般救育場役置相成候ニ付被救人引渡手續左ノ通相定メ候條此段及通達候也

被救人引渡手續

第一條　救育場ニ引渡スモノハ管内在籍ノ者ニシテ恒産ナク路上ニ彷徨スル貧民ニ限ルモノトス

第二條　瘋癲病者ニシテ管内在籍ノ貧民ハ被救者ニ準シ引渡スベシ

第三條　救育場ニ入場セシムヘキ人員ハ衛生課時々ノ通牒ニ因リ内事課ニ於テ適宜配當シ豫メ入場期日ヲ定メ之ヲ各署ニ通報スベシ

但該期日内入場セシムヘキ者配當ノ定員ニ超過シ實際差支ユルトキハ内事課ニ商議シ臨時入場セシムルヿヲ得若シ其定員ニ滿タサルヿアルモ次期ニ於テ補充スルヿヲ得ス

十九年本達乙第十一号ヲ以第三條改正

第四條　分署部内ニ被救人アルトキハ其族籍住所元職業身分氏名年齡親屬等ヲ尋問シ所持品ヲ取調明細書ヲ添ヘ該場ヘ交付スヘシ

第五條　各署ニ於テ引渡シタル人員等ハ前月分ヲ翌月十日マテニ本署ヘ報告スヘシ

○本乙第二十八号　明治十八年四月十一日　區部會根崎天王寺堺警察署

救育場ヘ可引渡被救人ノ義ハ該場ニ於テ貯方ノ都合モ有之趣ニ付以後午后四時迄ニ引渡スヘシ此段及通達候也

○本乙第四十九号　明治十九年六月二日　東警察署

其署部内粉川町ニアル貧民救育場常詰巡査自今相廢シ候就テハ二時間一回宛巡回可爲致此段相達候也

但被救人引渡手續第三條ノ報告ハ當日巡回ノ巡査ヲシテ取扱ハシムヘシ

第七章　懲役並懲治監入ノ者ヘ途中談話禁止

●天第九十六號　明治十二年五月十四日

懲役人並懲治監入ノ者ヘ猥ニ言語ヲ通シ或ハ金品取遣等致候儀ハ無ヲ不相成儀ハ勿論ニ候處間々心得違ノ者有之不都合ノ儀ニ付監守ノ者ニモ取締向後一層嚴達致シ置候條自然違背ノ者ノ於有之ハ屹度可及處分候條此旨管内無漏相達候事

●甲第九十二號　明治十四年五月十二日　和河泉國

懲役八並懲治監入ノ者ニ對シ於途中猥ニ言語ヲ交ヘ或ハ金錢物品等取遣儀相成候條此旨布達候事

第八章　興行

第一欵　劇場取締規則

●甲第廿一號　明治十七年四月二日

明治十五年甲第九十二號布達劇場取締別冊ノ通改定ス

但本則第四條第七項ハ從來建設ノ者ニ限リ來六月三十日迄ニ取設ク可シ

劇場取締規則

第一條　劇場ヲ新設若クハ改造模樣換セントスル𪜈ハ書式ニ準シ圖面及ヒ四隣一丁以內ノ地主並ニ家主ノ承諾証ヲ添ヘ（改造模樣換ニ係ル ハ承諾証ヲ要セス）管轄警察署ヲ經由當廳ヘ出願許可ヲ受クヘシ

但願書ニハ建築仕樣書敷地坪數幷火災消防方法ヲ記載シ之ヲ添フヘシ

第二條　廢場若クハ賣買讓與セントスル𪜈ハ管轄警察署ヲ經由其事由ヲ當廳ヘ屆出テ承認ヲ受クヘシ

第三條　大阪四區並ニ接續町村ノ劇場ハ左ノ十一ケ所ヲ以テ定限トス

但第九項以下ノ場所ニ限リ自今變災等ニ遇フモ再築ヲ許サス

一西區北堀江下通二丁目一番地　一ケ所
二仝區花園町六十五番地　一ケ所
三南區西櫓町三番地　一ケ所
四同區同町九番地　一ケ所
五同區同町十二番地　一ケ所
六同區同町一番地　一ケ所
七同區東櫓町二番地　一ケ所
八北區曾根崎新地三丁目五十三番地　一ケ所
九西區新町南通二丁目五番地　一ケ所
十同區北堀江上通二丁目十四番地　一ケ所
十一北區大工町五十二番地　一ケ所

第四條　劇場ノ構造ハ左ノ諸項ヲ遵守スヘシ

一非常災害ヲ防ク爲メ通常出入口ノ外三ケ所以上ノ非常口ヲ設クル丁

但扉ヲ用ユルハ外開ニスル丁

二空氣ノ流通ヲ便ナラシムル爲メ六ケ所以上ノ窓牖ヲ設クル丁

三機敷ノ搆造ヲ堅牢ニスル丁

四仝場見透シ易キケ所ヲ撰ミ警察官吏ノ監臨席ヲ設クル丁

五二階棧敷ハ通常ノ外二ケ所以上非常梯子ヲ設クル〻

六奈落舞臺下及ヒ花道ハ石造若クハ煉化石ニテ構造スル〻

七不燃質物ヲ以テ燈火取扱ヒノ室ヲ設クル〻

第五條　左ノ場合ニ於テハ其時々管轄警察署ヲ經由當廳ヘ屆出テ檢査ヲ受クヘシ

但檢査ノ際不堅牢ト見認ムル𪜈ハ全場若クハ其一部分ノ改良ヲ命スル〻アルヘシ

一地盤及ヒ奈落花道下構造工業ノ央

二諸材切組建方着手ノ前

三建揚ケ垂木打渡着手ノ前

四全場落成シタル𪜈

五規則第十一條第十項ノ場處ヲ設ケントスル𪜈ハ其着手前

第六條　興行ヲナサントスル𪜈ハ書式ニ準シ仕組帳及藝人鑑札ヲ添ヘ管轄警察署ニ出願許可ヲ受クヘシ其分署管轄内ニ於ケル仮設興行ニシテ普通ノ藝題ヲ演スルモノハ該分署ヘ出願スヘシ

但シ休業止業又ハ日延ヲ爲ス𪜈ハ其時々屆出ヘシ

第七條　興行ハ午后第一時ヨリ午后第十一時ヲ限ルヘシ

十九年府令第四十一号ヲ以テ五項追加

十九年甲六号ヲ以第六條改正

但非常烈風等ノ節ハ臨時停業ヲ命スル〻アルヘシ

第八條　劇場ニハ火災ヲ防ク爲メ消防器械ヲ備ヘ置クヘシ

第九條　一坪ニ付十四人十二歳未滿ノ者ハ二人ヲ以一人ニ算シ三歳未滿ハ算入セスノ割合ヲ以テ看客ノ員數ヲ定メ管轄警察署ニ屆出承認ヲ受クヘシ其定員ハ場内見易キ場處ニ掲示スヘシ

但二階棧敷ハ構造ノ摸樣ニ依リ危險ノ虞アリト認ムル𪜈ハ本條ノ割合ヲ減セシムル〻アルヘシ

第十條　便所ハ時々掃除ヲ爲シ防臭劑ヲ散布スヘシ

第十一條　劇場ニ於テハ左ノ諸項ヲ禁ス

一觀善懲惡ノ趣意ヲ失スル〻

二風俗ヲ紊スノ虞アル猥褻ノ所爲ニ渉ル〻

三興行中藝人等看客ノ坐席ヘ往來シ又ハ看客ヲ樂屋等ニ入ル、〻

四看客ヘ圖ヲ賣リ其他種々ノ名義ヲ以テ出金ヲ促ス〻

五木戸番其他ノ者通行人ニ對シ强テ參觀ヲ勸ムル〻

六藝人等看客ノ招ニ應シ芝居茶屋等ニ至ル〻

七定員外ノ看客ヲ入ル、〻

八看客ノ坐席ヲ暗黑ニスル〻

九無竈ノ燈火ヲ用ユル〻

十九年府令第四十一号ヲ以テ第九條改正

十九年府令第四十一号ヲ以テ十項追加

但鉤火又ハ差出シ等ハ此限ニアラス

十左ノ場所ノ外劇場構内ニ於テ看客ニ飲食セシムルヿ

但茶菓ハ此限ニアラス

一場内便宜ノ場所ヲ撰ヒ之ヲ區畫シテ設ケタル食室

一庭園等場外ニシテ便宜ノ場所ニ設ケタル飲食店

十一幕間ハ長クモ二十分間以上ニ亘ルヿ

但止ヲ得サル事故アリテ此制限ニ據リ難ク特ニ管轄警察署又ハ監臨警察官吏ノ承認ヲ受ケタル場合ハ格別トス

十九年甲第六号ヲ以改正

第十二條　一時劇場ヲ假設シ興行ヲ爲スモノハ本則第四條第四項第六條第七條第十條及第十一條ヲ遵守シ仍ホ空氣ノ流通及ヒ災害ノ豫防ニ注意スヘシ

但大阪四區並ニ接續町村ニアリテハ假設興行ヲ許サス

十九年府令第四十一号ヲ以テ第十四條ヲ追加シ以下順次繰下ク

第十三條　劇場ヲ假用シテ手品足藝輕業淨瑠璃影繪操人形猿狂言ノ類ヲ興行セントスルモノハ寄席取締規則及ヒ觀物興行場幷遊覽所取締規則ヲ遵守スヘシ

第十四條　此規則第七條及第十一條第七項乃至第十項ヲ遵守スルニアラサレハ劇場ニ於テ演説又ハ音曲等ノ集會ヲ爲サシムヘカラス

第十五條　劇場ニ關スル一切ノ事ハ座主其責ニ任スヘシ

但興行人若クハ俳優等ノ故意ニ係ル犯則ハ此限ニアラス

第十六條　演劇ノ仕組帳外ニ出ツルカ若クハ言語所作ノ猥褻ニ渉リ又ハ治安ニ妨害アリト見認ムルトキハ警察官吏ニ於テ一時興行ヲ停止スルヿアルヘシ

第十七條　此規則ニ違背シタル者ハ違警罪ヲ以テ罰セラル、ノ外營業ヲ停止シ又ハ禁止スルヿアルヘシ

書式ノ一（賣買讓與（賣買讓與ニ係ルハ双方連署）又ハ廢場其他興行上ニ關スル諸願屆ハ此書式ニ準スヘシ）

劇場建設願　（二通）

何國何郡區何町村何番地（寄留何府縣）身分　何誰

私儀府下何國何郡區何町村何番地ヘ劇場建設致度候ニ付別紙圖面及ヒ四隣一丁以内地主並ニ家主ノ承諾証ヲ添ヘ此段願上候也

右　何誰印

右地主　何誰印

年月日

右町村戸長

借地ナレハ地主連署ヲ要ス以下倣之

右願出候ニ付奥印候也

大坂府知事何某殿

書式ノ二

定場假設演劇興行願

何國何郡區何町村何番地(寄留何府縣)身分　(二通)

座主(興行人)　何誰

一興行場　何國何郡區何町村何番地誰所有定設劇場(又ハ誰所有地)

一名稱　何々上下何册又ハ何々事跡ヲ演スル其旨趣ヲ畧記ス

一藝人　何國何郡區何町村何番地何某々々

一木戸錢　何程(ナシ又ハ)

一場代　何程(ナシ又ハ)

一見料　何程(ナシ又ハ)

私儀何年何月何日ヨリ來ル何日迄何日間演劇興行致度候ニ付別紙仕組帳幷藝人鑑札相添〳〵此段願上候也

年月日

右　何誰印

何誰印

右願出候ニ付奥印候也

右坐主(地主)　何誰印

右町村戸長　何誰印

大阪府何警察署御中

第二款　寄席取締規則

●甲第九十三號　明治十五年九月十一日

寄席取締規則別冊ノ通相定メ本年十月一日ヨリ施行シ從前布達中此規則ニ抵觸スルモノハ同日限リ取消候條此旨布達候事

寄席取締規則

第一條　寄席ヲ新設シ又ハ改造セントスルトキハ別紙第一號書式ニ準シ其場ノ圖面及ヒ四隣一町以内地主幷ニ家主ノ承諾証ヲ添〳〵所轄警察署〳〵出願許可ヲ受ケ建築落成ノ上ハ更ニ屆出檢査ヲ受ク〳〵シ

第二條　廢席又ハ賣買若クハ讓與シタルトキハ其旨所轄警察署〳〵屆出可シ

第三條　寄席ノ構造ニ付テハ左ノ諸項ヲ遵守ス可シ

一非常ノ災害ヲ防ク爲メ通常出入口ノ外一ケ所以上ノ出入口ヲ設クルヿ

十九年府令第四十二号ヲ以テ第四條ヲ追加

二空氣ノ流通ヲ便ナラシムル爲メ四ケ所以上ノ窓牖ヲ設クル丁

三危險ヲ防ク爲メ棧敷ノ構造ヲ堅牢ニスル丁

四全場見通シ易キ箇所ヲ撰ミ警察官吏ノ監臨席ヲ設クル丁

第四條　一坪ニ付十四人（十二歳未滿ノ者ハ二人ヲ以テ一人ニ算シ三歳未滿ハ算入セス）ノ割合ヲ以テ看客ノ員數ヲ定メ管轄警察署ニ屆出承認ヲ受クヘシ其定員ハ場内見易キ場所ニ掲示スヘシ

但二階棧敷ハ構造ノ模樣ニ依リ危險ノ虞アリト認ムルトキハ本條ノ割合ヲ減セシムルヿアルヘシ

府令第四十二号ヲ以テ第四條ヲ第五條トシ以下順次繰下ケ

第五條　寄席ノ興行ハ軍談講釋落噺人情噺淨瑠璃唱歌音曲噺物眞似手品影繪操人形猿狂言輕口奴照糞身振等ノ類トス

第六條　興行ヲ爲サントスルトキハ別紙第二號書式ニ準シ所轄警察署又ハ分署ヘ願出テ許可ヲ受ク可シ

但興行ヲ止メ又ハ一時休業若クハ日延等ヲ爲ストキハ其旨屆出可シ

十六年甲第二十六号ヲ以テ現時ノ第六條ヲ若干字ヲ刪ル

第七條　興行中ハ時々便所ヲ掃除シ防臭劑ヲ散布ス可シ第八條興行ヲ爲ス時間ハ午后第一時ヨリ午後第十一時ヲ限ル可シ

十八年甲第十五号ヲ以テ現時第七條改正

第九條　寄席ニ於テハ左ノ諸項ヲ禁ス

一　演劇ニ等シキ所作ヲ爲ス事

二　勸善懲惡ノ趣意ヲ失スル事

十九年府令第四十二号ヲ以テ第六項七項追加

三　風俗ヲ害スヘキ猥褻ノ所爲ニ渉ル事

四　開場中藝人等看客ノ座席ヘ往來シ又ハ看客ヲ樂屋等ニ入ル丶事

五　看客ヘ圍ヲ賣リ又ハ其他ノ名義ヲ以テ出錢ヲ促ス事

六　定員外ノ看客ヲ入ル丶事

七　特ニ定メタル食室ノ外寄席内ニ於テ看客ニ飲食セシムル事

但茶菓ハ此限リニアラス

十九年府令第四十二号ヲ以テ第十二條追加

第十條　臨時席ヲ假設シテ興行ヲ爲スモノハ本則第一條第二條第三條ノ一項二項ヲ除クノ外總テ遵守シ且人家ヲ用ユルト小屋掛トニ拘ハラス空氣ノ流通及ヒ非常災害ノ節出入ニ便ナラシムル樣注意ス可シ

第十一條　寄席ヲ假用シテ足藝獨樂廻シ等ノ類興行セントスル者ハ觀物興行場並遊覽所取締規則ヲ遵守ス可シ

第十二條　此規則第八條及第九條第六項第七項ヲ遵守スルニアラサレハ寄席ニ於テ演說又ハ音曲等ノ集會ヲ爲サシムヘカラス

十五年甲第百廿号ヲ以テ第十五條追加

第十三條　寄席ニ關スル一切ノ事ハ席主其責ニ任ス可シ

第十四條　興行ノ所作猥褻ニ渉リ又ハ治安ニ妨害アリト認ムルトキハ警察官吏ニ於テ一時興行ヲ停止スルヿアルヘシ

第十五條　此規則ニ違背シタル者ハ違警罪ヲ以テ罰セラルヽノ外營業停止又

ハ禁止スルヿアルヘシ

第一號書式

寄席建設願

何府縣何國何郡區何町村何番地住〔寄留〕
何府縣族籍職業　何　誰

私儀府下何國何郡區何町村何番地ヘ寄席建設仕度ニ付別紙構造ノ圖面及ヒ四隣地主並ニ家主ノ承諾書相添ヘ此段奉願候也

右　何　誰

明治何年何月何日

何府縣何國何郡區何町村何番地住族籍
地主又ハ〔家主〕　何　誰　印

前書願出ニ付奥印候也

右何町村戸長　何　誰　印

大阪府何警察署分署御中

十八年甲第十五号ヲ以テ分署ノ二字追加

第二號書式

定設寄席興行願（假設寄席興行願）

何府縣何國何郡區何町村何番地住〔寄留〕
何府縣族籍職業　何　誰

一興行場　何國何郡區何町村何番地〔何ノ誰所有地〕
一名　稱　何々上下何册又ハ何々ヲ演スル其趣旨ヲ詳記ス
一藝　者　何府縣何國何町村何番地何某々々
一木戸錢　何程（又ハナシ）
一場　代　何程（又ハナシ）

私儀何年何月何日ヨリ何年何月何日迄寄席興行仕度ニ付藝者鑑札相添ヘ此段奉願候也

右　何　誰　印

何府縣何國何郡區何町村何番地住族籍
地主又ハ家主

明治何年何月何日

臨時仮設ニ限ル

前書願出ニ付奥印候也

何誰㊞

右何町村戸長　何誰㊞

大阪府何警察分署御中

第三欵　觀物興行場幷ニ遊覽所取締規則

甲第九十四號　明治十五年九月十一日

觀物興行場幷ニ遊覽所取締規則別冊ノ通相定メ本年十月一日ヨリ施行シ從前布達中此規則ニ抵觸スルモノハ同日限取消候條此旨布達候事

觀物興行場並遊覽所取締規則

第一條　觀物興行場並遊覽所ヲ開設セントスルトキハ別紙書式ニ準シ其場所四隣一町以内ノ地主幷ニ家主ノ承諾証ヲ添ヘ免許地又ハ社寺境内ニ在テハ其地主管者ノ奥印ヲ受ケ所轄警察署又ハ分署ヘ願出テ許可ヲ受クル可シ

但廣場又ハ一時休業若シクハ日延ヲ爲ストキハ其旨届出可シ

第二條　見料ヲ受ケスシテ興行ヲ爲サントスルトキハ前條ノ手續ニ從フ可シト雖ヒ盆踊等ノ如キハ所轄警察署又ハ分署ヘ届出テ別ニ許可ヲ受クルニ及ハズ

十八年甲第十五号ヲ以テ分署ノ二字追加ス

十八年甲第十五号ヲ以テ(又ハ分署)ノ四字追加ス

第三條　觀物興行場並ニ遊覽所ニ於テハ左ノ諸項ヲ爲スモノトス

一　角力、足藝、力持、輕業、獨樂廻、曲馬、及ヒ其他ノ技藝

二　天産ノ物品及ヒ魚鳥獸又ハ人造ノ物品

但シ庭園ニアル草木等ヲ觀覽ニ供スルハ此限ニ非ス

第四條　觀物興行場並遊覽所ノ構造ニ關テハ左ノ諸項ヲ遵守スヘシ

一　棧敷ヲ要スル分ハ危險ヲ防ク爲メ之ヲ堅牢ニスル事

二　角力場ノ如キハ全場見通シ易キ箇所ヲ撰ミ警察官吏ノ臨席ヲ設クル事

第五條　觀物興行場幷遊覽所ニ於テハ左ノ諸項ヲ禁ス

一　人造物ヲ天造物ト稱シ又ハ事實ニ相違シタルヿヲ揚言スルヿ

二　看板ト實物ト相違スル事

三　風俗ヲ害スヘキノ所爲又ハ不具異樣ノ人身及ヒ臭氣アル腐敗物

四　木戸錢又ハ見料ノ外看客ニ對シ圖ヲ賣リ又ハ他ノ名義ヲ以テ出錢ヲ促ス事

第六條　興行ヲ爲ス時間ハ日出ヨリ日沒マテニ限ルヘシ但神佛祭典等ノ際社寺境内等ニ於テ爲ス興行ハ夜間十二時ヲ限リトス

第七條　臺神樂、角兵衛獅子、萬歳、猿廻シ居合抜、覗目鏡等ノ類ハ前第六條及ヒ左ノ諸項ヲ遵守スヘシ

十九年甲第十三号ヲ以テ(娯楽)ノ二字ヲ冒除ス

一　道路ニ於テ通行ノ妨ケヲ爲ス可カラサル事

二　猥リニ人家ニ立入リ強テ金錢等ヲ乞フ可カラサル事

第八條　觀物興行場幷遊覽所ニ於テ唱歌手品其他猥狂言等ヲ爲サントスル者ハ寄席取締規則ヲ遵守スヘシ

第九條　觀物興行幷遊覽所ニ關スル一切ノ事ハ場主其責ニ任スヘシ

第十條　此規則ニ違背シタル者ハ違警罪ヲ以テ罰セラルヽノ外營業ヲ停止又ハ禁止スルヿアル可シ

十五年甲第百廿七号ヲ以第十條ヲ追加ス

別紙書式

觀物興行場又ハ遊覽所開設願

何府縣何國何郡區何町村番地（寄留）

何府縣族籍職業

興行人　何誰

一場所　府下何國何郡區何町村何番地免許地又ハ誰所有地

一種類　何々其物ノ性質又ハ藝人何府縣何國何郡區何町村何番地何誰々

一見料　何程（又ハナシ）

一木戸錢　何程（又ハナシ）

私儀何年何月何日ヨリ何年何月何日迄觀セ物興行又ハ遊覽所設置（又ハ同上無見料）仕度ニ付藝人鑑札又ハ何々繪圖相添ヘ此段奉願候也

右

明治何年何月何日

何府縣何國何郡區何町村何番地族籍　何誰㊞

地主　何誰㊞

右何町村戸長　何誰㊞

前書願出ニ付奥印候也

大阪府何警察署分署御中

十八年甲第十五号以分署ノ二字ヲ追加ス

第四欵　遊技場營業取締規則

●甲第百十八号　明治十五年十月廿五日

遊技場營業取締規則別冊ノ通相定メ本年十二月一日ヨリ施行候條此旨布達候事

但此規則ニ抵觸スル從前布達ハ仝日限リ取消候事

遊技場營業取締規則

第一條　此規則ニ於テ遊技場トハ玉突、室内射的銃、大弓、半弓、揚弓、投扇競鞠投、人形倒シ、及ヒ吹矢等ノ類ヲ以テ營業ト爲ス者ヲ云フ

但神社佛閣ノ祭典或ハ衆人群集ノ場所等ヘ轉輾シテ時々出店シ專ラ菓物等ヲ販賣スルヲ目的トスル商業者モ亦本條ニ準據スヘシ

第二條　開業ヲ爲サントスル者別紙第一號書式ニ倣ヒ所轄警察署又ハ分署ヘ願出許可ヲ受ケ廢業ノ節ハ別紙第二號書式ニ倣ヒ其旨屆出ツ可シ

第三條　室内射的銃大弓及ヒ半弓場營業者ハ左ノ項々ヲ遵守シ構造落成ノ上ハ警察官ノ檢査ヲ經サレハ開場ス可カラス

一　流彈ヲ防ク爲メ堅牢ニ的場ヲ設クル事

二　射程ノ距離ハ五間以上ニ限ル事

第四條　遊技ノ代料ヲ定メ店頭ニ掲示ス可シ

第五條　營業者ニ於テハ左ノ諸項ヲ禁ス

一　白痴瘋癲及ヒ酩酊人等ニ遊技ヲ爲サシムル事

二　夜間十二時ヲ過クル事

三　總テ利益ヲ僥倖スル所業ヲナス事

四　客ヲ宿泊セシメ又ハ猥褻ノ所業ヲナス事

五　室内射的場ニ於テ消費スルノ外他人ヘ雷管ヲ轉賣スル事

十五年甲第百十四号ヲ以テ但書ヲ追加シ十八年甲第十五号ヲ以テ（又ハ分署）ノ四字ヲ追加ス

十五年甲第二百十七号ヲ以テ第八條ヲ追加ス

第六條　場主ハ遊技場一切ノ責ニ任ス可シ

第七條　遊技場ハ臨時警察官ヲシテ臨檢セシメ道路等ニ妨害アリト認ムル時ハ制止スル事アル可シ

第八條　此規則ニ違背シタル者ハ違警罪ヲ以テ罰セラルヽノ外營業ヲ停止又ハ禁止スル事アルヘシ

第一號書式

遊技場開設願

府下何國何郡何區何町何村何番地住（寄留）
何府何縣族籍職業　何　誰

私儀（府下何國何郡何區何町何村何番地）（社寺境内其他人民群集ノ地）ニ於テ何々（營ムヿヲ記ス）場開設營業仕度ニ付此段奉願候也

明治何年何月何日

府下何國何郡何區何町何村何番地住（寄留）
何府何縣族籍職業　誰　㊞

右

家主（地主）

（大阪市街（接續町村ヒ及ヒ堺區ノ如キ取締人アル場所ハ其取締人連署ス可シ）
前書願出ニ付奥印候也

何　誰㊞
取締
何　誰㊞

右村戸長
何　誰㊞

第二號書式　大阪府何警察署分署御中

藝技場廢業屆

府下何國何郡區何町村何番地住（寄留）
何府縣族籍職業
何　誰

私儀明治何年何月何日御許可ヲ受ケ何々（營業セシ業名ヲ記ス）場開設營業罷在候所今般廢業可仕ニ付此段御屆申上候也

右
何　誰㊞
取締

明治何年何月何日

仝上

（大阪市街（接續町村ヒ及ヒ堺區ノ如キ取締人アル場所ハ其取締人連署ス可シ）
大阪府何警察署分署御中

何　誰㊞

第五欵　諸興行取扱手續及雜件

○本甲第四十二号　明治十八年四月十七日　警察署（水上署ヲ除ク）

諸興行取扱手續別紙之通リ相定候條此段及通達候也

但從來ノ通達指令等ニシテ此手續ニ抵觸スルモノハ之ヲ廢止ス

諸興行取扱手續

第一條　劇場ノ新設又ハ改造等願出タルトキハ實地ヲ檢査シ意見ヲ詳悉上申シ願書ハ第二部ヘ送致スヘシ

第二條　工事中規則第五條ニ依リ屆出タルトキハ其都度第二部ヘ該屆書ヲ送致ス可シ

第三條　演劇興行及ヒ寄席新設又ハ改造願ハ警察署ニ於テ調理ス可シ

第四條　寄席ノ新設又ハ改造等ヲ願出タルトキハ實地ヲ檢査シ建築仕樣書ヲ徵シ其都度稟議ノ上許否指令ス可シ

第五條　演劇興行ヲ願出タルトキハ仕組ヲ帳檢査シ書式ニ準シ許否指令ス可シ

但至尊ノ御形容ヲ摸擬シ又ハ皇德ノ藝瀆ニ係ルモノハ許可スル限リニアラス其他著シク風俗ニ傷害ヲ與フルノ恐レアルモノハ稟議ノ上許否ス可

十八年本甲百九号ヲ以テ第六條ヘ若干字ヲ挿入ス

シ

第六條　寄席興行幷ニ觀物場遊覽所遊技場ノ開設又ハ仮設寄席及演題普通ノ仮設演劇興行願ハ實地檢査ヲナシ（開設又ハ假設願ノ外ハ檢査ヲ要セス）各規則ニ照シ書式ニ準シ許否指令スヘシ

第七條　凡テ聞屆難キ指令ヲ爲シタルトキハ一面其理由ヲ口示スヘシ

第八條　寄席等新設願ニシテ其場所分署所轄地ニ係ルハ該分署ニ於テ實地檢査ヲ爲シ意見ヲ附シ願書ハ所屬警察署ヘ送附ス可シ

十九年九月本達乙第三十一號ヲ以指令書式改正

第九條　收稅ニ係ル諸興行等ヲ許可シ又ハ日延一時休業等屆出タルトキハ其場所日數及ヒ興行ノ種類幷ニ興行人住所氏名等遺漏ナク所轄郡區役所ヘ通知ス可シ

但分署ニ於テ調理シタル事件ハ根署ヘ通知シ根署ハ本條ノ手續ヲ爲ス可シ

手續第四條第五條ニ係ル指令書式

書面之趣（許可ス）（許可セス）

年　月　日　　大坂府

手續第六條ニ係ル指令書式

何警察署（分署）印

年　月　日　　大坂府

手續第九條ニ係ル通知書式

何警察署印

原籍身分

相撲（又ハ何々）（何月何日ヨリ何月何日マテ）（又ハ何日間）（日延）（休業）姓　名

右ハ頭書之通何地ニ於テ何々興行（又ハ何々）聞屆（屆出）候條此段及御通知候也

年　月　日　　大坂府

郡區役所御中　　何警察署印

右　仝　文　　何々警察署

何々分署印

警察署御中

○警第六號　　明治十四年三月廿四日

左ノ通御達相成候條此段及通達候也

市郡各署

丁第五十九號　明治十四年三月廿四日　警察本署

〔摘要〕但諸興行定盾ノ廢設及外國人ニ關スル興行ハ從前之通其署ニ於テ可爲調理事

○本甲第十號　明治十六年一月十二日　各署

客年十月甲第百十八號ヲ以テ遊技場營業取締規則布達相成候處或ハ許否上見解ヲ異ニセシ向モ有之無右ハ左之通ニ候條爲心得此段及説明置候也

一規則第二條ニ依リ吹矢文廻ノ類時々轉輾シテ營業スルモノヲ甲署ニ於テ許可シタルトキハ該署管内何レノ地ヲ問ハス營業スルモ不苦然レトモ公衆ノ妨ケニ可相成場所ノ如キハ臨時位置ヲ變換セシムルハ勿論タリ

一甲署ニ於テ受ケ得タル指令ヲ以テ乙署管内ニ這リ營業スル儀ハ素ヨリ不相成更ニ乙署ヘ出願セシム

但本文甲署ノ許否權ハ該署管内ノミ周到スルニ止リテ他管ニ及ホスノ權ナキニ依ル

○本甲第二百七號　明治十六年一月十九日　警察署

圍碁象棋及ヒ借馬打毬蹴鞠又ハ自轉車等ヲ以テ營業トナシ場所ヲ開設スルモノハ遊技場取締規則第一條ニ包含スル儀ト心得可シ爲念此段及通達候也

○本甲第七十九號　明治十六年四月四日　各署

遊藝稼人ト素人ト混淆シ諸興行（受錢）ハ不相成等ニ候處撃劍會興行ニ限リ鑑札有無ニ不拘許可不苦等ニ候條爲心得此段及通達候也

○本甲第百六十六號　明治十六年九月廿五日　各署（水上署ヲ除ク）

劇場ニ於テ行人ニ對シ參觀ヲ勸メ候儀ハ該取締規則第八條第五項ニ於テ禁止候處輓近ニ至リ本戸番等ノ者ニ於テ强勸候向モ有之趣相聞ヘ甚タ不都合ニ候條已來右樣ノ儀無之樣取締方一層注意可致此段及通達候也

○乙第百十五號　明治十六年十一月八日　（區部各署　曾根崎署　天王寺署）

演劇開場ノ節又ハ演題出摘ヒタル時其他人席等ヘ爲視察臨時本署員派出爲致候儀モ可有之候條爲心得此段及通達候也

○本甲第百廿三号　明治十七年十一月十日　警察署（水上署ヲ除ク）

角力演戲等興行中風雨其他ノ故障ノ爲メ半日又ハ若干時間ニシテ止業候節取扱方區々ニ相渉居候趣ニ候處右ハ自今本戸錢又ハ見料場代等苟モ營業者ヘ取受候モノハ一日ノ興行ト見做シ可取扱此段及通達候也

○本甲第百三十六號　明治十七年十二月二日　警察署

角兵衛獅子萬歳或ハ尺八吹業ノ類ニシテ場所ヲ定メス營業候モノハ出願セシムル限リニ無之候處或ハ出願セシムル向有之趣右ハ其儀不及候條爲心得此段通達候也

十七年甲第廿一号ヲ以テ規則改正ニ付本文中第八條トアルハ改正規則第十一條五項ニ當ル

○内第二號　　明治十八年二月廿六日　　各警察署

尺八吹營業者（舊稱空無僧）取扱方ノ儀ニ付客年五月廿九日付ヲ以テ内達致置候次第モ有之候處輓近ニ至リ漸ク弊害有之趣キニ付該者營業者ハ速ニ轉業候樣説諭可致旨今般遊藝稼人取締ヘ口達致置候條以後徘徊候ハヽ異樣ノ扮裝若クハ漫リニ金品ヲ乞ヒタル等ノ廉ヲ以テ嚴責シ向後營業不相成旨説諭シ尚自今三十日間ヲ經過シ徘徊候者ハ相當處分候樣可取計此段反内達候也

○内第八號　　明治十九年二月六日　　警察署

輓近山男ト稱ヘ魚鳥又ハ虫ノ類ヲ生ナカラ啖スルヲ觀物トナシ興行候者有之趣相聞ヘ右ハ多少風俗ニ關係致候條現ニ興行候者ハ當期ヲ限リ其他ハ許可セサル樣可取計此段内達候也

○本乙第五十號　　明治十九年六月八日　　區部（曾根崎天王寺）警察署

近來文廻業ノ者往々有價ノ器具又ハ反物類ヲ陳列スル向有之取締上不都合ニ候條此際營業者一同ヲ各署ニ召喚シ嚴重説諭ヲ加ヘ自今左ノ品種ニ限リ陳列ヲ許シ其他ハ一切嚴禁トシ各請書ヲ徵シ然シテ爾後犯スモノ無キ樣取締方注意スヘシ此段相達候也

但新規開業ノ者モ亦本文ニ準シ請書ヲ徵スヘシ

菓子及菓實

小兒ノ玩弄品

○本乙第五十一號　　明治十九年六月八日　　郡部警察署（曾根崎署天王寺署ヲ除ク）

自今文回開業出願ノ節ハ左ノ品種ニ限リ陳列ヲ許シ其他ハ一切禁止ノ旨ヲ嚴達シ相當ノ請書ヲ徵シ嚴重取締ヲ爲スヘシ從前開業ノ者ニシテ右制限ヲ超ユル向ハ此際其署ニ召喚シ前文ノ手續ヲ爲スヘシ此段相達候也

菓子及菓實

小兒ノ玩弄品

○本乙第六十二號　　明治十九年十二月四日　　警察署（水上署ヲ除ク）

府令第四十一號及第四十二號ヲ以テ劇場及寄席取締規則中改止相成候ニ付テハ左之諸項心得ヘシ

一　定員ハ棧敷土間第一區畫アル毎ニ其人員ヲ定メテ各其場所ニ掲示セシメ且定員ヲ記入シタル看客席ノ略圖ヲ監臨席ニ掲出セシムヘシ

一　演劇幕間ハ十五分間以内ヲ以テ通例トス若シ二十分以上ニ亘ルヿヲ申出タルトキハ藝題替等ノ際道具立不揃ノ爲メ又ハ看客喫飯ノ爲メ其他止ヲ得サル場合ニ限リ相當ノ時間ヲ限リテ認可シ猥リニ延長セシメサル樣注意スヘシ

一　茶ノ外飲食物ハ攝内飲食店ノ外ニ於テ賣ラシムヘカラス

○參考東區役所伺 明治十五年月二十一日

淨瑠璃祭文落語輕口舞手踊ノ類見料若クハ木戸錢棧敷場代等ノ類ヲ觀客ヨリ受クルノ興行ニシテ其技手ニハ遊藝稼ノ鑑札所有セサル人ノミヲ用ヒ若クハ所有スル人ト所有セサル人トヲ取併セ相違度段出願者アルモ難聞屆義ト可心得旨一昨十九日當役所四六號伺書ニ對スル御指令ノ旨致了承候就テハ近來擧劍柔術ノ技ニ練熟セル人ヲ聘シ人寄席若クハ仮小屋等ニ於テ該技ヲ演セシメ諸人ノ來觀(見料木戸錢ノ類ヲ受クルハ勿論)ニ供スルノ擧ヲ擊劍柔術興行ト名ツケ該興行ノ許可ヲ願出ル者時々有之候處該技ニ對シテハ遊藝稼鑑札下附ノ限ニアラサル旨曾テ地方稅掛ノ訓示ニヨリ該演技手ハ盡ク無鑑札人計リニ有之依テ此興行モ先キノ御指令ニ比準スルトキハ見料ヲ受ケサル分ハ格別見料ヲ受クル分ニ在テハ一應難聞屆筋ニ相當ル樣ニ候得共固ト鑑札ヲ發ス可カラサル邊ニ於テハ淨瑠璃其他ノ類ト同視難致譯ケニ付見料ヲ受クルノ擧ナルモ聞屆敢テ差閊無之候哉右ハ先キノ伺定メヨリ聊疑感ヲ卒起候ニ付爲念相伺候條至急御指令有之度候也

指令 十五年八月八日

書面伺之趣聞屆不苦義ト可心得事

第六欵 諸興行巡視心得

○本甲第三百二號 明治十五年九月廿七日 各署

諸興行巡視心得左ノ通改正候條此段及通達候也

但シ此規則ニ抵觸スル從前ノ諸達ハ取消候事

諸興行巡視心得

第一條 劇場興行中ハ巡査二名以上五名以下ヲ出張セシメ其巡査ハ左ノ諸項ニ注意セシム可シ

一 場中噪鬪及ヒ盜偷ヲ防ク事

二 火器ノ取締ヲ嚴ニスル事

三 棧敷ヘ定員外ノ看客ヲ入ラシメサル事

四 看客ニ對シ闌ヲ賣リ其他種々ノ名義ヲ以テ出錢ヲ爲サシメサル事

五 看客ヲ藝人ノ化粧場又ハ樂屋等ヘ出入セシメサル事

六 時々便所ノ掃除ヲ爲サシメ及ヒ防臭液ヲ散布セシムル事

七 藝人ヲ看客ノ座席ニ往來セシメサル事

八 看客ノ招キニ依リ俳優ヲ芝居茶屋ニ往カシメサル事

九 夜間十二時後興行ヲ爲サシメサル事

十 看客解散ノ時木戸口ニ在テ其雜沓ヲ制スル事

第二條 外勤警部及ヒ警部補又ハ其代理巡査ハ時宜ニ依リ劇場ニ臨檢シ左ノ

諸項ニ注意ス可シ

一　風俗ヲ害スヘキ猥褻ノ所爲ナカラシムル事

二　勸善懲惡ノ主意ニ悖ラシメサル事

三　皇德ノ褻瀆ニ係ラシメサル事

四　出張巡査ノ形容ヲ正シクセシムル事

五　出張中猥リニ談話セシメサル事

六　故ナク其詰所ヲ離レシメサル事

七　茶ヲ飲ムノ外飲食セシメサル事

第三條　寄席ノ興行ハ現場ノ模樣ニ依リ巡査一名以上三名以下ヲ出張セシメ其出張シタル巡査ハ前第一條（八項ヲ除ク）ノ通心得ヘシ

第四條　外勤警部及ヒ警部補又ハ其代理巡査ハ時宜ニ依リ寄席ヘ臨檢シタルトキハ前第二條ノ通リ心得ルノ外猶左ノ諸項ニ注意ス可シ

一　演劇類似ノ所作ヲ爲ス事

二　軍談講釋等ノ政談ニ涉ル事

第五條　觀物場幷ニ遊覽所ノ興行ハ角力場ノ如キ雜沓スル場合ニ限リ巡査一名以上又ハ三名以下ヲ出張セシメ其出張シタル巡査第一條ノ一項二項三項四項十項ノ通リ心得ルノ外猶左ノ諸項ニ注意スヘシ

一　看客勝負ニ事寄セ賭博ノ所業ヲ爲ス事

二　場內ノ圍ニ三ケ所以上ノ便所ヲ設ケ置カシムル事

第六條　外勤警部及ヒ警部補又ハ其代理巡査ハ臨時觀物場幷ニ遊覽所ヘ巡視シタルトキハ左ノ諸項ニ注意スヘシ其巡査ノ出張シタル場合ニ於テハ尙第二條ノ四項五項六項七項ノ通心得ヘシ

一　看板ト實物ト相違シタル事

二　人造物ヲ天然物ト稱シ又ハ願面ニ相違シタル事

三　風俗ヲ害スヘキ猥褻ノ所爲又ハ不具異樣ノ人身ヲ觀覽セシムル事

四　木戸錢又ハ見料ノ外種々ノ名目ヲ以テ來客ニ出錢ヲ促ス事

五　社寺境內等ノ外日沒後閉場ノ事

第七條　出張巡査ニテ一時說諭ニ止ムルノ外第二條ノ一項二項三項ノ違背及ヒ其他取締規則ニ犯則ノ者アルヲ認メタル時ハ其旨速ニ具申又ハ告發ス可シ

第八條　外勤警部又ハ其代理巡査臨檢ノ際本則第二條第四條第六條ノ各項ニ於テ興行ヲ停止又ハ禁止及ヒ改正セシメントスル場合アルトキハ其旨詳細ニ筆記シ本屬署長ヲ經由シ警察本署ヘ申告ス可シ

○本甲第三百四十二號　明治十五年十月廿八日　各署（水上署除之）

本年九月本甲第三百二號通達諸興行巡視心得第一條第三項ニ棧敷ヘ定員外ノ看客ヲ入ラシメサル事ト有之候處定席演劇場有之各署ハ其劇場持主ヨリ豫メ二階棧敷ヘ容ル可キ定員ヲ届出候樣可致此段及通達候也

但一時仮設ニ係ル劇場ハ其興行願書中ヘ記入爲致候樣可取計候事

○本甲第三百四十七號　明治十五年十一月二日　各署

本年本甲第三百二號諸興行巡視心得第二條第三項處分例左ノ通心得ヘシ

此段及通達候也

一　至尊ノ御形容ヲ摸擬スルモノハ一切之ヲ禁ス

一　言語中皇德ヲ稱揚スルニ係ルハ不問ニ付ス例セハ「何天皇ニ忠勤シ何天皇ヨリ拜領云々ノ類ノ如シ

一　言語中苟モ皇德ヲ褻瀆シ奉ルニ係ルモノハ一切之ヲ禁ス例セハ「何天皇ニ敵對シ目指シ敵キハ何天皇云々ノ類ノ如シ

第四編　衛生

第一章　飲食物

第一款　飲食物取締規則

●甲第百三號　明治十九年六月三十日

飲食物取締規則左ノ通相定明治十九年七月十五日ヨリ施行ス但當分ノ内大阪四區接續町村堺區及ヒ奈良市街ヲ以テ施行ノ區域トス

飲食物取締規則

第一條　凡ソ飲食物ヲ店舗ニ露列シ若クハ行商スル者ハ此規則ニ遵フヘシ

第二條　飲食物ハ沙塵及虫類ノ付着セサル樣適宜ノ覆蓋ヲ爲スヘシ但穀物、菓物、乾物、野菜、及料理ヲ經サル魚鳥類其他皮ヲ剝キ又ハ洗ツテ後チ食用スヘキ物品ハ此限ニ非ラス

第三條　路傍ニ於テ飲食物ヲ料理シ又ハ烹焚シ及飲食廚ヲ設クルトハ公衆ノ目ニ觸レサル樣暖簾又ハ簾垂等ヲ掲クヘシ但公園橋上等特ニ許可ヲ得タル飲食廚ハ此限ニアラス

第四條　飲食物ノ種類又ハ塩所ノ模樣ニ依リ前二條ニ據リ難キ者ハ其事由ヲ具シ管轄警察署ニ届出認可ヲ受クヘシ

第五條　警察官吏ハ臨時店舗若クハ行商者ニ就キ飲食物ヲ檢査スヘシ

第六條　飲食物ノ健康ニ害アリト認ムルモノハ其販賣ヲ差止仍ホ現品ヲ棄却セシムルヿアルヘシ

第七條　凡ソ營業上ニ關シテハ家族雇人等ノ所爲ト雖ヒ營業者一切其責ニ任ス可シ

第八條　此規則第二條第三條ニ違背シタル者ハ刑法第四百二十六條ノ刑ニ處セラレ仍ホ所犯情狀ニ因リ營業ヲ停止スルヿアルヘシ其營業上ニ關シ輕罪以上ニ處セラレタル者亦仝シ

右布達候事

第二欵　飲食物取締事務取扱手續

○本甲第八十三號　明治十九年六月三十日　警察署

飲食物取締事務取扱手續左ノ通相定ム此段相達候也

飲食物取締事務取扱手續

第一項　規則第一條第二條ニ掲クル飲食物ノ裝置ニ付テハ本則施行ノ期日以前便宜ノ方法ヲ以テ各營業者ニ示諭シ常ニ巡査ヲシテ實地ノ景況ヲ視察セシメ若シ違フ者アルトキハ懇切ニ說諭シテ履行セシムヘシ

第二項　巡査ノ說諭ニ應セサル者ハ署ニ喚徵シテ嚴戒シ仍ホ從ハサル者ハ相當ノ處分ヲ爲シ其情狀特ニ重ク營業停止ヲ必要ト認ムルトキハ事由ヲ具シテ本署ニ稟申スヘシ

第三項　規則第四條ニ掲クル事故ノ屆出ヲ爲シタルトキハ事實ヲ審按シ時宜ニ因リ實地ヲ檢査シ情狀不得止ト認ムルモノハ認可ノ指令ヲ與フヘシ其疑似ニ涉リ若クハ關係ノ大ナルモノハ事由ヲ具シテ本署ニ稟議シ指揮ヲ得テ處分スヘシ

第四項　規則第五條ニ掲クル飲食物ノ檢査ハ不熟ノ菓物又ハ有病ノ鳥獸肉其他腐敗ニ傾ムキタル物品等充分有害品ト認メタル場合ニ限リ施行スヘシ

但其檢査スヘキ旨營ヲ業者又ハ家族等ニ通告シテ后ヲ着手スヘキモノトス

第五項　前項檢査ノ上果シテ有害品ト確認シタルトキハ直チニ規則第六條ニ依リ販賣ヲ差止受書ヲ徵シ且其物品ノ種類ニ從ヒ便宜ノ場所ニ投棄セシメ尙其所爲ニ付テハ相當ノ處分ヲ爲シ其旨本署ニ報告スヘシ其疑似ニ涉リ若クハ關係ノ大ナル者ハ事由ヲ具シテ本署ニ稟議シ指揮ヲ俟テ處分スヘシ

第六條　此規則未行地大坂四區西區接續町村堺區及奈良市街ノ外ニ居住スル營業者ニシテ施行地內ニ出入行商スル者ニハ其居住地所轄ノ署ニ於テ便宜ノ方法ヲ以テ犯則等ナキ樣懇諭スヘシ

飲食物取締事務取扱手續

一　此規則ハ第一ニハ路傍ニ於テ販賣スル飲食物ノ沙塵ニ掩ハレ蠅類ニ穢サル、等ノ不潔ヲ防ク衛生上ノ目的第二ニハ路傍ニ於テ肉ヲ割キ物ヲ煮又公ケニ飲食ヲ爲サシムル等ノ陋習ヲ矯ムル風俗上ノ目的ヨリ成ルモノトス

二　第一ノ目的ニ付テハ規則第二條ニ示ス如ク適宜ノ覆蓋卽チ簾、布、又ハ硝子蓋等ヲ以テ之ヲ覆ハシムルヿ最モ必要ナリトス然レ𪜈此條ハ重ニ煮賣屋、すし屋、牛肉、餡餅、あめ、菓子、砂糖、天麩羅、及魚鳥ノ切身等最モ沙塵及虫類ノ付キ易キ部類ニ適用スルノ精神ニシテ同條但書ニ示セル皮ヲ去リ又ハ洗滌ヲ經ヘキモノハ勿論其他昆布、煎餅等ノ如キ乾燥質物ニシテ汚物付着ノ患少ナキモノニハ總テ覆蓋ヲ爲サシムルニ及ハス

三　第二ノ目的ニ付テハ第三條ニ示ス如ク暖簾若クハ簾垂障子等ノ設ケヲ爲サシメサルヘカラス然シテ此條ノ精神モ亦公然路傍ニ於テ肉ヲ屠ル者、饅ヲ割ク者、其他しる、おでん、やわた卷、金つば、燒餅、及煮込牛肉等ノ如キ總テ不体裁ノ外見ヲ掩ハントノ主旨ニシテ彼ノ燒芋氷店其他行商者ニ於テ賣渡ノ際一時料理ヲ爲スノ類ハ此條ニ據ルノ限ニ非ラス又路傍トアルハ獨リ街路ノ區域內ニ止マラス街路ニ沿フタル店頭及社寺公園等苟モ公衆ノ通行シ得ル場所ハ皆此條ニ據リ整理スヘキ筈ナレ𪜈其店內ニ係ル

分ハ甚シキ不体裁ナキ限リハ可成不問ニ措クヲ可トス

四　飲食物ノ種類多キ固ヨリ枚擧ニ遑アラス以上列記スル所ハ僅ニ一二ノ概例ヲ擧ケテ其方針ヲ示スニ過キス此他ハ當局者ニ於テ實地實物ニ就キ宜シク類推參酌スル所アルヘシ

第三款　氷雪營業取締規則

●甲第八十七號　明治十七年十二月十八日

明治十六年四月當府甲第十九號布達氷雪營業取締規則別冊ノ通改正ス

氷雪營業取締規則

第一條　凍氷ヲ製造（天然凝氷モ包含ス）セントスルモノハ毎年十月卅一日限リ製造場幷ニ近傍地形（山林溪谷田畑道路人家等ノ模樣）ノ圖面及製造幷ニ構造方法書相添ヘ願出ヘシ

但蒸氣器械ヲ用ユルモノハ其場所ノ圖面及四方六十間以內地主家主現住者ノ承諾證ヲ添ヘ別ニ製造場設置ノ許可ヲ受クヘシ

第二條　天然雪ヲ採取セントスルモノハ其場所圖面相添ヘ願出ヘシ

第三條　氷雪貯藏場ヲ設ケントスルモノハ願出許可ヲ受ケ且ツ該場ヲ貸借シ若クハ廢スルトキハ其旨屆出ヘシ

但免許ノ場所ト雖モ有害若クハ不潔ト認ムルトキハ場所換又ハ修理ヲ命スルヿアルヘシ

十八年甲第十四號ヲ以テ若干字ヲ追加ス

十八年甲第十四號ヲ以テ若干字ヲ追加ス

第四條　氷雪ヲ他府縣ニリ輸入シ貯藏セントスルトキハ該管廳ノ添書又ハ製造採取許可書ノ寫ヲ添ヘ願出現品ノ檢査ヲ受クヘシ

第五條　二ケ所以上ニ於テ製造又ハ採取シタル氷雪ヲ同室ニ貯藏スルトキハ其室内ヲ區畫シ各產地ヲ標記スヘシ

第六條　凍氷製造又ハ天然雪採取ノ許可ヲ受ケタルトキハ指令寫ヲ添ヘ所轄警察署又ハ分署ヘ屆出ヘシ

第七條　氷雪貯藏場幷卸小賣營業人ハ所轄警察署ヘ願出看板ノ記号ヲ受ケ營業ノ際ハ之ヲ店頭ニ掲ケ行商者ハ別ニ看板ノ記号ヲ受ケ適宜其容器ニ表出スヘシ若シ看板ヲ遺失シタルトキハ其旨屆出テ更ニ記号ヲ願受クヘシ

但家屬雇人等ヲシテ行商セシムルモノハ各自ニ看板ノ記号ヲ願受クヘシ

第八條　貯藏場ヲ廢シ又ハ氷雪ノ卸小賣及ヒ行商ヲ廢業シ若クハ他ノ警察署所轄内ニ轉住セントスルトキハ所轄警察署ヘ屆出看板記号ノ消印ヲ乞フヘシ

第九條　氷雪營業者ニシテ住所氏名ヲ轉換シ及ヒ代換等ノ場合ニ於テハ其旨所轄警察署ヘ屆出ヘシ

第十條　看板ハ賣買賃借等ヲ爲スヘカラス

第十一條　他府縣ニ於テ貯藏セシ氷雪ヲ引取リ或ハ買受ケ卸賣セントスルトキハ產地噸數貯藏場等ヲ詳記シ其時々願出現品ノ檢査ヲ受クヘシ

第十二條　氷雪ヲ他府縣ニ輸出セントスルトキハ產地噸數及ヒ輸出ノ事由ヲ詳記シ其時々屆出ヘシ

第十三條　前年殘餘ノ氷雪ヲ卸賣セントスルトキハ其產地噸數並貯藏等ヲ詳記シ願出現品ノ檢査ヲ受クヘシ

第十四條　貯藏ノ氷雪ヲ卸賣セントスルトキハ願出許可ヲ受クヘシ

第十五條　卸賣許可ノ氷雪ヲ買受ケ之ヲ卸賣セントスルモノハ其產地貯藏場等ヲ詳記シ試驗成績告示書寫相添ヘ賣渡人連署ヲ以テ願出許可ヲ受クヘシ

第十六條　卸賣營業人ニ於テ氷雪ヲ小賣營業人ヘ賣渡ストキハ其產地及氷雪濟ヲ証スル爲メ保証書ヲ交付スヘシ

第十七條　氷雪ヲ小賣セントスルモノハ當府免許卸賣營業人ヨリ買受ケ其保証書ヲ取置キ行商者ハ常ニ之ヲ携帶シ若シ家屬雇人等ヲシテ行商セシムルトキハ保証書ノ寫ヲ携帶セシメ主務官吏ノ点檢ニ備フヘシ

但卸賣營業人ニ於テ卸賣許可ノ氷雪ヲ小賣シ又ハ自ラ商行シ或ハ家屬雇人等ヲシテ行商セシムルトキハ該許可ノ指令若クハ寫ヲ以テ保証書ニ換ユヘシ

第十八條　氷雪ヲ飲用者ヘ供給スル場合ニ於テ混和スル水ハ試驗濟眞水ニ非サレハ用ユヘカラス

第十九條　第一條ノ願ニ依リ檢査ノ爲メ主務官吏ヲ派遣スル場合ニ於テハ原水（九一升）ヲ容ルヘキ器物（硝子又ハ磁石製ノ瓶）及ヒ栓ヲ備ヘ置クヘシ

第二十條　第二條第十四條ノ願ニ依リ主務官吏ヲ派遣スル場合ニ於テハ分析ノ用ニ供スル爲メ氷雪塊（九二斤）ヲ採取セシムルニ付適應ノ容器ヲ備ヘ置クヘシ

第廿一條　主務官吏ニ於テ有害ト認ムルトキハ氷雪ノ製造採取若クハ貯藏販賣ヲ差止メ且ツ現品ヲ投棄セシムヘシ

第廿二條　總テ願書ハ二通屆書ハ一通ヲ製シ其町村戶長及衛生委員ノ奥書ヲ受ケ所轄郡區役所ヲ經由（警察署ヘ差出スヘキモノヲ除ク）シ差出スヘシ

第廿三條　營業ニ關スル一切ノ事ハ營業主其責ニ任スヘシト雖モ家屬雇人等故意ニ出タルモノハ各本人其責ニ任スヘシ

但營業主十二年未滿ノ幼者ナルトキハ管理人其責ニ任スルモノトス

第廿四條　此規則（第廿一條第廿二條第廿三條ヲ除ク）ニ違背シタル者ハ違警罪ヲ以テ罰セラルヽノ外所犯情狀ニ依リ其營業ヲ停止若クハ禁止スルヿアルヘシ

願書式

凍氷製造願

何國何郡區何町村何番地

字何

民（官）有地

一山（池）何反何畝何拾何歩

右ノ場所ニ於テ何溪（池）水ヲ以テ製氷仕度候間御檢査ノ上御許可被成下度別紙圖面及製造幷構造方法書（官地拜借御指令寫若クハ承諾証）相添ヘ（地主運署ヲ以テ）此段奉願候也

何國何郡區何町村何番地住或ハ寄留（寄留人ナレハ原籍ノ國郡府縣區町村名番地ヲ爰ニ記ス）族籍

何　誰　㊞

明治何年何月何日

何郡區何町村外何ケ町村衛生委員　何　誰　㊞

前書之通相違無之ニ付奥書仕候也

同　戶長　何　誰　㊞

大阪府知事何誰殿

一願書ニ添付スル圖面ハ美濃紙一枚ヲ以テ調整スヘシ

一官有地ヲ製造場ニ充ルモノハ拜借許可ノ指令寫ヲ添付スヘシ

一水利ニ關係アルモノハ其關係者ノ承諾証ヲ添付スヘシ

一第一條但書ニ依リ許可得タル製造場ニ於テ製氷スルモノハ構造方法其他ノ書類ヲ添付スルニ及ハス但其許可ノ年月日及蒸氣器械ヲ設置セル等ノ事由ヲ願書ノ前文ニ明記スヘシ

一他人ノ所有地若クハ第一條但書ニ依リ許可ヲ得タル製造場ヲ借入ルヽモノハ其地主又ハ持主ト連署スヘシ

氷(雪)貯藏場取設願

一地名番地　何國何郡區何町村何番地

一坪　數　何百何拾何坪

一容　積　何百何拾何噸

右之場所ヘ氷雪貯藏場設置仕度候間御檢査ノ上御許可被成下度此段奉願候也

何國何郡區何町村何番地住或ハ寄留
何府縣(寄留人ナレハ原籍ノ國郡區町村名番地ヲ爰ニ記ス)族籍
何　誰㊞

明治何年何月何日

前書之通相違無之ニ付奥印仕候也

何郡區何町村外何ケ町村衛生委員
何　誰㊞

大坂府知事何誰殿

氷(雪)卸賣願

一氷(雪)何百何十何噸

但何國何郡區何町村何番地字何ニ於テ製造或ハ採取ノ分

一仝　仝

但何々

合計何百何十何噸

右ハ何國何郡區何町村何番地何々ニ貯藏有之氷(雪)塊今般卸賣仕度候間御檢査ノ上御許可成被下度此段奉願候也

何國何郡區何町村何番地住或ハ寄留
何府縣(寄留人ナレハ原籍ノ國郡區町村名番地ヲ爰ニ記ス)族籍
何　誰㊞

同　戸長
何　誰㊞

明治何年何月何日

前書之通相違無之ニ付奥印仕候也

何郡區何町村外何ケ町村衛生委員
何　誰㊞

大坂府知事何誰殿

氷(雪)卸(小)賣(行商)看板記号願

私儀氷(雪)卸(小)賣(行商)仕候ニ付看板ノ記号御下付被成下度此段奉願候也

何國何郡區何町村何番地住或ハ寄留何府縣(寄留人ナレハ原籍ノ國郡區町村名番地ヲ爰ニ記ス)族籍　何誰㊞

明治何年何月何日

前書之通相違無之ニ付奥印仕候也

何郡區何町村外何ケ町村衛生委員　何誰㊞

同　戸長　何誰㊞

大坂府何警察署御中

一　家屬雇人等ナシテ行商セシムルモノハ願面ニ其旨ヲ明記シ行商者ト連署スヘシ

一　前項ノ場合ニ於テハ行商者ノ原籍及住所等ヲ詳記スルハ勿論子弟若クハ雇人タルヿヲ肩書ニナスヘシ

保証書式

保証書

一氷(雪)何拾斤

但何府縣何郡區何町村字何々産何郡區何町村何某貯藏又ハ何製造場製ノ分

右相違無之候也

明治何年何月何日

氷(雪)小賣營業　何郡區何町村何番地氷(雪)卸賣營業　何誰㊞

看板雛形

一貯藏場看板

何警第何號

氷(雪)貯藏場

何郡區何町村何番地　何誰

一營業人看板

何警第何號

（氷雪）卸（小）賣營業

何郡區何町村何番地　何　誰

一看板ハ総テ木製タルヘシ

一貯藏場及卸小賣營業ノ看板ハ長三尺五寸巾八寸ニ調製スヘシ

一行商ノ看板ハ長一尺巾五寸ニ調製スヘシ

一家屬雇人等ノ行商看板ハ營業主ノ住所氏名及子弟若クハ雇人タルヿヲ行商者氏名ノ肩書ニナスヘシ

第四欵　氷雪營業取扱手續

○本甲第百四十八號　明治十七年十二月十九日　警察署

氷雪營業取扱手續別紙之通相定候條此段及通達候也

氷雪營業取扱手續

第一條　氷雪營業ニ關スル事務ハ左ノ手續ニ從ヒ取扱フ可シ

第二條　氷雪貯藏場並ニ卸小賣營業看板記號ヲ願出タルトキハ營業停禁止中ノ

十九年九月日本達乙第三十一号ヲ以テ書式改正

モノナカルカ否ヲ査シ差支ナキハ左ノ式ニ準シ指令ス可シ

指令ノ式

書面之趣許可シ左ノ記号ヲ付與ス（許可セス）

何警第何號　　割印

年　月　日

大阪府

何警察署印

第三條　天然雪採取場及製氷場ハ時々臨檢シ若シ不潔等異狀アルトキハ詳悉具申ス可シ

第四條　飲用ノ爲メ販賣スル氷雪健康ニ害アリト認ムルトキハ一面販賣ヲ差止一面製造火ハ産地ヲ調査シ該氷雪ノ幾分ト販賣人所持ノ保証書寫ヲ添ヘ具申ス可シ

第五條　營業者（貯藏及採取卸小賣）ノ名簿ヲ適宜ニ調製シ開業者其他異動アル毎ニ整理ス可シ

但營業停（禁）止セラレタルモノハ名簿中其人名ノ頭上ニ何月何日停（禁）止セラレタル事由ヲ朱書シ參照ニ供フ可シ

○本乙第四十三號　明治十八年五月廿五日　（區郡曾根崎天王寺）警察署

氷雪營業商看板記號願書ヘ取締人ノ証印ヲ要スル明文ハ取締規則ニ無之候得

共同商仲間規約中ニ總テ官廳ヘ差出スル書面ハ取締人証印スルノ明文モ無之殊ニ取締上ニ於テ必要ノ儀ニ付該商ヨリ看板記號等願出候節ハ取締人ノ連署セサルモノハ総テ受理不相成樣致度旨其筋ヨリ照會越候條以來右營業者ヨリ差出候願書ニ取締人連署ナキモノハ其旨ヲ諭シ連署セシムル樣可取斗此段及通達候也

第五欵　飲料水營業取締規則

甲第七十號　明治十八年八月六日

飲料水營業取締規則別冊ノ通相定メ本月八日ヨリ施行シ從前ノ布達及達等ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

但從來ノ營業者ハ本月二十五日限リ第二條第四條第九條ノ手續ヲナスヘシ

右四區及接續町村ヘ布達候事

飲料水營業取締規則

第一條　飲料水營業トハ飲料ニ供スル水ヲ汲取リ又ハ家族雇人ヲシテ汲取ラシメ或ハ他人ノ汲取リタルモノヲ買入レ之ヲ同業者若クハ需用者ニ販賣スルモノヲ云フ

第二條　井水又湧泉等ヲ汲取ラントスル者ハ詳細ナル其場所ノ圖面ヲ添ヘ當廳ヘ出願許可ヲ受クヘシ其場所ヲ變更セントスル片亦同シ

十九年甲第四十八号ヲ以第一項改正

十九年甲第百十三号ヲ以第四條改正

第三條　河水汲取リ場ハ左ノ箇所ニ限ルヘシ

一　淀川筋天滿橋上流

二　中津川筋字嬉ケ崎

第四條　飲料水ヲ營業セントスルモノハ其井水又ハ泉水ニ係ルモノハ其汲取場及運搬車ノ員數幷第二條許可ノ指令寫ヲ添ヘ所轄警察署以下倣之河水又ハ井水ト雖モ船ヲ以テ運搬スルモノハ其運搬船ソ員數定繫場等詳記シタル書面ヲ添ヘ安治川水上警察署又ハ京橋分署以下倣之ヘ願出取締鑑札ヲ受ケ其運搬船ニ係ル分ハ船体及水箱ノ檢査ヲ受クヘシ但家族雇人ヲシテ本條ノ業ヲ爲サシムルモノ亦同シ

第五條　改氏名代換雇人變換又ハ鑑札ヲ毀失若クハ水火盜難遺失物水火盜難ニ係ルハ此限リニアラス ニ罹リ或ハ汲取場ヲ變更スル片ハ其事由ヲ申出原鑑札ヲ添ヘ書換又ハ再下附ヲ請フヘシ

但廢業又ハ他營察署所轄内ニ轉住セントスル片ハ鑑札ヲ返納スヘシ

第六條　願書ハ二通警察署ハ各一通ヲ作リ伸間取締人連署シ其町村戸長衛生委員ノ奥印ヲ受ケ所轄郡區役所ヲ經由警察署ヘ差出スヘキモノヲ除クシ差出スヘシ

第七條　販賣區域ヲ設ケ又ハ鑑札ヲ賣買讓與シ若クハ貸借ス可カラス

第八條　鑑札ハ腰部ニ顯揭シ何人ニテモ見ンヿヲ求ル片ハ之ヲ示スヘシ

十九年甲第百十三号ヲ以第十條改正

第九條　水桶箱ニ標札ヲ釘付シ運搬船車ハ標旗ヲ立テ水擔桶ニハ総テ飲料水ト大書シ仲間取締ノ檢印ヲ受クヘシ

但標札及標旗ノ汚損シタル片ハ直ニ新舊交換スヘシ

第十條　運搬船ニ用ユル飲料水容器ハ船舷ヨリ高サ一尺八寸以内ノ箱ニ限ルモノトス而シテ該船積水量ハ船体中央ニ於テ舷ヨリ直下少ナクモ八寸ヲ有スルヲ以テ吃水ノ定度トス

但容器ハ毎々清潔ニ洗滌シ板蓋ヲ設ケ塵埃等ノ混入ヲ防クニ足ルヘキ構造ヲナスヘシ

第十一條　運搬船定繫場等ヲ變更シ又ハ運搬船車及水桶箱等ヲ增減シタル片ハ其旨届出ヘシ

第十二條　水性ニ異狀アル片ハ直ニ原水ヲ汲取リ衛生課ニ差出試檢ヲ受クヘシ

十九年甲第百十三号ヲ以第十三條中若干字刪除

第十三條　水箱ヲ用ヒス直ニ船中ニ汲取リ又ハ飲料水ヲ容ルヘキ器具ヲ以テ他ニ使用スル水ヲ汲取ルヘカラス

第十四條　腐敗水及濁水等ヲ販賣シ又ハ傳染病者ノ排泄物ヲ投棄シ或ハ病毒ニ汚染シタル衣服器具等ヲ洗滌シタル疑アル水ヲ汲取ル可カラス

第十五條　主務官吏ニ於テ不良ノ水ト見認ムル片ハ汲取若クハ販賣ヲ差止メ又ハ放棄セシムルヿモアル可シ

十九年甲第百十三号ヲ以附則追加

第十六條　營業上ニ關スル一切ノ事ハ營業主其責メニ任スヘシト雖トモ家族雇人等ノ故意ニ出タル片ハ各本人其責メニ任スヘシ

但營業八十二年未滿ノ幼者ナル片ハ管理者其責メニ任スルモノトス

第十七條　此規則第一條第六條第十二條第十五條第十六條第十八條ヲ除ク ニ違背スルモノハ違警罪ノ刑ニ處セラルヘシ

第十八條　營業上ニ關シ違警罪以上ニ處セラレタルモノハ所犯ノ情狀ニ依リ營業ヲ停止スルヿアルヘシ其營業ヲ停止シタルモノハ親族又ハ他人ノ名義ヲ以テ開業シ若クハ之ニ干預スルヿヲ得ス

附　則

現今使用スル飲料水運搬容器ニシテ本則第十條ニ觸ルヽモノハ本年十二月三十一日迄ニ改造スヘシ

書式

井(泉)水汲取願

私儀何郡何町村何番地何井(泉)水ヲ販賣ノ爲メ汲取申度候間御檢査ノ上御許可被成下度此段奉願候也

何郡何町村何番地籍族職業

年　月　日

前書之通相違無之付奥印仕候也

（寄留人ハ本籍ヲ爰ニ記入スヘシ）
何　誰　印
飲料水販賣商取締
何　誰　印

何郡區何町村　衛生委員
何　誰　印
同　戸長
何　誰　印

大阪府知事何誰殿

備考

一他人所有ノ井泉水ヲ汲取販賣セントスルモノハ其持主ト連署スヘシ

一汲取場ヲ變更セントスル時ハ本文ヲ左ノ如ク作ルヘシ

私儀何年何月御許可ヲ受ケ何郡區何町村何番地何井泉汲取リ居候處今般都合ニ依リ該所ノ汲取ヲ相廢シ何郡區何町村何番地何井泉水ヲ汲取申度候間御檢査ノ上御許可被成下度此段奉願候也

飲料水販賣取締鑑札下付願

私儀飲料ノ爲メ何河（井）水ヲ汲取（買入）販賣仕度候間取締鑑札御下付相成度

別紙明細書相添此段奉願候也

年　月　日

何郡區何町村何番地族籍職業
（寄留人ハ本籍ヲ爰ニ記入スヘシ）
何　誰　印
何拾何年何ヶ月

右

何　誰　印
飲料水販賣商取締
何　誰　印

前書之通相違無之ニ付奥印仕候也

何郡區何町村衛生委員
何　誰　印
同　戸長
何　誰　印

大阪府何警察署御中

備考

一他人ノ汲取リタル水ヲ買入販賣スルモノハ其汲取人ト連署スヘシ
一廢業ノ節ハ本文ヲ左ノ如ク作ルヘシ
私儀何年何月何日御許可ヲ受ケ何郡區何町村何番地何井(泉)水汲取リ販賣罷在候處
今般都合ニ依リ廢業仕(又ハ何郡區何町村ヘ何住致)候間鑑札相添此段及御屆候也

明細書

一汲取場
淀川筋源八渡上流西側(何郡區何町村何番地何井)
一運搬船(車)　何輛艘
一水桶(箱)　何個
但何石入何個何石入何個
一定繫場
何郡區何町村何番地族籍職業
何誰印
飲料水販賣商取締
何誰印
右之通相違無之候也

年月日

大阪府何警察署御中

備考

一他人ノ汲取タル水ヲ買入販賣スルモノハ汲取場ノ但書ニ(何郡區何町村何番地何誰汲取ノ分買入)ト記入シ其汲取人ト連署スヘシ
一他人ノ運搬船ヲ借入ルモノハ定繫場ノ但書ニ(何郡區何町村何番地何誰持船借入)ト記入シ其持主ト連署スヘシ

家族(雇人)飲料水販賣取締鑑札下付願

何郡區何町村何番地族籍職業
(寄留人ハ本籍ヲ爰ニ記入スヘシ)
何誰印

何十何年何ヶ月

右ハ私兄(弟)(何)(男)(雇人)ニ御座候處今般飲料水販賣(汲取)爲致度候間取締鑑札御下付相成度此段奉願候也

何郡區何町村何番地族籍職業
(寄留人ハ本籍ヲ爰ニ記入スヘシ)
何誰印

飲料水販賣取締

年月日

前書之通相違無之ニ付奥印仕候也

何　誰印

何郡區何町村衛生委員　何　誰印

同　戸長　何　誰印

大阪府何警察署御中

備考

一廃業ノ節ハ本文ヲ左ノ如ク作ルヘシ

私儀何年何月何日御許可ヲ受ケ兄(弟)(何男)(雇人)何某ナシテ飲料水販賣(汲取)為致居候處今般都合ニ依リ廃業為致又ハ解雇仕候間鑑札相添此段及御届候也

雛形

標札

河川(井)(泉)

飲料水

何郡區何町村何番地

何　誰

標旗

飲料水

備考

一標札ハ木材ヲ以テ長一尺五寸巾五寸ニ調製スヘシ

一標旗ハ綿巾ヲ以テ縦二尺横三尺ニ調製スヘシ

第六欵　飲料水營業事務取扱手續

○本乙第六十七号　明治十八年八月十日　四區曾根崎天王寺警察署

明治十八年甲第七十号布達飲料水營業取締規則事務取扱手續別紙ノ通相定候條此段及通達候也

飲料水營業事務取扱手續

第一條　飲料水營業取締規則ニ關スル事務ハ以下各條ニ依リ當行スヘシ

第二條　鑑札下付又ハ書換ヲ願出タル件ハ其營業停止中ノモノナラサルヤ否

ヲ審査シ式ニ依リ鑑札ヲ下付スヘシ其停止中ニ係ルモノハ旨ヲ諭シ願書ヲ却下スヘシ

第三條　販賣又ハ汲取ノ飲水不良ト認ムルトキハ一面販賣又ハ汲取ヲ差止メ置キ現水（凡一升）ヲ添ヘ其旨具申スヘシ

第四條　營業ノ停止ヲ必要トスルモノアルトキハ其理由ヲ詳ニシ具申スヘシ

第五條　營業者ノ名簿ハ式ニ依リ調製シ開業其他異動增減アル毎ニ整理スヘシ

鑑札式　材料ハ人力車ノ鑑札ニ同

「警察署ノ頭字ヲ記ス」

表面

一第何號

大抜府下何郡區何町村何番地（身分）（寄留何府縣身分）

（何某雇人身分）

○何　年　某　齢

汲取場　何國何郡區何町村某所有井又ハ何井何池何川筋

裏面

年　月　日

○飲料水營業取締鑑札

「烙印」

用紙ハ半紙片面ヲ壹人ニ用ユ

鑑札番號	何第何十何號
鑑札附與	年月日
鑑札書換	年月日轉居又ハ氏名換遺其他何々
轉居	年月日何郡區何町村何番地ヘ移ル
氏名換	年月日何々ト改ム
廢業	年月日
汲取場所	淀川筋天滿橋上流（又ハ何々）
運搬器具	何船何艘大七車又ハ（何車何輛）（汲水溜桶箱何個）（擔桶何荷）
定繫場	何區何町何丁目何濱
賞罰	一取締規則第何條ニ觸レ年月日科料金何程又ハ拘留何日ニ處ス 一同上處分ノ上何年內營業停止 一年月日解停

住所　何府縣何郡區何町村何番地

氏名　士族（平民）當時府下何區何町何丁目何番地寄留何誰

齢何十何年何ヶ月

第七欵　市街店頭ニ於テ施シ水ト唱ヘ往來人ヘ施與スル者取扱

○本達乙第三号　明治十九年七月三十一日　警察署

市街店頭ニ於テ施シ水ト唱ヘ往來人ニ施與候向キ往々見請候處右ハ井水清良ノモノニハ可有之候得共冷水ノ儘ニテ施與候テハ却テ攝生上障害トモ可相成候ニ付右等ノ向々ヘハ左ノ旨趣ヲ懇諭スヘシ

店頭ニ冷水ヲ出タシ往來人ニ施與スルハ炎熱ノ渇ヲ凌キ寔ニ奇特ノヿナルモ冷水ノ儘飲用爲サシメ候テハ衛生上障害トモ可相成ニ付折角之レヲ施與スルノ志アル向キハ良水ヲ沸騰点マテ煮沸カシタル上之レヲ冷ヤシ施與スレハ幸ヒノヿナリ

第八欵　牛乳搾取并販賣取締規則

●甲第五十七号　明治十四年三月三十日

十八年甲第七十五号ヲ以テ規則中衛生委員トアルヲ戸長ト改正スル

牛乳搾取并販賣取締規則別冊ノ通地方戸長ニ於テ議定候ニ付來ル四月廿五日ヨリ施行候條此旨布達候事

但シ從來該營業者ハ規則ニ遵ヒ更ニ出願ノ上鑑札ヲ受クヘシ

牛乳搾取并販賣取締規則

第一條　乳牛ヲ飼畜シ乳汁ヲ販賣セント欲スル者ハ左ノ書式ニ準據シ畜養場ノ圖面并該場十間以内ニ係ル地主或ハ家主ノ承諾証ヲ添ヘ郡區役所ヲ經テ府廳ヘ願出鑑札ヲ受クヘシ

但シ從來ノ營業者ハ本文ノ承諾証ヲ添ルニ及ハス

（書式）

牛乳搾取營業願

何郡區何町村何番地

何地反別何程

牡牝牛　何程

今般右ノ地所ニ於テ乳牛畜養仕牛乳搾取營業仕度候間實地御檢査ノ上御差支無之候ハヽ御免許鑑札御下附被成下度別紙圖面相添此段奉願候也

年　月　日

何郡區何町村何番地住或寄留

願人　氏　名　㊞

借地ナレハ地主署名押印スヘシ

六阪府知事宛

前書之趣他ニ差支ノ廉無之候ニ付奥印仕候也

畜牛地ノ戸長

氏　名㊞

第二條　牛乳ヲ請賣セントト欲スル者ハ願書中ニ其搾取人ノ住所姓名ヲ記シ且其請賣人住居地ノ戸長ノ奥書ヲ受ケ郡區役所ヘ願出鑑札ヲ受ク可シ

第三條　牛乳搾取營業者ハ其蓄養場ノ入口ニ牛乳搾取所請賣營業者ハ牛乳請賣所ト大書シタル看板ヲ揭ケ置ク可シ

第四條　蓄養場ハ日々洒掃シテ牛糞塵芥等ヲ堆積スヘカラス且炎熱ノ候ハ時々防臭液ヲ散布シ別テ清潔ヲ要スヘシ

第五條　乳牛病ニ罹リタルトキハ其乳汁セサルハ勿論全癒ノ際全體ヲ能ク洗滌シ而シテ尚一ケ月ヲ經過セサレハ搾取販賣ヲナス可ラス

但外傷ニ罹リタルトキハ本文ニ同シ

第六條　乳牛ノ發病全癒ノトキハ獸醫（獸醫ナキトキハ他ノ開業者）ノ診斷書ヲ添ヘ其町村ノ戸長ヘ屆出可シ戸長ニ於テハ第五條ノ定期内ニ其乳汁ヲ搾取販賣セサル樣取締ヲナスヘシ

第七條　蓄牛疫症ニ罹リタルトキハ明治九年内務省乙第二十號布達疫牛處分假條例幷同年當府第六十九號布達傳染疫牛豫防法（舊堺縣下ハ同年三月縣乙第十五号布達）ヲ遵守スル

ハ勿論同蓄場ニ在リシ健牛タリトモ一ケ月間ハ其乳汁販賣スヘカラス

第八條　傳染病者アル家ヘ牛乳ヲ配達スルトキハ該家ノ受器ニ注意シ若シ不潔ナルハ能ク洗滌セシメ后之ヲ注入シ且配達ノ乳器該家ノ器物等ニ觸レサル樣致スヘシ

但乳器ヲ該家ニ預ケ置隔次交換スル等ノコトヲ禁ス

第九條　牛乳搾取人請賣營業者及ヒ配達人ハ勿論其家族中傳染病ニ罹ルトキハ其患者ニ接スル者決シテ牛乳取扱ニ從事スヘカラス

第十條　傳染病殊ニ虎列刺腸窒扶斯ノ患者アルトキハ其家ノ井水ヲ以テ牛乳器具ノ洗滌ハ勿論乳牛ノ飲用及洗浴料ニ供スヘカラス

第十一條　分娩後十日間ノ乳汁ハ販賣ヲ爲スヘカラス

第十二條　牛乳中ヘ他物ヲ混和セサルハ勿論塵芥等ノ散入セサル樣注意スヘシ

第十三條　牛乳運搬及貯藏ノ器具ハ銅亞鉛及其合鑛（黃銅書銅）等ヨリ製シタルモノヲ用ユ可カラス

第十四條　牛乳ヲ以テ滋養品ヲ製造セントト欲スル者ハ其製品及ヒ製造法書ヲ添ヘ府廳ヘ檢査ヲ願出ツヘシ

第十五條　飼料不良ナルトキハ乳汁ノ成分ニ關シ滋養分ノ欠乏ヲ來スカ故ニ飼料ニ注意シ專ラ良好ノモノヲ撰フヘシ

第十六條　營業者協議ノ上取締人（一國二名）ヲ設ケ住所姓名等ヲ記シ本人ヨリ其

十九年農商務省令第十一号ヲ以テ傳染病豫防規則ヲ制定シ九年内務省乙第二十号ハ廢止

郡區役所ヲ經テ府廳ヘ屆出可シ

第十七條　毎年両度一月七月牛乳榨取販賣高ヲ取調府廳ヘ屆出ヘシ

第十八條　警察官吏若クハ戸長等時々蓄養場幷ニ請賣者ノ家ニ臨視シ本則ノ各項ヲ遵守スルヤ否ヲ監査スルヿアルヘシ

第十九條　此規則ニ違背スルモノハ相當處分ニ及フ可シ

第九欵　着色料及飲食物中毒藥物誤用

●無第号　明治三年九月四日

近頃府下ニ於テ曼珠著華ノ根ヲ以テカタクリヲ製候者有之候處右者毒氣有之人害ニ相成既ニ京都府ニテハ毒ニ相當リ候間以來製造ハ勿論賣買致候儀不相成者也

右之趣四組町々無洩可相達者也

●無號　明治四年十一月

唐藍　紺青　緑青　唐緋

右ノ品々人害ニ相成候ニ付當八月菓子屋共ヘ申付遣方禁製致候處今ニ遣方致候者モ有之趣相聞ヘ甚不相濟事ニ候後向菓子而已ニ不限人食ヘ入交申間敷候若相背者ニ於テハ嚴重ノ所置ニ及フ可ク候也

右之通相布令候事

●無號　明治四年十二月

唐紅　石黄

右ノ二品砒霜石ノ質分ヲ含ム故ニ大毒ナリ

右ハ當十一月中及布令置候四品ノ染料同樣前書ノ通毒氣ヲ含候者故向後菓子而已ニ不限食物ニ入交申間敷若相背者有之ニ於テハ嚴重ノ處置ニ可及候事

右ノ通布令スル者也

●無號　明治四年十二月

府下ニ於テ專ラ相製シ候青昆布染藥ニ緑青ヲ相用候趣以ノ外ニ候右ハ人性ノ害毒ニ相成候間屹度差留候若相犯者有之ハ見當リ次第嚴重ノ咎方可申付者也

右之通布令スル者也

●地第六十七號　明治八年六月　區戸長

別種ノ物品ヲ以テ凝海藻ニ彩色ヲ加ヘ致鬻賣候者有之該品ヲ食シ屢痛服苦腦ヲ請候趣ニ相聞以ノ外ノ事ニ候者ハ全有害ノ品ニ付自今食品ニ差加相用候儀堅ク不相成候條其筋ノ者ヘ嚴重可相達候事

一丹　一長吉丹　一光明丹　一藍

一唐紅粉　一岩紫　一唐藍

●天第百五拾八號　明治十三年十月廿七日

近年輸入ノ「アニリン」其他鑛屬製ノ繪具顔料ノ内有毒物間々有之處其成分ヲ不知唯着色ノ艶麗ニシテ其價廉ナルニヨリ相用候者ニ有之經右ハ健康ヲ害スルハ勿論自然中毒ニ罹リ非命ノ死ヲ致スモノ有之候テハ不容易儀ニ付左ニ掲ル種類ノ顔料十六品ハ飲食物ノ着色ニ使用不相成且新舶齎ニシテ性質不分明ノモノハ現品ヲ添ヘ試驗可願出此旨布達候事

第一種

鬱金砂　一名黄粉　花緑青　同緑青　フロンミール此種類ハ毒物ナリ

第二種

紺青　紺粉　紅粉　紫粉　緋粉　茶粉　鼠粉　青竹粉　洋紅

「サフラニー」「エウシン」「ペレンス」「スカンツー」

此種類ハ純乎タル固有ノ毒ナキモ其製造ニ依テ砒石等ノ如キモノヲ用ユルカ故ニ甲ヲ折シテ有毒ノ成分ナキモ乙ヲ分析スレハ毒ノ成分ヲ有スルヿアリ依テ此等ノモノハ飲食物ノ着色ニ用ユヘカラサルモノトス

大和國　河内國　和泉國

●甲第百三十六號　明治十四年六月廿五日

鑛屬製ノ繪具顔料ノ内有害物間々有之候處其成分ヲ不知唯着色ノ艶麗ニシテ其價廉ナルニ依テ飲食物ノ着色ニ相用候ヨリ自然人身ノ健康ヲ害スルノミナラス甚シキニ至テハ中毒ニ罹リ候者有之危險ノ至ニ付左ニ掲クル種類ノ顔料拾六品ハ飲食物ノ着色ニ使用不相成且新舶齎ニシテ性質不分明ノモノハ現品ヲ添ヘ府廳ヘ試驗可願出此旨布達候事

但十一年五月舊堺縣甲第六十三號達ハ廢止ス

第一種

鬱金砂　一名　黄粉　花緑青　一名　緑青　コロンミール

此種類ハ毒物ナリ

第二種

紺青　紺粉　紅粉　紫粉　緋粉　茶粉　鼠粉　青竹粉　洋紅

「サフラニー」「エウシン」「ペレンス」「スカンツー」

此種類ハ純乎タル固有ノ毒ナキモ其製造ニ依テ砒石等ノ如キモノヲ用ユルカ故ニ甲ヲ分析シテ有毒ノ成分ナキモ乙ヲ分析スレハ毒ノ成分ヲ有スルヿトアリ依テ此等ノモノハ飲食物ノ着色ニ用ユ可カラサルモノトス

各署ハ上ヲ除ク

○本甲第百十九號　明治十六年六月廿八日

飲食物及ヒ玩弄物ニ用ユル着色料ハ人身健康ニ關係アル者ニ付去ル明治十三年本府天第百五十八號「和河泉ハ十四年甲第百三十六號」ヲ以テ飲食物ノ着色ニ使用不相成旨布達相成居候處輒近ニ至リ右布達ニ違犯着色候者有之趣相聞ヘ右ハ相當處分ニ可及筈ニ候處因習ノ久シキ情實ニ流レ取締向不充分ニ有之

就テハ今般各郡區長ヨリ其部内ヘ心得方及諭達候筈ニ付將來右違犯之者有之節ハ相當處分シ取締向一層注意可致此段及通達候也

●天第二號　明治十二年一月八日

飲食物ノ中毒及ヒ藥物ノ誤用等ニ因リ死ヲ致スモノ有之候節ハ其毒物ノ品名中毒症狀先者ノ住所姓名幷ニ醫師診斷書相添其都度可屆出尤毒物ノ成分判然セサル分ハ現品相添可差出此旨管内無洩相達候事

●天第三號　明治十二年一月九日

飲食物ノ中毒及ヒ藥物ノ誤用等ニ因リ死ヲ致スモノ屆方ノ儀本月當府天第二號ヲ以相達置候所右ハ警察署ヘ可屆儀ト可心得此旨管内無洩相達候事

○本甲第廿四號　明治十六年一月廿六日　各　署

飲食物ノ中毒及ヒ藥物ノ誤用等ニ因リ死ヲ致シタルモノヽ屆ヲ受ケタルトキハ其都度關係書類相添本署ヘ報告スヘシ此段及通達候也

第二章　屠場

第一款　屠畜取締規則

●甲第十三號　明治十七年二月廿七日

屠畜取締規則別紙ノ通改正來ル三月十五日ヨリ施行シ該取締ニ關スル從前ノ布達指令等ハ同日限リ之ヲ廢止ス

但從來免許ノ箇所ニシテ規則第二條ニ牴觸スルモノハ賣買讓與ヲ許サス追テ廢場ノ節取除クヘシ

屠畜取締規則

第一條　屠畜場ハ食料ニ供スル牛羊豚ヲ屠殺スルノ所トス

第二條　屠畜場ハ警察署管轄内ニテ人家公道及ヒ飲料水（河川井泉）等アルケ所ヲ距ル二丁以外ノ場所ニ於テ各五ケ所以内之ヲ許ス

第三條　屠畜場ヲ設ケントスルモノハ書式ニ準シ繪圖面並四隣地主ノ承諾証ヲ添ヘ管轄警察署ヘ出願免許ヲ受ケ雛形ノ如キ看板ヲ掲ク可シ

第四條　屠畜營業ヲ爲サントスルモノハ書式ニ準シ管轄警察署ニ出願免許鑑札ヲ受ケ就業ノトキハ之ヲ携帶ス可シ

第五條　看板又ハ鑑札ヲ毀失シ或ハ族籍住所氏名等ヲ轉換シタルトキハ屆出（看板鑑札）ノ下付若クハ書換ヲ乞フヘシ

但他ノ警察署管内ニ轉居スルトキハ屆出テ鑑札ヲ返納スヘシ

第六條　屠畜場ヲ賣讓渡サントスルトキハ双方連署ヲ以テ管轄警察署ヘ屆出認可ヲ受クヘシ

第七條　廢場若クハ廢業セントスルトキハ管轄警察署ヘ屆出テ記號ヲ消却シ又ハ鑑札ヲ返納スヘシ

第八條　屠畜場ノ構造ハ左ノ各項ニ遵フヘシ

一　屠畜場ノ周圍ニ柵若クハ板圍トスルヿ

二　屠殺場ノ周圍ハ板若クハ壁ニテ圍ヒ敷地ハ石若クハ漆喰又ハ板敷トナスヿ

三　屠殺場ノ傍ニ血液等ノ溜壺ヲ設ケ臭氣ノ漏洩セサル樣蓋ヲ爲スヿ

四　檢査員ノ扣所ヲ設クルヿ

第九條　屠畜場ニ於テハ左ノ各項ヲ禁ス

一　檢査未濟ノ牛羊豚ヲ屠殺スルヿ

二　檢査印ナキ屠肉ヲ場外ニ搬出スルヿ

三　斃獸ノ解剖ヲ爲スヿ

四　病牛羊豚及ヒ育種ノ牝牛ヲ屠殺スルヿ

第十條　屠殺ヲ爲サントスルトキハ稅金受領証ヲ添ヘ管轄警察署又ハ分署ヘ屆出テ檢査員ノ臨檢ヲ乞ヒ屠肉ニハ檢印ヲ受クヘシ

但屠殺ノ末檢査員ニ於テ不良ノ肉ト認ムルトキハ指圖ニ從ヒ處置ス可シ

第十一條　屠畜營業者ハ屠畜頭數簿ヲ製シ置キ屠殺ノ爲メ買取リタル牛羊豚ノ牝牝年齡及ヒ賣渡人ノ住所氏名年月日等ヲ詳記シ檢査員ノ檢閲ヲ受クヘシ

第十二條　屠畜時間十月ヨリ五月マテハ午前六時ヨリ正午十二時限リ六月ヨリ九月マテハ午前四時ヨリ同十時ヲ限リトス

第十三條　屠畜場ハ不潔ナキ樣常ニ掃除ヲ爲シ汚水血液等ハ速ニ取除クヘシ

第十四條　此規則ニ違背シタルモノハ違警罪ヲ以テ罰セラルヽノ外所犯情狀ニ依リ營業ヲ停止シ又ハ禁止スルヿアルヘシ

願書式ノ一（看板鑑札毀失族籍住所氏名轉換ノ願屆ハ以下書式ニ準スルモノトス）一通

屠畜場設置願

府下何國何郡何町村何番地（寄留何府縣）

身分　何誰

私儀何國何郡何町村何番地（字何々地）ニ於テ屠畜場設置致度候間御免許ノ上記號御下付被成下度尤モ場所御差支ノ節ハ何時ニテモ取拂可申依圖面并隣地主承諾証相添ヘ此段願上候也

年號月日

右

何誰㊞

借地ナレハ地主ノ連署ヲ要ス以下倣之

右地主

何誰㊞

右願出候ニ付奥印候也

右町村戸長
何　誰㊞

大阪府何警察署御中

願書式ノ二

屠畜營業取締鑑札御下付願

何國何郡區何町村何番地（寄留何府縣）
身分　何　誰

私儀今般屠畜營業致度候間取締鑑札御下付被成下度此段願上候也

右　何　誰㊞
右地主　何　誰㊞

年　號　月　日

右願出候ニ付奥印候也

右町村戸長
何　誰㊞

大阪府何警察署御中

屆書式ノ一

屠畜場賣讓渡御屆

一通

何國何郡區何町村何番地（寄留何府縣）
身分　何　誰

私儀兼テ免許相成居候何國何郡區何町村何番地（字何々地）ニ設置ノ屠畜場今般何國何郡區何町村何番地何誰ヘ賣讓渡度候間御認可被成下度尤モ場所御差支ノ節ハ何時ニテモ取拂可申依テ双方連署ヲ以テ此段御屆申上候也

年　號　月　日

賣讓渡人　何　誰印
住所身分
買讓受人　何　誰印
右地主　何　誰印

右町村戸長
何　誰印

右屆出候ニ付奥印候也

大阪府何警察署御中

届書式ノ二

屠畜場
屠畜営業 廢場
業 御届

何國何郡何町村何番地（寄留何府縣）
身分 何 誰

私儀兼テ（屠畜営業）免許相成居候（處）何國何郡何町村何番地（字何々地）屠畜場今般廢場（業）致候間（鑑札相添）此段御届申上候也

右 何 誰 印

右地主 何 誰 印

右町村戸長 何 誰 印

年 月 日

右届出候ニ付奥印候也

大阪府何警察署御中

看板雛形

警察署ノ記號

表

免許 何警第何号

屠畜場 住所 氏名

長サ曲尺三尺
巾 曲尺一尺
厚サ曲尺一寸
木質 檜

裏

□明治何年月日免許

第二款 屠畜取締規則假取扱手續

○本甲第二十九號 明治十七年二月廿六日 警察署（水上署ヲ除ク）

今般甲第十三號ヲ以テ屠畜取締規則布達相成候ニ付テハ追テ檢査心得幷ニ取扱手續等可及通達候得共差向別紙手續ニ依リ取扱フ可シ此段及通達候也

屠畜取締規則假取扱手續

一屠畜檢査等ニ係ル事務ハ從來（堺津國ハ十一年五月廿日付達和河泉三國ハ十一年舊堺縣甲第廿九号布達未項）ノ手續ニ從フ可シ

本甲第二百廿四号ハ消滅ニ因リ十八年本甲第百廿七号達ニ因ルモノトス

一新規屠畜場開設出願シタルトキハ詳細實地ヲ檢査シ其都度本署ヘ稟議ノ上許否ス可シ

一本則ニ係ル願ハ明治十六年本甲第二百廿四號通達人民諸願調理手續ニ依リ取扱フヘシ

一看板記號願ニ對スル指令ノ書式ハ本年本甲第十四號通達彫刻業取締規則取扱手續ニ準シ取扱フ可シ

一取締鑑札ハ左ノ雛形ニ倣ヒ下付ス可シ

一營業ヲ停(禁)止セントスルモノアルトキハ其事由ヲ詳悉具狀ス可シ

一營業停(禁)止シタルモノアルトキハ第二部ヨリ通知スルモノトス

何ハ警察署ノ頭字ヲ冠ス

鑑札雛形

表

一何警第何號

○屠畜取締鑑札

何國何郡何町何村何番地寄留何府縣

身分　何　誰

長曲尺二寸五分巾仝二寸厚サ仝三分木質檜

第三欵　死畜取締規則

裏

年号月日

○大阪府何警察署

警察署ノ燒印

方曲尺一寸二分

※甲第九十五號　明治十七年十二月廿七日

死畜取締規則別紙ノ通改正來明治十八年二月一日ヨリ施行シ該取締ニ關スル從前ノ達指令等之ニ抵觸スルモノハ同日限リ廢止ス

但從來免許ノ場所ニシテ本則第二條ニ觸ルヽ箇所ハ當分ノ内之ヲ許スト雖トモ賣買讓與幷ニ代換繼續等ヲ許サス

死畜取締規則

第一條　死畜(牛馬羊豚等ノ斃死シタルモノハ以下倣之)ノ解剖ハ免許場ニ限ル可シ

第二條　死畜解剖場ハ警察署又ハ分署管轄内ニテ人家公道及屠畜場幷ニ飲料水アル(河泉井川)箇所ヲ距ル二丁以上ノ場所ニ於テ各二ケ所以内之ヲ許ス

第三條　死畜解剖場ヲ設ケントスル者書式ニ準シ圖面幷ニ四隣地主ノ承諾証ヲ添ヘ管轄警察署ニ出願免許ヲ受ケ雛形ニ準シ看板ヲ掲クヘシ

第四條　解剖營業ヲ爲サントスル者ハ書式ニ準シ管轄警察署ニ出願免許鑑札ヲ受ケ就業ノ時ハ之ヲ携帶スヘシ

但營業者ハ屠畜營業ヲ兼ヌル事ヲ得ス

第五條　鑑札ヲ毀失シ又ハ族籍氏名住所ヲ轉換シタルトキハ管轄警察署ニ出願其書替ヲ乞フ可シ

第六條　死畜解剖場ヲ賣讓渡シヲ爲サントスルトキハ書式ニ準シ双方連署ヲ以テ

管轄警察署ニ届出テ認可ヲ受クヘシ

第七條　廢場業セントスルトキハ書式ニ準シ管轄警察署ヘ届出テ記號ノ消却ヲ乞ヒ又ハ鑑札ヲ返納ス可シ

第八條　解剖營業者ハ死畜頭數簿ヲ製シ死畜ノ種類解剖ノ年月日及買取ニ係ルモノハ其賣主ノ住所氏名等ヲ詳記スヘシ

第九條　解剖場ノ構造ハ左ノ各項ニ遵フヘシ

一　解剖場ノ周圍ハ柵又ハ板圍ニスルヿ

二　解剖場ノ傍ニ血液等ノ溜壺ヲ設ケ臭氣ノ漏洩セサル樣蓋ヲナスヿ

三　檢査員ノ扣所ヲ設クルヿ

第十條　死畜ノ肉ハ肥料等ノ外食料ノ爲メ販賣又ハ贈與ス可カラス

第十一條　死畜ハ營業者ノ外販賣スルヿヲ得ス

第十二條　死畜ヲ解剖セントスルトキハ獸醫ノ診斷書ヲ添ヘ管轄警察署又ハ分署ヘ届出テ檢査ヲ乞ヒ其肉ハ檢査員ノ指圖ニ從ヒ縱横ニ截切シ石炭油若クハ石炭ヲ撒布スヘシ

第十三條　届未濟ニ係ルモノ及ヒ傳染病ニ罹リタル斃畜ヲ解剖ス可カラス

第十四條　死畜ハ速ニ取片付ヲ爲シ其運搬スルトキハ可成人家稀小ノ道ヲ撰ム可シ

第十五條　營業者ニアラスシテ斃畜ヲ解剖セントスルモノハ第一條第十條第十二條第十三條及ヒ第十四條ノ規則ニ從フ可シ

第十六條　死畜ハ河海原野等ヘ投棄ス可カラス若シ埋沒スルトキハ管轄警察署又ハ分署ヘ届出テ人家及ヒ飲料水河川井泉アル箇所ヲ距ル二丁以外ノ場所外ニ於テ地下六尺以上ヲ堀リ埋沒スヘシ

第十七條　此規則第一條第三條第四條第五條第六條第七條第八條第十條第十一條第十二條第十三條第十四條及ヒ第十六條ニ違背シタルモノハ違警罪ヲ以テ罰セラルヽノ外所犯情狀ニ依リ營業ヲ停止シ又ハ禁止スルヿアルヘシ

願書式ノ一（看板鑑札毀失疾籍住所氏名轉換等ノ願届ハ以下書式ニ準スヘシ）一通

死畜解剖場設置願

何國何郡何區何可村何番地（寄留何府縣）身分

何　誰

私儀今般何國何郡何區何町村何番地（字何地）ヘ死畜解剖場設置致度候ニ付御免許ノ上記號御下付被成下度尤モ場所御差支ノ節ハ何時ニテモ取拂ヒ可申依テ圖面幷ニ四隣地主承諾証相添ヘ此段願上候也

年　號　月　日

右

何　誰　㊞

借地ナレハ地主連署ヲ要ス以下倣之

右願出候ニ付奥印候也

右地主　何　誰㊞

右町村衛生委員　何　誰㊞

右町村戸長　何　誰㊞

大阪府何警察署御中

願書式ノ二　一通

死畜解剖營業取締鑑札下付願

何國何郡區何町村何番地(寄留何府縣)身分　何　誰

私儀今般死畜解剖營業致度候ニ付取締鑑札御下付被成下度此段願上候也

(他人ノ解剖場ヲ借リ解剖スルモノハ其場主ノ連署ヲ要ス)

右　何　誰㊞

右場主　何　誰㊞

右願出候ニ付奥印候也

右町村戸長　何　誰㊞

大阪府何警察署御中

届書式ノ一　一通

死畜解剖場賣渡御届

何國何郡區何町村何番地(寄留何府縣)身分　何　誰

私儀兼テ免許相成居候何國何郡區何町村何番地(字何地)死畜解剖場今般何國何郡區何町村何番地何誰ヘ賣渡候間御認可被成下度最モ場所御差支ノ節ハ何時ニテモ取拂可申依テ双方連署ヲ以テ此段御届申上候也

右　賣渡人　何　誰㊞

住所身分

買受人　何　誰㊞

年　號　月　日

右町村衛生委員

右届出候ニ付奥印候也